

肥前平戸の  
教會堂成る

十二月廿九日 上杉輝虎、上野に入る  
十二月三十日 故飯尾致實の將江島安藝守等、遠江引間城を以て松平家康に屬す  
十一月 中 肥前平戸の耶穌教會堂成る、天成寺と稱す  
是 歲 攝津高槻城主高山友照、耶穌教に改宗す

永祿九年 丙寅 皇紀二二二六年 西曆一五六六年

正月 一日 尼子義久、讒を信じて其老臣宇山久信父子を誅す

正月十一日 赤松政秀、浦上村宗を襲ひて之を仆す、浦上宗景 備前に走る

正月 中 武田晴信、法性院大僧正と稱す

二月 四日 松永久秀、筒井順慶と大和に戦ふ

二月 五日 宇喜多直家、三村家親を美作興善寺に燈し、尋で毛利元就に和を請ひ、備前明禪寺に城を築き三村元親に備ふ

二月十二日 三好義繼、兵を遣して松永久秀の黨を河内瀧山城に攻む、松永久秀、畠山高政、攝津遠里小野に陣す

二月十三日 畠山高政、進んで河内に入る

二月十六日 上杉輝虎の兵、常陸小田城を陥る

二月十七日 三好義繼、畠山高政を和泉に破る○一乘院覺慶、還俗して足利義秋と改名す

二月廿一日 北條綱成、寺田安堵狀を最明寺に授く

二月廿四日 蘆名盛氏、岩代横田城を攻む

一乘院覺慶  
還俗して義  
秋と稱す

松永筒井大  
和に戦ふ

上杉輝虎白  
井城を攻む  
島津氏海戦  
に勝つ

松永久秀三  
好義繼和を  
講ず

二月 中 島津貴久、薙髮して伯圓齋と稱す

三月十九日 伊勢太神宮を修理す

三月 中 上杉輝虎、由良成繁を上野金山城に攻む

三月 中 上杉輝虎、下總臼井城を攻む

三月 中 明の商船、相模に漂著す

四月二十日 島津義久、伊東義祐と海上に戦ひて之を破る

四月廿一日 毛利氏の兵、尼子氏の兵と富田城下に戦ひて敗績す

五月 十日 三村氏の舊臣三村五郎兵衛、宇喜多直家を備前沼城に攻めて敗死す

五月廿三日 松永久秀、兵を率ゐて畠山高政と和泉堺に會す

五月廿四日 毛利氏の將平賀隆祐、富田城を攻む

五月 中 上杉輝虎、兵を越中に出し神保長氏を増山城に攻め、又其將上杉義春を遣はし

て小出城を抜く

六月 一日 松永久秀、畠山高政、力盡きて三好義繼と和を講じ兩軍兵を還す

六月 八日 筒井順慶、大和筒井城を復す

六月十一日 三好義繼等、足利義榮を阿波より迎ふ、是日、兵庫に至る

六月十六日 肝付兼良、北郷時久を大隅岩川城に攻む

七月 十日 關白太政大臣近衛植家薨す年六十五

七月十三日 足利義榮、篠原長房に命じ松永久秀の屬城攝津越水城を攻めて陥る



三好長逸庶政を聽く

細川藤賢本願寺に降る

足利義秋朝倉氏に依る

七月十四日 三好長逸、岩成左通等、兵を率ゐて京都に入り庶政を聽斷す

七月廿九日 上杉輝虎、上野和田城を攻む

八月 三日 足利義秋、三好氏の兵を近江坂本に誘殺す

八月 五日 前内大臣廣橋兼秀薨す年六十一

八月十四日 篠原長房、松永久秀の黨細川藤賢を攝津中島城に攻む、細川藤賢、本願寺光佐に依りて降る

八月十七日 足利義榮、兵を遣はして河内瀧山城を降す

八月廿四日 下野烏山城主那須資胤、佐竹義重の將東政義と戦ひて之を降す

八月廿九日 足利義秋、近江矢島より若狹に走り武田元次に依る

閏 八月 八日 織田信長、齋藤氏の兵と美濃河野島に戦ひて敗績す

閏 八月 九日 三好長逸等、兵を大和片岡に出す

閏 八月十三日 武田晴信、上野新田、足利を略す

閏 八月 中 長曾我部元親、土佐蓮沼城を攻め之を陥る

九月 一日 足利義秋、越前に赴き朝倉義景に依りて金崎城に居る

九月 九日 霧島山噴火す

九月廿三日 足利義榮、攝津越水城に入る

九月廿四日 織田信長、美濃墨俣に壘を築く、尋で木下秀吉をして之を守り、齋藤龍興に當らしむ

筒井順慶京都に入る

京都回復を上杉輝虎に謀る

尼子義久降る

松平家康徳川氏に復す

九月廿五日 筒井順慶、兵を率ゐて京都に入る○松永久秀、井戸某等と大和多聞城西に戦ふ

九月廿九日 下野由良成繁、上杉輝虎に背きて北條氏康に降る

九月 中 伊丹親興、松永久秀に叛して足利義榮に降る

九月 中 武田晴信、上野箕輪城を陥る

十月二十日 上杉輝虎、武田晴信と上野金窪原に戦ふ

十月廿六日 島津貴久等、日向伊東義祐の屬城を攻む○武田晴信、馬場信房を榎島城代と爲す

十月 中 足利義秋、使を越後に遣して上杉輝虎を諭し京都に復歸せん事を謀る

十一月 三日 舟橋良雄薨す年六十八

十一月廿一日 尼子義久、其弟倫久、秀久等遂に出雲富田城を出でて毛利元就に降り、尼子氏滅ぶ

十一月廿八日 毛利元就、富田城を收め、天野隆重をして之を守らしむ

十二月 二日 本願寺光佐、關東の門徒に檄して其の興隆を計らしむ

十二月 七日 足利義榮、攝津越水城より富田普門寺に移る

十二月廿四日 前關白二條晴良を准三后と爲す

十二月廿九日 松平家康、徳川氏に復することを許さる

是 長崎に天主堂十一宇を式立す

永祿 十年 丁卯 皇紀二二二七年 西曆一五六七年



毛利元就治國の要を問ふ

三好義繼松永久秀と和す  
瀧川一益伊勢を略す

備前平定

正月 五日 木下秀吉、美濃宇留馬城に大澤二郎左衛門を攻めて之を降す  
 正月十二日 大覺寺僧正義俊寂す  
 二月 五日 吐田遠長、興福寺僧徒と争ひ尋で之と和す  
 二月 九日 毛利元就、醫曲直瀬正慶に治國の要を問ふ、曲直瀬正慶、鑑戒九條を作りて之に答ふ  
 二月十七日 那須資胤、佐竹義重の將長倉義當を下野に破る  
 二月廿一日 北條氏政、兵を率ゐて上總に入り三船山に陣す、里見義弘、佐貫城より出でて之を襲ひ大に破る、上總、下總の諸城、復た里見氏に屬す  
 二月廿四日 足利義秋、上杉輝虎の來援を求め、越後に下向せんとするの意を告ぐ  
 二月廿六日 三好義繼、松永久秀と和す  
 二月 中 毛利元就、安藝吉田城に凱旋す  
 二月 中 織田信長の部將瀧川一益、北伊勢の諸城を攻略す  
 三月 十日 足利義秋、大覺寺僧義俊を越後に遣はして上杉輝虎、北條氏政と和し幕府復興を求む  
 三月十五日 上杉輝虎、佐竹義重と絶ちて結城義親と結び、尋で越後に還る  
 三月十八日 朝倉義景、其部將堀江景忠を撃ち之を逐ふ  
 三月 中 宇喜多直家、備前明禪寺城を攻めて之を陥れ、三村元親を撃ちて之を逐ひ、備前悉く平定す

上杉輝虎本願寺と和す

伊東義祐島津忠良と和す  
池田勝政東大寺に陣す

四月十一日 三好義繼、松永久秀、大和信貴城より多聞城に入る、三好長逸、之を追撃して奈良に陣す  
 四月十八日 上野厩橋城將北條高廣、北條氏政に降る、築田晴助は下總關宿城に、結城晴朝は結城城に據りて之に抗す  
 四月廿一日 上杉輝虎、本願寺の徒下間頼純を尾山城に攻む、下間頼純好く戦ふ、輝虎、其勇を嘉し和を講じて還る  
 四月廿四日 三好長逸、筒井順慶等、松永久秀の黨を大和天満山、大乘院山に攻む  
 四月 中 上杉輝虎、上野に入り由良成繁を新田城に攻む  
 四月 中 吉川元春、小早川隆景、海に航して伊豫美濃濱に涉り、松山城主宇都宮豊綱を破る  
 四月 中 若狭守護武田義統歿す  
 五月 一日 伊東義祐、島津忠良と和す  
 五月 二日 岩成左通、池田勝政、東大寺に入り大佛殿、二月堂、念佛堂に陣す、松永久秀兵を分ちて戒壇院に據る  
 五月十七日 三好政康は西坂に、池田勝政は西方寺に、岩成左通は水室山法雲院に陣し、進んで多聞城に逼る  
 五月十八日 武田晴信、飛驒より越中に入る  
 五月廿五日 戸田忠重歿して其子康長嗣ぐ、徳川家康之に松平氏を授く、他姓の人に松平氏



織田信長其女を徳川信康に嫁す

を授くるの始なり

五月廿七日

織田信長、其女を徳川信康に嫁す

五月 中

宇喜多直家、戸川秀安を遣はして備中を略し芝場城を抜く

六月十六日

延暦寺僧徒大教坊、福仙坊と争ひ一乘院を攻めて之を焼く

六月 中

武田晴信、兵を率ゐて信越國境を巡視す

七月 七日

高橋鑑種、大友義鎮に叛して筑前寶満山、岩谷の諸城に據る、秋月種實、筑紫廣門等、之に應ず、大友義鎮、戸次鑑連、吉弘鑑理等を遣はして之を撃ち岩谷城を抜き、筑紫廣門を降す

東大寺戒壇院焼く

七月十三日

島津義久、樺山幸久と盟約す

七月廿三日

三好長逸、松永久秀と東大寺に戦ひ戒壇院を焼く

七月廿七日

松永久秀、西岡に兵を出して所在に放火す

七月 中

武田晴信、今川氏眞と絶ちて徳川家康に好を通ず

八月 五日

前内大臣廣橋兼秀薨す年六十二

八月十五日

白杵鑑速、戸次鑑連等、筑前秋月城を抜く、城主秋月種實古所山に走る

八月 中

織田信長、伊勢桑名に入り楠城を降し、進んで高岡城を攻む、尋で岐阜に還る

九月 五日

根來寺僧徒、松永久秀の屬城幸田城を攻めて克たず、尋で河内烏帽子形城を攻む

九月 十日

宗像氏貞、立花氏の兵と飯富に戦ひて之を破る

信長伊勢に入る

三好三黨大佛殿に敗る

十月 六日

北條氏康、北條氏政、兵を率ゐて上杉輝虎を上野厩橋城に攻む

十月 十日

松永久秀、東大寺大佛殿を焼き、三好政康等を撃ちて大に之を破る

十月十三日

武田晴信、部下の衣服兵器及び從軍條例を定む

十月十九日

武田晴信、其子武田義信を弑す年三十〇今川氏眞、武田晴信と絶ち上杉輝虎と結ぶ

十月廿一日

三好長逸、飯盛城を攻めて之を取る

十一月 九日

天皇、勸修寺晴豊を岐阜に遣はして密勅を織田信長に賜ひ、禁中修理、皇子御元服及び美濃尾張御料所復舊を命じ給ふ

十一月十七日

足利義榮、將軍宣下を請ふ、許されず

十一月二十日

足利義秋、關東諸國に令して幕府を恢復せしむ

十一月廿一日

織田信長、其子信忠の爲めに武田晴信の女を娶ることを約す〇加賀一向宗徒、朝倉義景と講和す

十一月廿四日

菱刈隆秋、島津氏に叛す、島津貴久、薩摩馬越城に攻めて之を抜く、隆秋走りて大口城に據る

十一月 中

三好長治、細川眞之等、攝津越水城を去つて和泉堺城に入る

十二月 二日

武田晴信、大井左馬允を上野箕輪城代と爲す

十二月 三日

僧妙安寂す年八十八詩淵一葉 高橋集

十二月十五日

足利義秋、朝倉義景に令して本願寺光佐と和を講じ二境の城壘を毀たしむ

信長密勅を拜す



十二月廿五日 朝倉義景、足利義秋を越前一乗谷城に饗す  
十二月廿七日 毛利元就、三村元親の屬城國吉城を抜く、城將手政親、備中松山城に奔る  
永祿十一年 戊辰 皇紀二三二八年 西曆一五六八年

正月 二日 毛利輝元、兵を率ゐて三村元親を備中に攻め、其屬城鬼身、杠葉手城等を抜き、進で松山城を攻め元親を斃す

正月十二日 伊東義祐、肝付良兼等、日向飢肥城に島津忠親を攻む

正月二十日 島津義久、菱刈隆秋を堂崎に攻む

正月廿一日 島津忠親、伊東義祐と戦ひて之を破る

正月廿五日 正親町實福薨す年三十三

正月廿七日 僧宗套寂す年八十九

正月 中 上杉輝虎、武田晴信に鹽を贈る

正月 中 常陸小田氏治、上杉輝虎に叛す

二月 八日 足利義榮を征夷大將軍と爲す

二月十一日 奈良大阪堺の一向宗徒、岩佐左通に請ひ、將に其道場を烏芋峰に建てんとす、興福寺僧徒之を拒む

二月十六日 徳川家康、武田晴信と約し大井川を境として今川氏眞の所領駿河、遠江兩國を分割し誓書を交換す

二月 中 織田信長、再び兵を率ゐて伊勢に入り神戸城を攻む、尋で城主神戸友盛と和し

上杉輝虎甲斐に鹽を贈る

足利義榮に將軍宣下

武田晴信越後侵入を謀る

東大寺大佛造營費を諸國に課す

足利義秋名を義昭と改む

三男信孝を以て友盛の嗣と爲す

三月 六日 足利義秋、武田晴信、北條氏康をして協力上洛せしむ

三月十三日 武田晴信、蘆名盛氏、伊達輝宗、大寶寺義氏等と通じ、上杉輝虎の將本庄繁長を誘ひ、又越中の一向宗徒と結び、椎名泰胤を誘ひ、越後侵入を計畫す

三月十四日 十市遠勝、三好康長、篠原長房と盟し尋で大和森屋城を攻めて之を取る

三月廿三日 菱刈隆秋、再び薩摩曾木城を攻め、轉じて市山城を攻む、島津氏の將新納忠元逆戦して之を却く

三月廿五日 三好義繼、大和多聞城を去つて津田城に入り松永久秀と議し足利義秋、織田信長に欵を通ず○上杉輝虎、椎名泰胤を攻めんとし越中に入り放生津に陣す、是日、本庄繁長の叛を聞き直に軍を班す

三月廿七日 諸國に課し東大寺毘盧舍那佛を造らしむ

三月 中 徳川家康、遠江を侵して久能、二俣、高藪、西家、堀川の諸城を降し軍を班す

三月 中 徳川家康、遠江宇津山城に小原資良を攻めて之を取る

四月十五日 貞康親王薨す年二十二○足利義秋、元服を加へ名を義昭と改め、朝倉義景を管領代と爲す

四月廿四日 大友義鎮の將戸次鑑連、筑前立花城を陥る、城主立花鑑載自殺す○筑前柑子岳城守將臼杵鎮富、高祖城を攻めて之を陥る、城將原田親種走りて筑後高良山を保つ



北條氏康上  
杉輝虎盟約

毛利氏伊豫  
を略す

三好長逸入  
京す

尼子氏再興  
を計る

四月廿五日 北條氏康、上杉輝虎と盟書を交換して其子三郎を越後に送り、輝虎の養子と爲し名を景虎と改む

四月中 淺井長政、織田信長の妹を娶る

四月中 毛利元就、小早川隆景、吉川元春を遣はし、河野通直を援けて伊豫大津城を攻め城主宇都宮豊綱を降す

五月十七日 朝倉義景、足利義昭を越前一乗谷城に饗す

五月二十日 北條氏康、兵を遣して多賀谷政経を常陸下妻城に攻む

五月廿三日 總持寺を勅願寺と爲す

五月廿九日 三好政康、篠原長房等、大和を去つて河内に還る

六月 二日 三好長逸、京都に入る

六月 三日 筒井順慶、大和石切に城を築く

六月 八日 日向飢肥城將島津忠親、城を棄て櫛間に走る

六月十五日 島津義久、北郷時久と盟ふ

六月廿九日 三好康長、大和信貴城を攻む、城主細川藤賢、本願寺光佐に依りて和を請ひ近江石山に走る

六月中 織田信忠、武田晴信の女を娶る

六月中 山中幸盛、立原久綱等、尼子勝久を擁して再舉を圖り但馬に至る

六月中 織田信長、武田晴信の使者秋山晴近を饗す

足利義昭織  
田信長に囑  
す

信長足利義  
昭に謁す

信長岐阜を  
發す

信長入洛を  
上杉氏に報  
ず

六月中 足利義昭、細川藤孝等を織田信長に遣して其翼戴を求む

七月十六日 武田晴信、信濃に軍し、遙に本莊繁長に聲援して椎名泰胤を援く

七月十九日 伊東義祐、日向櫛間を抜く、島津忠親莊内に奔る

七月廿五日 織田信長、足利義昭を越前より美濃立正寺に迎へ館せしむ

七月廿七日 織田信長、足利義昭に謁し刀馬鎧香絹錢等を獻ず

八月 二日 原田親種等、筑前立花城を攻めて大敗し高祖城に走る

八月 七日 織田信長、近江佐和山城に至り淺井長政と會す

八月十八日 十河氏の兵、松永久秀の屬城大和富野城を抜く

八月中 小早川隆景等、伊豫を悉く平定して河野通直を守護と爲し凱旋す

九月 七日 織田信長、兵を率ゐて岐阜城を發す

九月十一日 織田信長、近江愛知川附近に陣し、淺井長政と俱に觀音寺、箕作兩城を攻む○

下野那須資胤、大關高増と和す

九月十二日 織田信長、近江箕作城を攻めて之を陥る、六角義賢、觀音寺城を棄てて伊賀に

走る

九月十三日 織田信長、近江觀音寺城に入り、日野城將蒲生賢秀等を降す

九月十四日 織田信長、不破光治を遣し捷を美濃の足利義昭に報ず

九月十六日 三好政康、兵を率ゐて西京に陣す

九月廿一日 織田信長、書を上杉輝虎に送りて入洛を報じ近江柏原上菩提院に至る○足利義



昭美濃立正寺を發す

九月廿二日 織田信長、桑實寺に至る

九月廿三日 足利義昭、近江守山に於て織田信長と會す

九月廿四日 柳本某、丹波より入洛し京都の近郊に火を放つ

九月廿六日 織田信長、近江琵琶湖を渡りて三井寺極樂院に陣す○三好黨、京都を棄てて奔

り、細川晴賢、荒木村重、京極高吉、朽木貞綱等、歎を送りて織田信長に降る

九月廿七日 足利義昭、湖を渡りて三井寺光淨院に陣す

九月廿八日 織田信長、足利義昭と俱に京都に入りて東福寺に陣し、足利義昭は清水寺に館

す

九月廿九日 織田信長、山城勝龍寺城に岩成左通を攻めて之を降す

九月三十日 織田信長、攝津に入り山崎に陣し芥川、越水兩城を降す○三好長逸、將軍足利

義榮を奉じて阿波に奔る○足利義昭、攝津芥川城に入る

九月 中 上杉輝虎、上野厩橋城に北條氏康と會す

九月 中 織田信長、切支丹伴天連のために京都四條坊門に永祿寺を建つ、延曆寺徒、奏

請して南蠻寺と改む

九月 中 小笠原長時、越後に赴き上杉輝虎に依る

十月 二日 織田信長、攝津池田城を攻めて池田勝政を降す、三好義繼、松永久秀亦降る○

織田信長、攝津和泉に矢錢を課す

織田信長入京

足利義榮阿波に奔る

南蠻寺を建つ

攝津和泉に矢錢を課す

足利義昭凱旋

義昭將軍宣下

十月 八日 征夷大將軍足利義榮薨す年三十一○松永久秀、其子久通を遣はして大和筒井城

を攻む、城主筒井順慶、窪城に走りて織田信長に降る

十月十二日 織田信長、榜を京都に掲げて兵士の掠奪を嚴禁す

十月十四日 織田信長、畿内を平定し足利義昭と俱に京都に凱旋し、義昭は本國寺に信長は

東山清水寺に館す。

十月十八日 足利義昭を征夷大將軍と爲す

十月廿二日 將軍足利義昭、參内す

十月廿三日 足利義昭、織田信長を副將軍に補し管領と爲す、信長固辭して之を受けず

十月廿五日 將軍足利義昭、二通の感謝狀を織田信長に與へ尊んで父と稱す

十月廿六日 織田信長、京都を發し歸國の途に就く

十月廿八日 織田信長、岐阜に還る

十月 中 武田晴信、再び上杉輝虎と絶つ

十月 中 織田信長、始て大津代官を置く

十月 中 尼子勝久、兵を擧ぐ備前、備後、美作、皆之に應ず

十一月 三日 武田晴信、今川氏眞と隙あり、駿甲兩國の通路を絶つ

十一月 五日 吉川元春、小早川隆景、豊前の三嶽城を抜き城將長野通勝を斬る

十一月 七日 上杉輝虎、越後本莊城に本莊繁長を攻む

十一月 九日 松永久通、十市遠勝を攻めて大和大西城を取る

大津代官を置く  
尼子勝久兵を擧ぐ



近衛前嗣出奔

十一月十二日 廣橋國光薨す年四十二  
 十一月十六日 關白近衛前嗣を罷め、前關白二條晴良之に代る  
 十一月廿八日 肥後熊本城守將菊池鎮成、肥前妙夫寺殿に自殺す  
 十一月 中 關白近衛前嗣、薩摩に出奔す  
 十二月十二日 武田晴信、徳川家康と約し駿河に入りて今川氏眞を撃破し駿府を焼く  
 十二月十三日 徳川家康、遠江に入り井伊谷城を抜く、今川氏眞、遠江掛川城に逃る○島津忠良歿す年七十七

十二月十五日 皇子誠仁を親王と爲す

十二月廿二日 徳川家康、近江掛川城に逼る

十二月廿三日 武田晴信、徳川家康に書を遣り掛川城に逼らんことを求む

十二月廿四日 上杉輝虎、北條氏康と三條を約す

上杉輝虎北條氏康と約す

十二月廿五日 今川氏眞、援を上杉輝虎に請ふ

十二月廿七日 徳川家康、掛川城下を焼き之を攻む

十二月廿八日 三好長祿、三好政康等、足利義昭に叛を圖る

十二月 中 天皇、山科言繼を岐阜に遣はし織田信長に勅旨を傳へしめ給ふ

永祿十二年 己巳 皇紀三三三九年 西歷一五六九年

三好黨蜂起

正月 一日 三好政康等、兵を擧げて阿波より攝津に入る、松永久秀、岩成左通等、叛して之に應ず

正月 二日 三好政康等、進んで和泉家原城を攻めて之を陥る○北條氏康、上杉輝虎に和親を求む

正月 三日 三好政康等、大阪牧方に火を縦ち、進んで京都に入り東福寺に陣す

正月 四日 三好政康、薬師寺貞春、松永久秀、岩成左通等、京都本國寺に足利義昭を攻む

三好黨京都を襲ふ

正月 五日 三好義繼、伊丹親興、池田勝政、荒木村重等、京都に入り三好政長等を撃破す

正月 六日 京都の變報岐阜に達す、織田信長、即時發して京都に向ふ

正月 七日 天皇、萬里小路輔房を本國寺に遣はして將軍足利義昭の安否を下問し給ふ

織田信長入京

正月 八日 徳川家康、遠江引間城を攻む、城將朝比奈兵衛尉、城を棄てて掛川城に入る

正月 十日 織田信長、京都に入り本國寺に足利義昭を訪ふ、松永久秀、岩成友通等復た降る

正月 十一日 大友義鎮、兵を率ゐて龍造寺隆信を攻む

幕府の條制を定む

正月 十三日 繪師土佐光之歿す年四十

正月 十四日 織田信長、幕府の條制を定む

正月 十六日 徳川家康、今川氏眞を遠江掛川城に圍み藤山に陣す

正月 十八日 北條氏康、北條氏政、兵を率ゐて今川氏眞援助の爲め伊豆三島に至る○武田晴信、駿河久能山に陣し、其將武田信豊をして薩埵山に據らしむ

正月 二十日 今川氏眞の將日根野弘成、徳川氏の將久能宗能を駿河金丸山砦に攻め、之を走らす

正月 廿二日 徳川家康、今川氏眞の兵と戦ふ



正月廿三日 今川氏の兵天王山に陣す、松平家康の兵之を撃退す  
正月廿六日 北條氏康の將北條氏規、大導寺政繁、進んで駿河薩埵峠に陣す、武田晴信之に對して興津に陣す○上杉輝虎、武藏に入り羽生、須賀を攻略し、進んで上野に入り山上城を攻めて之を陥る

將軍邸を新造す

正月中 足利義昭、使を毛利元就に遣して大友義鎮と和せしむ

二月 二日 織田信長、足利義昭の二條新第を造營す。

二月 六日 北條氏康、今川氏眞等、使を上杉輝虎に遣はし越相の講和を求む

二月 七日 德川家康、兵を遠江見附に遣はし城塞を築き、又本多忠勝等を遣して下都築、濱名の諸城を抜く

二月十八日 上杉輝虎、德川家康と好を通ず

二月中 織田信長、管内諸國の關を撤し交易の錢を用ひしむ

淺井長政、長と隙あり

二月中 淺井長政、織田信長と隙あり、近江に還りて六角義賢と和す

撰錢令を頒つ

三月 一日 織田信長、撰錢令を頒つ

三月 二日 勅して織田信長を副將軍とし給ふ、信長、之を固辭す

三月 三日 織田信長、武人の公卿の采地を掠奪せしを還さしむ

尼崎に矢錢を課す

三月 五日 德川家康、再び掛川城を攻む

三月 六日 織田信長、矢錢を尼崎に課す、市民之を拒み相争ふ

三月 七日 德川家康、遠江西宿城を攻む、城將朝比奈泰能之を防ぐ

今川氏眞、德川家康に和を請ふ

三月 八日 今川氏眞、德川家康に和を請ふ

三月廿三日 大友氏の將戸次鑑連、龍造寺隆信に挑戦す

三月廿六日 上杉輝虎、本莊繁長の降を納れ軍を旋す

三月廿七日 將軍足利義昭、其妹を三好義繼に嫁す

皇居の修理

四月 三日 織田信長、内裏の修造を開始し、朝日山日乘、島田彌右衛門尉をして之を奉行せしむ

四月 六日 龍造寺隆信、大友義鎮と和す

四月 八日 織田信長、耶蘇教僧フロイスの京都に居住する事を許す

四月十二日 德川家康、兵を遣し遠江堀江城を陥れ城將大澤基胤を降し、尋で堀川城を抜く

四月十五日 將軍足利義昭、二條新第に移る

四月十九日 武田晴信、駿河江尻、清水に城を築く

四月廿一日 織田信長、木下秀吉を京都留守と爲し京都を發す○僧宗用寂す年七十二

四月廿三日 織田信長、岐阜に還る

四月廿五日 耶蘇教僧フロイスに綸旨を賜ひ、京都の布教を許さる○武田晴信の將山縣昌景、遠江城東郡を侵し德川家康と相闘ふ

四月廿八日 武田晴信、遽に兵を收めて駿河興津より甲府に入る、北條氏康、亦兵を收めて小田原に退く

四月中 織田信長、朝倉義景に入京を促す

耶蘇教京都布教の綸旨を賜ふ



耶蘇教と日蓮宗の宗論

四月中 耶蘇教僧フロイス、朝日山日乗と宗論を行ふ

四月中 吉川元春、小早川隆景、筑前立花城に逼る

五月五日 大友義鎮、其將柳川左鎮、戸次鑑連を遣して筑前立花城を救はしむ

五月六日 大友義鎮、兵を率ゐて筑後高良山に陣す

五月十三日 大友義鎮の將高橋鑑種、筑前寶満城に據りて毛利氏に應ず

五月十六日 松永久秀、大和井戸城を攻む

五月十七日 今川氏眞、遠江掛川城を徳川家康に致し、伊豆戸倉に移る

五月十八日 筑前立花城主立花親續、毛利元就に降る

五月廿三日 北條氏政、其子氏直を今川氏眞の養子たらしむ

五月三十日 幕府、寺田守堵狀を多田院に授く

五月中 織田信長、耶蘇教僧フロイスを岐阜城に引見す

閏五月三日 上杉輝虎、誓書を北條氏康に送る

閏五月廿一日 秋月種實、大友義鎮に降る

閏五月廿二日 徳川家康、石川家成に掛川城を與へ、西三河の旗頭と爲す

六月一日 大友義鎮、諸將を留めて府城に入る

六月十三日 吉野僧徒、多武峯僧徒と戦ひ龍門郷を燒く

六月十六日 武田晴信、駿河に入る

六月十九日 徳川家康、遠江天方、飯田兩城を攻めて之を陥る○土御門有春薨す年六十九

立花親續毛利氏に降る

輝虎誓書を氏康に送る

武田晴信伊豆に敗る

尼子勝久の舉兵

但馬を平定

織田信長伊勢を侵す

六月二十日 武田晴信、伊豆に入り三島を燒き加波鳴島に陣す、北條氏康、來襲して大に之を破る

六月廿三日 山中幸盛、立原久綱等、尼子勝久を奉じて出雲に入り新山城を抜き、毛利氏の將天野隆重を富田城に攻む

六月中 伯耆高瀬城主米原綱寛、毛利元就に背き尼子勝久に應ず

七月一日 朝鮮の醫師李一徳、筑前に來る

七月十一日 北條氏邦の兵、武田氏の兵と三上谷に戦ふ

七月十七日 山中幸盛、立原久綱等、出雲富田城を攻む

七月十八日 一向宗徒、道場を檜原御所庄に建つ、東大寺衆徒之を拒み道場を破壊す

八月一日 織田信長、伊丹親興、池田勝政を但馬に遣はし山名祐豊を攻めて之を降す

八月三日 山名の遺臣藤井皓玄、兵を擧げ尼子氏に應ず

八月十日 武田晴信、大井小兵衛に上野箕輪城を守らしむ

八月十一日 長曾我部元親、土佐安藝城を抜き、守將安藝國虎自殺す

八月十三日 織田信長、毛利氏に應じ兵を但馬に出す

八月二十日 織田信長、兵を率ゐて岐阜を發し伊勢に向ふ

八月廿三日 織田信長、伊勢に入り木造城に陣す

八月廿六日 木下秀吉、伊勢阿坂城を陥れ守將大宮念忍を降す、阿濃津、淺香城等悉く陥る

八月廿八日 織田信長、諸將の部署を定め伊勢大河内城を攻む



晴信相模に入る

八月廿九日 大友義鎮の將田原親堅、豊前彦山衆徒と戦ひて敗績す  
 八月 中 遊佐美作等、其主畠山義則を能登より逐ひ、其子義隆を立つ  
 八月 中 武田晴信、兵を二手に分ち信濃、上野、武藏を徇へ相模に入る  
 八月 中 備前宇喜多直家、備中に入り松山、鳴輪、齊田の諸城を降す  
 八月 中 織田信長、今濱田一萬石を木下秀吉に與ふ  
 九月 八日 織田信長の將池田信輝、丹羽長秀等、大河内城西郭を攻む、日置大膳等撃ちて之を却く

晴信武藏を侵す

九月 九日 瀧川一益、伊勢夷多藝城を燒く  
 九月 十日 薩摩大口城主相良義陽、島津義久に降る○武田晴信、里見義弘に好を通ず○武田晴信、武藏に入り八王子城を攻む  
 九月十三日 大友義鎮の將大内輝弘、長門山口に入りて毛利氏の將井上就貞を仆し、築山龍福寺に陣す

伊勢平定

九月 中 武田晴信、其子勝頼を遣はし北條氏照を武藏瀧山に攻む  
 十月 二日 延暦寺僧徒、織田信長の美濃領地押領を朝廷に訴ふ  
 十月 三日 武田晴信、相模小田原城に至る  
 十月 四日 伊勢國司北畠具教、織田信長に和を請ひ其子信雄を養子と爲す○織田信雄は伊勢大河内城に、織田信孝は神戸城に入り、北畠具教は三瀬城に退く  
 十月 五日 織田信長、山田に赴く

織田信長凱旋

十月 六日 織田信長、伊勢大神宮に詣づ○武田晴信、小田原城に逼る、北條氏康、敢て出でず、依て晴信兵を退けんとし三増峠に於て北條氏照、北條氏規等と戦ふ  
 十月 八日 武田晴信、三増峠に北條氏輝、北條綱成、北條氏政等と戦ひ大に之を破る  
 十月十一日 織田信長、京都に凱旋し足利義昭に謁す○大友義鎮、兵を周防に出し大内輝弘を援けて毛利氏の虚を衝く

信長足利義昭と協はず

十月十三日 織田信長、參朝す  
 十月十五日 吉川元春、小早川隆景、筑前より長府に入る、大友氏の兵之を追撃す  
 十月十七日 織田信長、足利義昭と協はず、岐阜に歸る  
 十月二十日 佐竹義重、小田氏治を攻めて常陸小田城を陥る  
 十月廿四日 織田信長、延暦寺の莊園を收む、僧徒之を訴ふ  
 十月廿五日 吉川元春、長府を發し大内輝弘と戦ひて之を仆す  
 十月廿六日 朝廷、織田信長に延暦寺莊園還附の御沙汰を下す  
 十月廿七日 上杉輝虎、河田長親をして越中を守らしめ越後に入る  
 十月廿八日 毛利元就、諸軍を率ゐて安藝吉田城に歸る

近畿諸國の關門を撤す

十月 中 織田信長、近畿諸國の關門を撤す  
 十月 中 織田信長、其女を蒲生氏郷に嫁す  
 十月 中 織田信雄、北畠具教の女を娶り其養子と爲る  
 十月 中 松永久秀、大和筒井城を陥る、筒井順慶、片岡春利等之を復す



高橋鑑種大友義鎮に降る

十二月十五日 筑前寶滿城主高橋鑑種、大友義鎮に降る  
十一月二十日 上杉輝虎、上野沼田城に入る、尋で佐野、館林等の諸城を攻む  
十一月廿一日 大友義鎮、筑前立花城に坂元祐等を攻めて之を降す  
十一月廿三日 北條氏康、小田原城を修理す  
十一月廿八日 武田晴信、駿河に侵入し北條氏の諸城を掠む  
十一月 中 織田信長、京都二條城を築く

武田晴信駿河を侵す

十二月 六日 武田晴信、駿河蒲原城に北條氏時を攻めて之を陥る  
十二月 七日 武田晴信、進んで駿河府中城を取る  
十二月廿九日 毛利元就、兵を出雲富田城に遣はし天野隆重を援く

元龜元年 庚午 皇紀二三三〇年 西歷一五七〇年 四月二十三日改元

正月十三日 織田信長、鯨肉を獻す

正月十五日 上杉輝虎、佐野昌綱を上野佐野城に攻む

正月十六日 武田晴信、駿河花澤城を攻めて之を抜く、守將小原資良、三浦義鎮、逃れて遠江高天神城に走り、小笠原長忠の爲めに殺さる

正月十八日 毛利輝元、尼子氏の屬城石見都賀城を取る

正月廿三日 織田信長、條書を足利義昭に致して之を承認せしむ

正月廿八日 毛利輝元、出雲に入り、多久和城を陥る

正月 中 宇喜多直家、尼子勝久の將秋上綱平と備中に入り高山、松山の諸城を降す、毛

引間新城を濱松城と改む

正月 中 利元清兵を率ゐて之と戦ひ、松山城將庄高資を斬り、齊田城將植木資富を誅す  
徳川家康、遠江引間新城を濱松城と稱し之に移り、徳川信康をして三河岡崎城を守らしむ

本願寺の移轉を望む

正月 中 織田信長、使を遣はし石山本願寺の移轉を要望す、本願寺之を聽かず  
正月 中 武田晴信、駿河藤枝、徳野、一色の諸城を降し、馬場信房を藤枝城に、山縣昌景を江尻城に置く

毛利輝元尼子氏を攻む

二月 二日 皇居の修理を始む  
二月十四日 毛利輝元、出雲富部子城を攻めて之を抜く、尼子氏の將山中幸盛、伯耆新山城に奔る

織田信長入京

二月十八日 織田信長、使を武田晴信の駿河江尻陣營に遣はし、徳川家康と共に好を結ぶ  
二月十九日 武田晴信、江間堅清に命じて佐竹義重と款を通ず  
二月廿四日 吉川元春、出雲末次城を陥れ尼子勝久を走らす  
二月廿五日 織田信長、岐阜を發す  
二月廿六日 織田信長、近江常樂寺に抵る  
二月三十日 織田信長、京都に入る

二月 中 北條氏康、兵を遣はして上杉憲盛を武藏深谷城に攻む  
三月 一日 織田信長、參朝して皇居の工事を視る  
三月 二日 島津義久、琉球王尙元に書を贈り舊好を修す



徳川家康入京の富豪より徴發す

三月 七日 徳川家康、兵を率ゐて京都に入る  
三月 中 織田信長、和泉堺の富豪等より名物茶器を徴發す  
三月 中 朝尾持忠、上杉輝虎と能登鶴巢に戦ひて敗死す  
三月 中 毛利輝元、熊野兵庫を出雲熊野城に攻む  
四月 五日 北條氏政の弟北條氏秀、上杉輝虎の養子と爲りて小田原城を發す○松永久秀、大和井戸城を陥る

朝倉義景を討つ

四月十四日 上杉輝虎、上野沼田に陣す、武田晴信、高坂昌宣を遣はして其動靜を伺ふ  
四月十七日 毛利輝元、出雲牛尾城を攻め長尾彈正忠を仆し、更に小倉、高瀬、手崎の諸城を抜き進んで山中幸盛を新山城に攻む  
四月二十日 織田信長、京都を發して朝倉義景討伐の途に就く  
四月廿二日 大友義鎮、龍造寺隆信を肥前佐賀城に攻む  
四月廿三日 改元あり

改元 淺井長政義景に應ず

四月廿五日 織田信長、徳川家康と越前敦賀に會す○木下秀吉、手筒城を攻めて之を陥る、守將寺田采女戦死す○淺井久政、淺井長政、近江小谷城に據り朝倉義景に應ず  
四月廿六日 織田信長、越前金ヶ崎城を抜き朝倉景恒を降す  
四月廿八日 織田信長、徳川家康等、淺井長政、六角義賢、擧兵の報に接して越前敦賀より兵を撤す、木下秀吉金ヶ崎城に殿軍す  
四月廿九日 織田信長、兵を率ゐて近江朽木谷に至る

武田晴信義昭に献金す

四月三十日 織田信長、京都に還る  
四月 中 吉川元春、出雲三笠山を抜き進んで熊野城を陥る  
四月 中 武田晴信、足利義昭に一萬匹の御料を進献す  
五月 六日 徳川家康京都に入る  
五月 九日 織田信長、京都を發し近江に入り、部將森可成をして滋賀宇佐山城を守らしむ  
五月十三日 織田信長、近江永原に至り、木下秀吉に長濱城を、佐久間信盛に永原城を、柴田勝家に長光寺城を、中川清秀に安土城を守らしむ  
五月十八日 徳川家康京都を發し濱松に還る  
五月十九日 佐竹義重、太田資正を遣はし常陸小田城を守らしむ  
五月二十日 織田信長、岐阜に還らんとし、近江千種越に於て六角義賢の爲に狙撃さる  
五月廿一日 織田信長岐阜に還る

織田信長岐阜に還る

五月 中 北條氏政、武田晴信と西上野に對陣す  
六月 四日 六角義賢、其子義弼を遣はし柴田勝家を近江長光寺城に攻む、勝家激戦して大に之を破る○木下秀吉、近江釜川城將堀次郎、樋口兼益を降す  
六月 六日 松永久秀、大和福住城を攻め、尋で郡山城を攻む  
六月十七日 織田信長、岐阜より近江に入る  
六月十八日 攝津池田城主池田勝政、池田知政に逐はる  
六月十九日 織田信長、近江北郡に至り小田村に進む



信長小谷城を攻む

六月二十日 將軍足利義昭、淺井長政を親征せんとして果さず  
 六月廿一日 織田信長、近江小谷城に逼り、城下に放火し、虎御前山に陣す  
 六月廿二日 織田信長、近江龍ヶ鼻に陣を移す  
 六月廿四日 織田信長、近江横山城に逼る  
 六月廿五日 淺井長政、近江小谷城の東大寄山に陣す  
 六月廿六日 朝倉義景の將朝倉景健、援軍を率ゐて近江小谷城に著す○徳川家康、兵を率ゐて三河岡崎城を發す○三好義繼、池田勝政京都に入る  
 六月廿七日 徳川家康、近江に入り龍ヶ鼻に著す、織田信長之と會す  
 六月廿八日 織田信長、徳川家康、近江姉川に於て淺井長政、朝倉景健と戦ひ大に之を破る  
 七月 一日 織田信長、近江佐和山城に磯野員正を攻む  
 七月 四日 織田信長、京都に凱旋す  
 七月 八日 織田信長は岐阜に、徳川家康は濱松に歸る  
 七月廿一日 三好長逸、三好康長、細川信良攝津に入る  
 七月廿五日 三好康長、齊藤龍興、三好長逸、細川藤賢等の餘黨、大和天満森に陣す、松永久秀出でて信貴山に備ふ  
 七月廿七日 筒井順慶、大和十市城に入り、尋で大和を攻略す  
 八月 一日 上杉輝虎、徳川家康と好を修む  
 八月十一日 佐竹義重、下野大山田城を取る

姉川の戦  
信長凱旋

上杉輝虎徳川家康と修交す

八月十七日 三好康長、三好長逸等、畠山昭高、三好義繼を近江古橋に撃ちて之を破る  
 八月二十日 織田信長、岐阜を發し近江横山城に赴く○龍造寺隆信、大友義鎮の兵を肥前今山に破る

織田信長入京

八月廿一日 三好長逸等、天王寺に陣す  
 八月廿三日 織田信長、京都に入り、三好三黨討伐の部署を定む○冷泉爲益薨す年五十七  
 八月廿五日 織田信長、京都を發し牧方に陣す  
 八月廿六日 鍋島信生、肥前多久城を抜く  
 八月廿六日 織田信長、攝津天王寺に陣し野田、福島を攻む  
 八月廿八日 徳川竹千代、元服を加へ名を信康と曰ふ  
 八月三十日 將軍足利義昭、京都を發して攝津中島に出陣す  
 八月 中 武田晴信、伊豆を侵し、駿河江尻に城を築く  
 九月 三日 將軍足利義昭、攝津中島城に移る○大村純忠、洗禮を受く  
 九月 五日 松永久秀、大和片岡城を抜く、城主片岡春之、達摩寺に走る○毛利輝元、軍を出雲より班す○武田晴信、兵を武藏に出す  
 九月 八日 石山本願寺光佐、兵を擧げて三好三黨に通じ兵糧を野田、福島に送る、織田信長、砦を樓岸川口に築き之に備ふ  
 九月 九日 織田信長、攝津森中に陣を移す○本願寺光佐、書を五畿及び紀伊、越前諸國の一揆に移して擧兵せしむ

本願寺光佐擧兵



延曆寺僧徒  
信長に抗す

六角義賢舉  
兵

信長近江に  
入る

九月 十日 織田信長、諸將に令して野田、福島兩城の濠を埋む

九月 十二日 織田信長、足利義昭、海老江に陣し野田、福島兩城を攻む

九月 十三日 本願寺光佐、樓岸、川口の兩寨を攻め野田、福島に應ず

九月 十四日 石山兵、織田信長の兵を大に破る

九月 十八日 織田信長、再び石山兵と戦ひて敗績す

九月 十九日 織田信長の攝津を攻むるに乗じて朝倉義景、浅井長政、近江坂本を侵し宇佐山城を攻む、城將森可成、織田信治之を防ぎて戦死す○延曆寺僧徒、朝倉義景に應じて兵を起し勢多橋を斷ち、織田信長の歸路を扼す

九月 二十日 朝倉景健、浅井長政、大津の所在に放火す

九月 廿一日 朝倉、浅井兩氏の兵、醍醐、山科に火を縦ち京都に逼る、六角義賢兵を舉げ之に應ず

九月 廿二日 織田信長、京都の警報に接す

九月 廿三日 織田信長、兵を率ゐて攝津より京都に還る

九月 廿四日 織田信長、近江に入り宇佐山に陣し、足利義昭は將軍塚に次す、浅井長政、朝倉景健、比叡山に據りて之に對峙す

九月 廿五日 織田信長、比叡山麓を圍み諸處に壘を築く

九月 廿八日 三好長治、篠原長房等攝津尼ヶ崎に陣し、河原林城を攻めて、城將河原林三河守を斬る

長島一向一  
揆

北條氏康歿  
す  
徳政を行ふ

本願寺光佐  
の活躍

九 月 中 大友義鎮、龍造寺隆信と和す

九 月 中 長島一向宗徒、本願寺光佐に應ず、織田氏の將瀧川一益之を撃ちて利あらず

九 月 中 武田晴信伊豆に入り韭山に至る、北條氏政、箱根驛に激戦し、尋で三島に追蹙し、敗績して小田原城に歸る

十 月 一日 耶蘇宣教師トレー、肥前にて歿す年七十四

十 月 二日 徳川家康、兵を近江に出し、織田信長を援く

十 月 三日 北條氏康歿す年五十七むさし野の紀行

十 月 四日 幕府、徳政を行ふ

十 月 五日 尼子勝久、伯耆末次城に毛利氏の將河口久氏を攻め、尋いで新山城に歸る

十 月 八日 徳川家康、更に誓書を上杉輝虎に納む

十 月 十五日 能役者觀世又三郎歿す

十 月 二十日 浅井長政、朝倉景健の兵、一乗寺、誠樂寺を焼く

十 月 廿一日 本願寺光佐、一向宗徒をして伊勢長島城に據りて織田信長に抗せしむ

十 月 廿二日 一向宗徒、三牧城を取る、細川藤孝等攻めて之を復す○本願寺光佐、河内高屋城を攻む○三好長逸等、河内烏帽子形城を攻めて敗退す

十 月 廿四日 僧兼順寂す年七十二紀祖門事實諸寺緣由、及故

十 月 廿六日 大中臣朝忠薨す年七十三裡書一卷、今古獨語二卷

十 月 中 越中富山城主神保氏春、一向宗徒等と上杉氏の屬城魚津、小井手兩城を攻む○



十月中 上杉輝虎、上野より至り富山城を攻む  
 十一月 六日 長曾我部親泰、土佐蓮池に逼り尋で戸波城を取る  
 十一月十六日 織田信長、勢多に舟橋を架く  
 十一月廿一日 長島一向宗徒、織田信興を尾張小木江城に攻め之を弑す  
 十一月廿二日 六角義賢、織田信長に降る  
 十一月廿五日 織田氏の將坂井政尙、近江堅田に戦死す  
 十一月廿八日 將軍足利義昭、三井寺に陣を移す  
 十一月三十日 足利義昭、園城寺に至る○朝倉義景、其族東郷正經と足利義昭に依りて竊かに和議を謀る

六角義賢降る  
 十二月 七日 京都一條火あり、勸修寺、大祥寺、小御所に延焼す  
 十二月十三日 天皇、權大納言三條西實枝、中納言滋野井冬隆を近江坂本に遣はして織田信長に詔を下し朝倉義景、淺井長政と和せしむ  
 十二月十四日 織田信長、勅を奉じ兵を收めて勢田に抵る  
 十二月十五日 將軍足利義昭、京都に還る○朝倉景健比叡山を下り國に還る  
 十二月十八日 織田信長、岐阜に歸る  
 十二月廿八日 武田晴信の將秋山晴近、美濃に入り明智城を攻めて守將遠山宗叔を斬る  
 十二月 中 北條氏政、武田晴信と和す  
 織田信長淺井長政朝倉義景と和せしむ  
 北條武田兩氏と和す

十一月中 將軍足利義昭、織田信長と隙あり  
 是 歲 耶蘇教僧カブラル、豊後より上洛し將軍足利義昭に調し、更に岐阜に赴きて織田信長に面會す

元龜 二年 辛未 皇紀二三三一年 西曆一五七一年

正月 六日 大和三輪市場火あり  
 正月 十日 河内平野火く  
 正月十一日 北條氏政、三島社を再建す  
 正月十二日 武田晴信の兵、駿河興國寺城將堀和氏續を攻む  
 正月 中 武田晴信、駿河深澤城に北條綱成を攻めて之を陥る  
 正月 中 織田信長、神戸友盛に命じ家督を織田信孝に譲らしむ  
 二月 七日 毛利氏の將杉原盛重、尼子勝久の將平野久基を撃ち伯耆淨滿原に之を斬る  
 二月十一日 佐竹義重、磐城三城目城將中昌晴辰を攻む  
 二月廿四日 近江佐和山城將磯野員正、織田信長に降る  
 二月 中 織田氏の將木下秀吉、姓を羽柴氏と改む  
 二月 中 武田晴信、駿河田中城に移り、遠江小山に能滿寺城を築く  
 二月 中 織田信長、更に村井貞勝を皇居造營奉行に加ふ  
 二月 中 毛利氏の將穗井田元清、備中に入りて尼子氏の屬城を復す  
 三月 二日 上杉輝虎、越中に入り金山城將椎名泰種を走らし、尋で諸城を降す  
 武田晴信深澤城を陥る  
 磯野員正信長に降る  
 小山に築城す



武田晴信遠江に入る

三月 五日 武田晴信、進んで遠江高天神城主小笠原貞忠を攻め、水軍をして天龍河口を侵さしむ

三月十八日 尼子氏の將秋上久家、兵を遣はして毛利氏の將福頼元秀を米子城に攻む

三月十九日 毛利氏の將杉原盛重、尼子氏の將羽倉元陰を稗津に斬る

三月廿四日 北條氏康、佐竹義重と岩代沼尻小川臺に戦ふ

三月 中 上杉輝虎、越中魚津城に椎名泰種を攻めて之を降す

三月 中 武田晴信の將秋山晴近、三河長篠城に菅沼正員を攻む

長崎を開く

三月 中 肥前大村純忠、長崎を葡萄牙人に開く

四月 二日 遠江一揆、武田晴信に黨し三河岩津を焼き岡崎城に迫る

四月 九日 肥前龍造寺隆信、小田鎮光を誘殺す

晴信三河に入る

四月十五日 武田晴信、三河西部に入り足助城主鈴木重直を降し、進んで東三河に至り野田砦を抜く

四月廿八日 武田勝頼、加賀越中の諸氏及び一向一揆を煽動して上杉輝虎に當らしむ

四月廿九日 武田晴信、徳川家康を三河吉田城に圍む

四月三十日 武田晴信、兵を收む

晴信兵を收む

四月 中 蘆名盛氏、佐竹義重と和す

五月 六日 淺井長政、本願寺光佐と謀り堀次郎を近江箕浦城に攻む、横山城將羽柴秀吉之を破る

淺井長政兵を起す

松永久秀叛す

五月 九日 松永久通、竹内秀勝等、大和窪城を攻む

五月 十日 戸次鑑連、立花氏を冒し、筑前立花城に入る

五月十一日 松水久秀、織田信長に叛す

五月十二日 織田信長、兵を率ゐて伊勢津島に陣し長島一向一揆を撃ちて利あらず、部將氏家直元之に死す

五月廿二日 北條氏政、佐竹義重と戦ふ

五月廿五日 北條氏輝、常陸下妻城を攻む、守將多賀谷政經逆撃して之を却く

五月三十日 三好長逸等、畠山昭高を河内高屋城に攻む

五月 中 徳川家康、駿河に入り島田附近に放火す

徳川家康駿河に入る

五月 中 香西天戴等、浦上宗景に通じ備前兒島を侵し毛利氏の兵と戦ふ

五月 中 多賀谷政經、常陸谷田部城を抜く

六月 十日 和田惟政、攝津吹田城を陥る

六月十一日 將軍足利義昭、養女を筒井順慶に嫁す

六月十二日 箸尾爲綱、十市常陸と大和南柿森城に戦ふ○武田晴信、榜を甘堂院に掲げ軍人の却略を禁ず

六月十四日 陸奥守毛利元就歿す年七十五

六月二十日 吉川元春、兵を率ゐて伯耆に入りて末吉城を攻め、守將山中幸盛を降す、幸盛、尋で美作に逃る

毛利元就歿す



武田徳川兩氏に東大寺再建の資を命ず

尼子勝久敗走

荒木村重攝津を略す

但馬、因幡平定

六月廿三日 島津貴久歿す年五十八

六月 中 織田信雄、兵を率ゐて伊勢船江に至り曾原城を抜く

七月十六日 武田晴信、徳川家康に勅して、東大寺大佛殿再建の資を助けしむ

七月廿五日 日屋政頼、徳川家康に叛して武田晴信に屬す

七月 中 蘆名盛氏、復た佐竹義重と戦ふ

八月 四日 松永久秀、筒井順慶と大和辰市に戦ひ大に之を破る

八月 五日 箸尾爲綱、大和森屋、筒井兩城を抜く

八月十八日 織田信長、兵を率ゐて近江に入り横山に陣す

八月廿一日 吉川元春、伯耆新山城を攻む、城主尼子勝久、香賀桂島に走り尋で隠岐に逃る

八月廿六日 織田信長、淺井長政を近江小谷城に攻め近郊に放火す○柴田勝家、近江横山城に入る

八月廿八日 和田惟政、糠塚に戦ひ遂に敗死す○荒木村重、中川清秀、攝津茨木、高槻を略す

八月 中 北條氏政、佐竹義重と常陸土浦に對陣す

八月 中 上杉輝虎、越後柵尾城を攻めて之を抜く、城主神保宗重出奔す

八月 中 筒井順慶、再び大和筒井城に入る

八月 中 吉川元春、但馬、因幡を侵して山名熙豊、山名豊國を降す

八月 中 武田晴信、將に尾、濃、參、遠を攻略せんとし、部下兵器及び從軍條例を定む

比叡山を燒く

家康、輝虎、信長と同盟す

皇居成る

九月 一日 織田信長、其將佐久間信盛、柴田勝家、丹羽長秀等を遣はして新村資則を近江

九月 三日 織田信長、近江金森城を攻めて之を降す

九月 四日 毛利輝元、備中齊田城を抜く

九月 七日 筒井順慶の兵、松永久秀の屬城大和山田城を抜く

九月十二日 織田信長、近江勢多に陣し比叡山を燒き、僧徒及び婦女を殲滅す

九月二十日 織田信長、岐阜に還る

九月廿二日 松永久秀の部將竹内秀勝歿す

九月 中 伊東義祐、日向眞幸に砦を築く

九月 中 武田氏の將山縣昌景、三河を侵略す

九月 中 將軍足利義昭、竊に武田晴信に使を遣はし織田信長討伐を圖る

九月 中 長曾我部元親、土佐六郡を併す

十月 一日 蘆名盛氏、管内の醸酒を禁ず

十月 八日 徳川家康、誓書を上杉輝虎に贈りて織田信長との三同盟成る

十月十四日 細川藤孝、更に勝龍寺城を修築す

十月十五日 織田信長、米を京都の民に貸し公家の資に供す

十月二十日 三好長勝等、住山に陣し細川藤孝と戦ひて敗る

十一月 一日 皇居竣成す



今川氏眞徳川氏に依る

十一月十三日 上杉輝虎、關東に出兵し上野總社に陣し、武田氏の諸城を攻め、尋で厩橋に滞陣す  
十一月二十日 伊地知智重、島津義久に叛し鹿兒島を侵す  
十一月 中 織田信長、武田晴信に金鞍を贈り甲州漆を求め、三千桶を送らる  
十一月 中 筒井順慶、織田信長に降る  
十二月十五日 後陽成天皇降誕あり  
十二月十七日 今川氏眞、北條氏政に逐はれて徳川家康に依る  
十二月廿九日 武田晴信、三河吉田城に通る

元龜三年 壬申 皇紀二三三二年 西曆一五七二年

織田信長三關を還納す  
北條氏政武田晴信と和す

正月 三日 上杉輝虎、武田晴信、利根川に對陣す  
正月 九日 佐竹義重、那須資胤を下野に攻めて敗績す  
正月 十日 織田信長に勅して三關地を還納せしむ  
正月十三日 徳川家康、大井川金谷附近を巡視す  
正月十五日 北條氏政、武田晴信と和し、上杉輝虎と絶つ  
正月十九日 徳川家康、濱松城に還る  
正月三十日 勸修寺尹豊を准大臣と爲す  
正月 中 淺井長政、近江横山城を襲ふ、守將竹中重治之を撃退す  
正月 中 西園寺公廣、土佐を攻む

武田上杉兩氏毛利氏と修交

塚原卜傳歿す

信長入京

本願寺光佐

正月 中 羽柴秀吉、淺井長政の將官部繼潤を降す  
正月 中 北條氏政、其弟氏忠、氏堯を人質として武田晴信に送る  
閏正月 四日 遊佐信教、其主畠山昭高を殺さんと謀り、成らずして走る  
閏正月 七日 准大臣勸修寺尹豊を内大臣と爲す  
閏正月十三日 内大臣勸修寺尹豊罷む  
閏正月 中 北條氏政、北條氏邦等を遣はして小山秀綱を祇園城に攻む  
二月二十日 島津義久、兵を出して廻市城に肝付越後を攻殺す  
二月 中 伊賀吉野の土匪、畠山昭高の屬城大和坂合部城を攻む  
二月 中 武田晴信、上杉輝虎、使を安藝に遣して毛利輝元と好を修す  
三月 五日 織田信長、兵を近江に出す  
三月 七日 織田信長、小谷城下に火を縱つ  
三月 九日 劍客塚原卜傳歿す年八十二  
三月十一日 織田信長、兵を率ゐて近江膳所に至り田子氏久を木戸城に、高島高泰を田中城に攻む  
三月十二日 織田信長、京都に入り妙覺寺に陣し、尋で八幡に陣を移し、柴田勝家、佐久間氏盛等を遣はして河内高屋城を攻む  
三月十六日 筒井順慶等、京都に入る  
三月廿三日 細川延元、岩成左通等、織田信長に降り、本願寺光佐、亦物を贈りて和を講ず



信長と和す

○將軍足利義昭、武者小路の地を織田信長に與へ、畿内及び近國に令して其居第を造營せしむ

三月 中 龍造寺隆信の兵、肥前朝日山城主筑紫廣門を攻めて之を抜く

四月 二日 筑紫廣門、龍造寺隆信に肥前綾部城を納め和を講ず

四月 八日 織田信長、鶴を獻ず

四月 十三日 三好一任、細川延元と占部に戦ふ

四月 十四日 淺井長政、兵を遣して近江伊黒城を攻む

四月 十五日 遊佐信教、松永久秀、三好義繼等と謀りて河内高屋城に其主畠山昭高を殺す

四月 十七日 織田信長、柴田勝家等を遣して河内高屋城を抜く、遊佐信教出奔し、三好義繼

は若江城に松永久秀は信貴城に據る

四月 廿八日 上杉輝虎、信濃長沼に至る、武田勝頼、寡兵を以て好く之を拒ぐ

四月 中 善宗次等、下野小俣城を攻む

四月 中 大友義鎮、伊豫を侵し諸城を畧す

四月 中 琉球王尙元歿す

五月 四日 伊東祐安、日向加久藤城を攻む、島津忠平撃ちて之を斬る

五月 十四日 織田信長の兵、近江高島を侵し放火す

五月 十五日 上杉輝虎、一向宗徒を越中富山城に圍む

五月 十九日 織田信長、岐阜に歸る

畠山昭高殺さる  
柴田勝家高屋城を抜く

上杉輝虎富山城を圍む

上杉輝虎佐竹義重と和す

五月 中 徳川家康、東三河に向ひ長篠城附近に火を放ちて還る

六月 七日 上杉輝虎、佐竹義重と和し、尋で義重をして蘆名盛氏結城義親と和せしむ

六月 廿八日 澁川義勝、下野善城を取る

七月 十六日 三好長治、其將篠原長房を阿波上櫻城に誅す

七月 廿一日 織田信長、淺井長政を近江小谷城に攻め雲雀山に陣す

七月 廿二日 佐竹義重、田村清顯、兵を率ゐて蘆名盛氏、結城義親を撃ちて敗績す○朝倉義

景、淺井長政を援けて織田信長に對抗す

七月 廿三日 織田信長、越前境に兵を出し所在に放火す

七月 廿五日 貞敦親王薨す年八十五

七月 廿七日 織田信長、壘を近江虎御前山に築く

七月 廿八日 朝倉義景、淺井長政の救援の爲め越前を發す

七月 廿九日 朝倉義景、高山大撞に陣す、織田信長の兵、其營を襲ひて之を破る

七月 三十日 木村純忠、西郷純堯と戦ふ

八月 一日 山中幸盛、再び兵を擧げ因幡桐山城に據り、進んで國府嶺山に城を築く、尋で

去つて京都に赴く

八月 四日 河野通直、毛利輝元の兵と戦ふ

八月 六日 上杉輝虎、越中に出陣す、武田晴信是に乗じて北條氏政と約し上野武藏を侵さ

んとす

山中幸盛の再擧  
輝虎越中に  
出づ



武田晴信淺井氏と約す

晴信上洛の途に就く

八月 七日 木曾義冒の將山村良侯、飛驒に入り江間輝盛を撃破し、姉小路秀綱敗死す  
 八月 八日 朝倉義景の將前波吉繼、叛して織田信長に降る  
 八月十六日 織田信長、羽柴秀吉を近江虎御前山に、宮部繼潤を宮部城に遣し之を守らしむ  
 八月十八日 攝津の土匪、三好氏に應じ細川延元を攝津中島城に攻めて敗績す  
 八月十九日 織田信長、近江横山城に入り、尋で岐阜に歸る  
 八月二十日 徳川家康、使を上杉輝虎に遣す  
 八月廿六日 前伊豫湯月城主河野通直歿す  
 八月廿八日 松永久秀、兵を率ゐて山城木津城を攻む  
 八月 中 武田晴信、日向宗英を淺井長政に遣はして織田氏討滅を約す  
 九月廿七日 織田信長、將軍足利義昭の失政を諫む  
 九月 中 朝倉義景、陣を高山大嶽に移し、織田信長、虎御前山に至り、和平復た破る  
 九月 中 織田信長、足利義昭の意を受けて上杉輝虎、武田晴信の調停を圖る、晴信之を肯かず  
 十月 一日 上杉輝虎、越中富山城を陥れ、一向一揆を走らす  
 十月 三日 武田晴信、大兵を率ゐて甲府を發し信濃伊奈に出で、其將山縣昌景をして兵を率ゐる東三河を経て遠江に會せしむ  
 十月 十日 武田晴信、遠江に入り多多羅、飯田兩城を陥れ進んで久能城を攻む○徳川家康、天龍川に出陣す

武田軍振ふ

輝虎越中を平定す

十月十三日 武田晴信、遠江見付より江臺島に至り、二俣城を攻む、山縣昌景、亦た三河東部に入り吉田城を攻め、遠江伊平の砦を畧し濱松城の援兵を絶つ○徳川家康、使を岐阜に遣し織田信長に援を請ふ  
 十月廿七日 武田晴信の將秋山晴近、天野景貫等、三河を侵して田峰城將菅沼貞吉、作手城將奥平貞能等を降し、進んで竹廣に陣し、長篠城將菅沼正貞を攻めて之を降す  
 十月廿九日 毛利輝元、宇喜多直家と和す  
 十月 中 會津、徳政を行ふ○上杉輝虎、越中を平定す  
 十一月 七日 上杉輝虎、誓書を織田信長に送り武田晴信との斷交を促す  
 十一月十二日 飛驒國司姉小路嗣頼薨す  
 十一月十四日 武田晴信の將秋山信友、美濃に入り岩村城を攻めて之を陥れ、守將織田勝長を降す  
 十一月十九日 松永久秀、大和片岡を燒く  
 十一月二十日 織田信長、武田晴信と絶ち、上杉輝虎と結びて共に徳川家康を援く○武田晴信、朝倉義景と好を修す  
 十一月廿六日 武田晴信、大園寺希菴を誅す  
 十一月 中 織田信長、佐久間信盛、平手汎秀等を遣はして濱松を援く  
 十一月 中 遊佐續光、長綱連等、其主能登七尾城主畠山義隆を殺し、織田信長に降る  
 十二月 三日 朝倉義景、近江小谷を去つて越前に還る

織田信長武田晴信と絶つ  
晴信朝倉義景と好を修す



三方ヶ原の戦

十二月十九日 武田晴信の兵、遠江二俣城を攻めて之を陥る  
 十二月二十日 三好義繼、松永久秀、攝津中島城を襲ふ、城主細川延元、堺に出奔す  
 十二月廿二日 武田晴信、遠江刑部を發して濱松北大菩薩に陣し徳川家康、織田信長の兵と三方ヶ原に戦ひ大に之を破る、平手汎秀、夏目正吉、本多忠真等、戦死す  
 十二月廿四日 武田晴信、營を撤し刑部に退く  
 十二月廿九日 佐竹義重、北條氏政を下野多功原に破る  
 十二月中 北畠具教、武田晴信に盟書を送る○蘆名盛氏、領内の禁酒を解く  
 是 冬 松永久秀、其子久通と織田信長に降る

天正元年 癸酉 皇紀二三三三年 西曆一五七三年 七月二十八日改元

村上義清歿す

正月 一日 村上義清歿す年七十三

武田晴信三河に入る

正月 七日 將軍足利義昭、織田信長の請ひにより武田晴信をして織田、徳川兩氏と和せしむ、晴信、之を肯んぜず、遠江刑部を發して三河に入る  
 正月 十日 吉田兼右歿す年五十八 廣瀬社縁起一卷、官職難儀一卷

晴信信長と絶つ

足利義昭舉兵

正月 十日 武田晴信、書を織田信長に送り其五罪を數へ之と絶つ  
 正月 十七日 武田晴信、書を織田信長に送り其五罪を數へ之と絶つ  
 正月 二十日 織田信長、織田掃部を三河に遣はして武田晴信に異心なきを辯疏す  
 正月 廿七日 織田信長、書を足利義昭に上り、武田晴信の九罪を訴ふ  
 正月 三十日 將軍足利義昭、織田信長討伐の兵を舉ぐ、信長、和談を試むるも聽かず

晴信病む

正月 中 織田信長、足利義昭に十七ヶ條の諫書を與ふ  
 二月 二日 徳川家康、書を上杉輝虎に致し名刀を贈る  
 二月 十日 武田晴信、三河野田城を陥る  
 二月 十三日 佐竹義重、下野に入り皆川廣瀨を撃ちて其十一城を取る  
 二月 十四日 徳川家康、上杉輝虎に援兵を求む  
 二月 十六日 武田晴信、山縣昌景をして野田城を守らしめ、南設樂郡鳳來寺に退き病を養ふ  
 二月 廿四日 足利義昭、兵を率ゐて勢多橋を渡り石山寺に據る  
 二月 廿六日 織田信長の將柴田勝家等、石山の寨を攻め之を降す○將軍足利義昭、武田晴信、本願寺光佐、淺井長政等と謀りて織田信長を除かんとし、越中一向宗徒の協力を求む  
 二月 廿九日 織田信長の將明智光秀、丹羽長秀等、近江堅田を攻めて之を抜く  
 二月 中 原田親種、筑前高祖城に據る、臼杵鑑賢、來攻して之を破る、原田親種、筑後高良山に走りて敗死す  
 二月 中 小田氏治、其子守治、兵を率ゐて太田資正を攻め常陸小田城を復す  
 三月 十二日 由良國繁、上野桐生城を攻む、城主桐生重綱走りて下野城に入る  
 三月 十五日 武田晴信、兵を三河に轉じて手窪、長澤等を略し宮崎に壘を築き、武田勝頼を遣はして濱松の援路を絶たしめ、自ら諸軍を督し平谷に陣す  
 三月 十六日 武田晴信の將山縣昌景、三河吉田城を攻む

晴信兵を三河に轉ず



三月廿三日 將軍足利義昭、織田信長を撃たんとして三好義繼、松永久秀の罪を赦す  
 三月廿五日 織田信長、岐阜を發す  
 三月廿九日 織田信長、近江大津に至り園城寺に陣す  
 三月三十日 足利義昭、兵を遣はし村井貞勝邸を圍む  
 三月 中 大友義鎮、龍造寺隆信を肥前三井城に攻めて之と和し、鎮西七國を平定す  
 四月 二日 織田信長、京都に入り東山に陣す  
 四月 三日 織田信長、足利義昭を二條第に圍みて更に疎意なきことを陳じ熟慮を懇請す  
 四月 四日 將軍足利義昭、織田信長に和を請ふ  
 四月 六日 足利義昭、織田信長と誓書を交換す  
 四月 七日 織田信長、京都を發す○佐久間信盛、蒲生氏郷等、佐々木義弼を近江鯉江城に攻む  
 四月 八日 足利義昭に詔を下し、兵を六町街に置くを禁ず  
 四月十一日 織田信長、岐阜に歸る  
 四月十二日 武田晴信入道信玄、信濃駒場に病死す年五十三  
 四月十五日 武藏深谷城主上杉憲盛、北條氏政と和す○上杉輝虎、三河原田城を陥れ越後に還る  
 四月 中 太田資正等、常陸小田城を抜く、城主小田氏治、藤澤城に走る  
 四月 中 菅谷政貞、信田重成を誘殺し常陸土浦城を抜く

大友義鎮龍造寺隆信と和す  
 織田信長入京  
 足利義昭信長と和す  
 武田信玄歿す

五月 七日 細川昭元歿す年二十五  
 五月十四日 徳川家康、吉田より長篠に至りて敵狀を視察す  
 五月廿二日 織田信長、近江佐和山城に抵り兵艦を多賀山田に作る  
 五月 中 徳川家康、駿河に入り岡部に火を放つ  
 六月 二日 徳川家康、二俣城に對し社山、合代島、渡島に砦を築きて武田氏に備へ、濱松に還る  
 六月 九日 内大臣萬里小路惟房薨す年五十三  
 六月十三日 足利義昭、再び兵を擧げんとして軍糧を毛利輝元に徵す  
 六月廿五日 畠山昭高歿す年二十九  
 七月 三日 將軍足利義昭、織田信長を撃たんとし再び兵を擧げ、京都を出て宇治槇島に據る○織田信長、岐阜を發して近江佐和山城に入る  
 七月 六日 織田信長、風雨を冒して佐和山城を發す  
 七月 七日 織田信長、京都に入り、再び二條城を攻めて之を陥れ、足利義昭の部將日野輝資、高倉永相等を降す  
 七月 十日 細川藤孝、織田信長に疑を通じ姓を長岡氏と改む  
 七月十八日 織田信長、兵を分ちて山城槇島に向ふ  
 七月十九日 織田信長、中島を抜き守將松井康之を仆し進んで槇島を攻めて之を陥る、將軍足利義昭、普賢寺に奔りて降を請ふ、信長、羽柴秀吉をして之を河内若江に放

徳川家康長篠に至る  
 義昭再び兵を擧ぐ  
 信長入京



足利氏滅亡

たしむ○詔して足利義昭の官爵を削らる、是に於て、足利氏十五代二百三十九年にて滅亡す

七月十九日 徳川家康、武田氏の將菅沼正貞を三河長篠城に攻め、熊山、山中二砦を築き之に備ふ

京都の地子錢を免す

七月廿一日 織田信長、京都に凱旋して、村井貞勝を所司代と爲し、令して地子錢及び諸賦役を免じ、市民を還住せしむ

七月廿二日 織田信長、皇居を巡警す

七月廿四日 肝付兼良の兵、島津義久の早崎營を襲ふ、島津家久力戦して之を退く

七月廿六日 織田信長の將明智光秀は近江木戸城を、瀧川一益は田中城を攻めて之を抜く

七月廿七日 織田信長、長岡藤孝を遣はして淀城に岩成左通を攻めて之を陥る○荒木村重、攝津芥川城將和田惟政を攻めて之を斬り、池田城主池田勝政を奔らす

改元

七月廿八日 改元あり

七月 中 徳川家康、三河作手城主奥平貞能、奥平貞昌を降す

七月 中 尼子勝久の將立原久綱、山中幸盛、織田信長に謁して再舉の援助を求む

七月 中 黒田孝高、京都に入り始めて織田信長に謁し中國征伐の先鋒を約す

本願寺光佐義昭に應ず

八月 一日 前將軍足利義昭、兵を毛利輝元に徴し再舉を謀る、本願寺光佐等之に應ず

八月 二日 佐竹義重、小田氏治を攻め常陸宍戸、名倉兩城を取る

八月 四日 織田信長、岐阜に歸る

信長淺井氏を攻む

八月 八日

淺井長政の將近江本山城主阿閉長之、織田氏に降る○織田信長再び岐阜を發して近江に入り淺井長政を小谷城に攻む○瀧川一益は雲雀山を、羽柴秀吉は月瀬城を攻めて之を抜く

八月 十日

織田信長、近江大嶽の北山田村に陣し、柴田勝家、佐久間信盛を高月に遣はして朝倉義景赴援の路を絶たしむ○近江燒尾城守將淺見對馬、織田信長に降る○朝倉義景、兵を率ゐて刀根山に陣す○上杉輝虎、加賀に入り朝日城を攻む

八月 十二日

織田信長、燒尾城に入り、大嶽城を降し進んで丁野を攻め之を抜く

朝倉義景敗走す

八月 十三日

朝倉義景、刀根山より越前一乗谷に走る、織田信長、追撃して大に之を破る、齋藤龍興敗死す○日根野弘就、淺井七郎を殺して織田信長に降る

八月 十四日

織田信長、越前に入り進んで敦賀に陣す

八月 十五日

朝倉義景、越前一乗谷に入る

八月 十六日

朝倉義景、一乗谷より大野郡に東走して東雪寺に遁る

八月 十七日

織田信長、越前敦賀を發す

八月 十八日

織田信長、府中龍門寺に入る○平泉寺僧徒、一乗谷に火を縱つ

八月 十九日

朝倉義景、東雪寺より山田六坊に移る

義景自殺す

八月 二十日

朝倉景鏡、織田信長に款を通じ六坊賢松寺を圍む○朝倉義景遂に自殺す年四十

八月 廿一日

織田氏の將羽柴秀吉等、越前亥山城を攻め朝倉景鏡を降す



越前平定

八月廿四日 織田信長、降將前波吉繼を越前守護代に、明智光秀、津田元秀、木下家定を奉  
行と爲し庶政を決せしむ

八月廿五日 本願寺光佐、紀伊宗徒に來援を乞ふ

八月廿六日 織田信長、近江虎御前山に還り淺井氏攻撃に着手す

八月廿七日 羽柴秀吉、粒羅岡に登り淺井久政、淺井長政の聯絡を絶つ

淺井久政自  
殺

八月廿八日 淺井久政自殺す年五十

八月廿九日 織田信長、進んで小谷城を圍む○淺井長政、其夫人織田氏及び三女を織田信長  
に送る

八月 中 最上義光、好を上杉輝虎に通ず

淺井長政自  
殺

九月 一日 近江小谷城主淺井長政自殺す年二十九

六角義弼出  
奔す

九月 三日 織田信長、淺井氏の領地十八萬石を羽柴秀吉に與ふ

九月 四日 織田信長の將柴田勝家、近江鯉江城を攻む、城主六角義弼走りて石部に遁る

九月 六日 織田信長、岐阜に凱旋す

九月 八日 德川家康、三河長篠城を抜く、守將室賀滿正、小泉忠季等甲斐に走る

長會我部元  
親信長に應  
ず

九月十六日 長會部元親、織田信長に好を求む

九月廿一日 德川家康、武田勝頼と戦ふ

九月廿四日 織田信長、兵を北伊勢に出し大柿城に據る

九月廿六日 織田信長、一向一揆を伊勢長島に伐つ

北伊勢平定

九月 中 德川家康、奥平信昌をして長篠城を守らしむ

九月 中 長會我部元親、土佐羽根、吉良、西寺、室津等の諸城を降す

十月 八日 織田信長、東別所に陣し矢田城を築きて瀧川一益を守將と爲し、北伊勢悉く平  
定さる

十月十五日 陸奥守島津勝久歿す年七十一

十月十七日 北條氏政、築田政信を下總關宿城に攻む、佐竹義重、政信を援く

十月廿一日 文人山田道安歿す年三十二

十月廿五日 織田信長、岐阜に歸る

十月 中 山名祐豊、吉川元春に和を請ふ

十一月 一日 武田勝頼、部下の從軍制を定む

十一月 四日 織田信長、京都に入り妙覺寺に陣す

十一月 五日 足利義昭、紀伊に赴き由良寺に入る

十一月 九日 毛利輝元、安國寺惠瓊を遣して足利義昭と織田信長との間を調停せんとす、義  
昭之を肯ぜずして紀伊に赴く

十一月 十日 織田信長、參内す

十一月十一日 德川家康、天龍川渡船制を定む

十一月十六日 織田信長の將佐久間信盛、河内若江城を陥る、城主三好義繼自殺す

十一月廿八日 織田信長、伊達氏に書を與へ鷹を寄贈されしを謝す

三好氏滅ぶ



武田勝頼遠江に入る

十一月中 太田資正、小田氏治を攻めて常陸藤澤城を取る  
 十一月中 武田勝頼、大兵を率ゐて遠江に入り見付に陣し、諏訪原に城を築く  
 十二月 一日 僧澤庵、但馬國出石に生る  
 十二月 二日 織田信長、岐阜に入る  
 十二月十一日 織田信長の將不破道貞、瀧川一益と相闘ふ  
 十二月十四日 島津義久、大隅牛根城を攻む  
 十二月中 龍造寺隆信、肥前松浦に出兵して諸城を攻略し、神代長良、鶴田越前、波多鎮等を降す

耶蘇教を博多山口に布教す

是 歲 耶蘇教師カブラル、博多、山口に宣教す

天正 二年 甲戌 皇紀二三三四年 西歷一五七四年

大村、松浦兩氏和す

正月 二日 徳川家康、濱松にて能役者を召し謠初を行ひ、後、例となす  
 正月 三日 龍造寺隆信、肥前鏡城を攻む、城將草野鎮永、筑前に走りて原田信種に依る○松浦鎮信、龍造寺隆信と和す  
 正月十一日 織田信長、明智光秀をして大和多門城を守らしむ  
 正月十三日 肥前大村純忠、松浦鎮信と和す  
 正月十八日 島津義久、大隅牛根城を陥る  
 正月十九日 富田長秀、土匪を率ゐて越前一乗谷を襲ふ  
 正月二十日 富田長秀、一乗谷を陥る、守將桂田長俊自殺す

武田勝頼美濃を侵す

正月廿一日 富田長秀、明智光秀等を越前北庄に攻む、光秀之と和して岐阜に歸り、越前の地全く長秀の有に歸す  
 正月廿四日 富田長秀、其黨魚住景固と隙あり、之を誘弑す  
 正月廿七日 武田勝頼、美濃に入り、今見、馬籠、大井、中津川等十八寨を抜き、明智城を圍む  
 正月 中 尼子勝久、但馬より因幡に入る、鳥取城主山名豊國之を援く  
 正月 中 最上義守、其子義光と戦ふ、伊達輝宗、義守を援けて羽前寒河江を陥る  
 二月 五日 武田勝頼、美濃明智城を陥り進んで飯峽城を抜く○上杉輝虎、上野沼田に出陣す

佐竹義重白河城を攻む

二月 六日 常陸佐竹義重、結城義親を陸奥白河城に攻む  
 二月十八日 小林吉隆、叛して富田長秀を誅す○河北一揆、越前金津城に溝江長逸を攻む  
 二月十九日 溝江長逸、富樫介政親等、戦死す  
 二月廿四日 右大臣花山院家輔罷む、九條兼孝を右大臣と爲す○織田信長、岐阜に還る  
 二月 中 徳川家康、越後に使を遣はし上杉輝虎と好を修す

武田信虎歿す

三月 五日 武田信虎歿す年八十一  
 三月 八日 筒井順慶等、京都に到る  
 三月 十日 山中幸盛、出雲伯耆の兵を聚め因幡私部城に大坪一之を攻む  
 三月十二日 織田信長、岐阜を發し大江佐和山に抵る



奈良制法を定む

三月十四日 柴田勝家、奈良制法を定む  
 三月十六日 徳川家康、三河設楽、長篠兩城を修築す  
 三月十七日 織田信長、京都に入り相國寺に館す  
 三月十八日 織田信長を參議と爲す  
 三月二十日 大村純忠、西郷純堯と肥前芋瀬村に戦ふ○足利義昭、使を上杉輝虎、武田勝頼、北條氏政等に遣はして、徳川家康、本願寺光佐等と共に織田信長を討たしめんとす

本願寺光佐兵を擧ぐ

三月廿七日 織田信長、奈良に赴き多門城に入る  
 三月廿八日 織田信長、勅許を得て東大寺の蘭奢待を截る  
 三月 中 荒木村重、攝津伊丹城に伊丹勝興を攻めて之を抜き、在岡と改め居城と爲す  
 三月 中 龍造寺隆信、西肥を悉く平定す  
 三月 中 羽柴秀吉、近江今濱に城を築き今濱と改めて移る  
 四月 一日 織田信長、大阪に至り石山城を攻む  
 四月 二日 本願寺光佐、三好康長と共に兵を擧げて攝津中島城を抜く  
 四月 六日 徳川家康、遠江乾城を攻めんとして利あらず、兵を收めて天方城に入る  
 四月十一日 織田信長、筒井順慶を河内に遣はし土匪を攻む  
 四月十二日 織田信長、親しく河内の土匪を玉造に撃つ  
 四月十三日 上杉輝虎、下總關宿城を援けんとし、北條氏政と利根川を夾みて對峙す、氏政

上杉輝虎北

條氏政に對す

退營し輝虎亦兵を收む○六角義賢、近江石部城を去つて甲斐に赴き武田勝頼に依る

氏政上野に入る

武田勝頼高天神を攻む

高天神城陥る

四月十四日 本願寺光佐、杉浦法橋に命じて朝倉景鏡を平泉寺に斬る○足利義昭、使を薩摩に遣はして島津義久に援を求む  
 四月廿六日 北條氏政、兵を上野に入れて小山、結城、榎本等の諸城を攻む  
 四月廿八日 大村純忠、兵を遣はし松浦鎮信の屬城肥前井手平城を攻め之を抜く  
 四月廿九日 武田勝頼の將山縣昌景、三河野田城を攻む  
 四月 中 上杉輝虎、上野桐生、金山兩城を攻む、由良國繁、防戦して之を却く  
 五月 五日 織田信長、賀茂競馬に其の愛馬を出す  
 五月十一日 北條氏政、下總關宿城を抜く、城將築田政信奔りて佐竹義重に依る  
 五月十二日 武田勝頼、遠江に入り進んで高天神城を攻む  
 五月十九日 武田氏の將眞田幸隆歿す年六十二  
 五月廿八日 織田信長、岐阜に還る  
 五月 中 織田信長、伏見城を壞つ  
 六月 一日 里見義堯歿す年六十三  
 六月 二日 最上義光、伊達輝宗と戦ふ  
 六月十四日 織田信長、兵を率ゐて岐阜を發し高天神城の後詰を爲す  
 六月十七日 織田信長、三河吉田城に至る○武田勝頼、遠江高天神城將小笠原長忠を降す



信長岐阜に還る

一向宗徒長島に據る

一向宗徒越前に振ふ

六月十日 織田信長、遠江今切渡に至り、高天神落城を聞きて吉田城に還る  
 六月廿一日 織田信長、信忠、岐阜に還る  
 六月廿八日 足利義昭、紀伊より和泉に至り堺顯本寺に館す  
 六月 中 二本松義繼、伊達輝宗に降る  
 七月 三日 後藤惟明、其父貴明と隙あり、肥前宮野に戦ふ  
 七月 六日 三淵藤英、近江坂本城にて自殺す  
 七月十三日 一向宗徒、伊勢長島に據る、織田信長、信忠、兵を率ゐて之を海陸より包圍す  
 七月二十日 荒木村重、一向宗徒と伊勢中島に戦ふ  
 七月 中 武田勝頼、甲府に還る  
 七月 中 上杉輝虎、兵を越中に出し、神保長純を木船城に攻め、轉じて若林勝盛を小山城に攻む  
 七月 中 佐竹義重、北條氏政と和す  
 七月 中 明船、博多に來朝し象、虎を齎す  
 八月 二日 徳川家康、馬伏塚城址を修築して名を横須賀と改め、高天神城に備ふ○上杉輝虎、能登七尾城に遊佐時教、長重連を攻む  
 八月 三日 本願寺宗徒下間頼純、越前を管す  
 八月十五日 津輕爲信、瀧本重行を撃つ  
 八月十六日 僧永恩寂す年六十四 香澤録、枯木集

三好餘黨本願寺に應ず

長島一揆平定

八月廿二日 上杉輝虎 書を徳川家康に贈りて好を修す  
 八月廿五日 足利義昭、使を北條氏政、上杉輝虎、武田勝頼に遣して織田信長討伐を謀る、皆之に應ず  
 八月 中 蘆名盛氏、管内に徳政を行ふ  
 九月 七日 武田勝頼大學、濱松城を襲はんとして天龍川に至り、尋で軍を班す○蘆名盛氏佐竹義重を赤館に破る  
 九月 十日 伊達輝宗、最上義光と和す  
 九月十一日 上杉輝虎、能登七尾城を陥れ、城將遊佐時教等を殺す  
 九月十八日 三好氏餘黨、河内萱根城に據り、本願寺宗徒に通じて亂を起す、佐久間信盛、長岡藤孝等撃ちて之を抜く  
 九月廿二日 尼子勝久の將山中幸盛、立原久綱、毛利氏の將毛利淨意を因幡鳥取城に攻め之を陥る  
 九月廿九日 織田信長、伊勢長島を陥れ、一揆二萬餘人を燒殺し岐阜に歸る  
 九月 中 最上義守、其子義光と和す  
 十月 五日 龍造寺隆信、後藤貴明の和破る  
 十月十四日 徳川家康、長島一揆の殘黨を撃滅す  
 十月 中 平井經治、其弟直秀を殺し肥前須古城を復す  
 十一月 三日 長曾我部元親、白髮社を建立す



啓迪集撰進

越前一向宗徒蜂起す

天文學、築城術を傳ふ

十一月 七日 長曾我部元親、土佐安宗城將安宗實刻を殺す

十一月十七日 醫師曲直瀬正盛、啓迪集を撰進す

十一月廿四日 陸奥に地震あり

十一月廿五日 上杉輝虎、北條氏の將由良成繁を猿窪に撃破して武藏に入る

十一月 月中 佐竹義重、蘆名盛氏と和す

閏十一月十九日 越前一向宗徒蜂起す、下間頼清撃ちて之を破る○上杉輝虎、兵を越後に班す

閏十一月二十日 毛利輝元、小早川隆景、備中猿懸城を抜く

十二月十三日 一條内政、土佐大津城を築き長曾我部元親の女を娶る○琉球王尙永、僧雪岑を鹿兒島に遣し方物を致し隣好を修す

十二月二十日 龍造寺隆信、肥前須古城を陥る、城主平井經治自殺す

十二月廿一日 織田信長、神田を加茂社に寄附す

十二月廿四日 松永久秀、薙髮して道意と號す

十二月三十日 下總守小山高朝歿す

是 歲 織田信長、領國の道路を修理し關稅を除く○耶蘇宣教師、京都に來り天文學、築城技術等の西洋學問を始め傳ふ

天正 三年 乙亥 皇紀二三三五年 西歷一五七五年

正月 一日 津輕爲信、瀧本重行を陸奥大光寺城に攻めて之を取る○毛利輝元、小早川隆景備中國吉城を抜く

畿内の道路を修理す

足利義昭毛利氏に依る

明智光秀龜山城に入る

正月 五日 織田信長、令して畿内の道路を修理せしむ

正月十一日 上杉輝虎、養子顯景に加冠し景勝と名乗らしむ

正月二十日 徳川家康、連歌會を行ひ恒例と爲す

正月廿八日 伊東義祐、大隅志布志、櫛間を侵す

二月 五日 山中幸盛、因幡若佐城を攻む

二月 八日 足利義昭、和泉堺を去り備前に赴き、尋いで備後鞆津に移り、毛利輝元に依りて幕府恢復を謀る

二月十五日 徳川家康、鷹を城下に放つ

二月廿一日 妙法院性胤、梶井宮惟常、伏見宮邦良を親王と爲す

二月廿七日 織田信長、京都に赴く○佐竹義重、太田資正を援けて常陸土浦城を陥る、守將小田氏治自殺す年四十二

二月廿八日 徳川家康、奥平信昌に三河長篠城を與ふ

二月 月中 筒井定次、織田信長の女を娶る

二月 月中 佐竹義重、結城義親を攻め磐城白河城を取る

二月 中 織田氏の將明智光秀、長岡藤孝、丹波に入り諸城を陥れ龜山城に入る

三月 三日 織田信長參内し、相國寺に館す

三月十五日 島津義久、犬追物を献す

三月十六日 今川氏眞、京都に入り織田信長に謁す



龍造寺隆信  
肥後を侵す

三月二十日 織田信長、相國寺に今川氏眞の蹴鞠會を観る○龍造寺隆信、筑後に入り三池城將三池鎮實、西島城將横岳鎮貞、貝津城將安武鎮則を降し、進んで肥後を侵し菊池鎮廣、小城宗全、城親冬等を降して佐賀に凱旋す

三月廿三日 織田信長、埴直政を大和守護と爲す

三月廿八日 織田信長の養女、二條昭實に嫁す○武藏深谷城主上杉憲盛歿す

三月 中 荒木村重、大阪一向宗徒を撃破し攝津大和田、天馬の三寨を奪ふ

荒木村重一  
向宗徒を破  
る

三月 中 宇都宮廣綱、那須資清と下野薄葉原に戦ひて敗績す

三月 中 長曾我部元親、崎濱の土匪を撃ちて之を平ぐ

三月 中 明商、豊後に至り貿易す

四月 五日 徳川家康、叛臣大賀彌四郎を遠江念志原に磔殺す

四月 六日 織田信長、京都を發す○久我通堅薨す年三十五

信長高屋城  
を攻む

四月 八日 織田信長、河内高屋城に三好康長を攻む

四月 十日 琉球王尙永、島津義久に方物を貢す

四月十二日 武田勝頼、故武田晴信の喪を發し、葬儀を甲斐惠林寺に行ふ○織田信長、攝津住吉に陣を移す

四月十三日 織田信長、天王寺に屯す

四月十四日 織田信長、大阪に逼る

四月十六日 織田信長、攝津遠里小野に陣す

河内平定

四月十九日 河内新堀城將香西元成、高屋城主三好康長等、織田信長に降り河内悉く平定さ

る 織田信長、京都に凱旋す

四月廿一日 武田勝頼、奥平信昌を三河長篠城に包圍す

四月廿七日 織田信長、京都を發し岐阜に歸る

四月廿九日 大和多聞城兵、筒井氏の兵と大安寺門前に戦ふ

四月 中 織田信長、公卿の財賦を救濟す

四月 中 織田信長、使を越後に遣し好を求む、上杉輝虎之を拒絶す

五月 一日 武田勝頼、醫王山に陣を進め、鳶巢山に砦を築き、武田信實をして之を守らしむ

五月 六日 武田勝頼、三河二連木、牛久保を侵略す○徳川家康使を遣はし織田信長に援兵を請ふ○龍造寺隆信、大村純忠を肥前貝瀬城に攻めて之を陥る

五月 七日 山名豊國、再び尼子勝久に叛し毛利輝元に應ず、勝久、山中幸盛、因幡鳥取城を去りて鬼城に據る

五月 八日 武田勝頼、三河長篠城を圍む

五月十一日 長篠城將奥平信昌、武田氏の兵と戦ふ

五月十三日 織田信長、兵を率ゐて岐阜を發す○二階堂盛義、石川昭光と岩代大寺城に戦ふ

五月十四日 織田信長、三河岡崎に著す○鳥居勝商、三河長篠城の重圍を脱す

長篠城を圍む

信長三河に向ふ

五月十四日 織田信長、三河岡崎に著す○鳥居勝商、三河長篠城の重圍を脱す



清田の水宴

武田勝頼長篠に敗る

佐竹義重結城義親を破る

五月十五日 鳥居勝商、岡崎に至り徳川家康に謁し奥平信昌の命を傳ふ

五月十六日 織田信長、牛窪城に至る○鳥居勝商、歸城の途、武田氏の邏兵に捉へらる

五月十七日 織田信長、野田原に陣す○武田勝頼、鳥居勝商を有海原に誅す年三十六

五月十八日 織田信長進んで設樂極樂寺に、織田信忠は御堂山に、徳川家康は高松に陣す、武田勝頼、瀧澤川を渡りて之と對陣す○武田氏の宿將馬場信房、山縣昌景、土屋昌次等、清田邑を巡視し俱に死を盟ふ、之を清田の水宴と稱す

五月二十日 徳川家康、織田信長と明日の決戦を約す

五月廿一日 織田信長、徳川家康、武田勝頼と長篠に戦ひ、大に之を破る、武田氏の宿將山縣昌景、武田信實、土屋昌次、眞田信綱、馬場信房、内藤昌豊等、皆之に死す

五月廿五日 織田信長、岐阜に凱旋す○徳川家康、親ら岐阜に往きて厚く恩を謝す

五月 中 宇喜多直家、備中松山城を攻めて之を陥る、城主種田元親、其弟實親自殺す

六月 二日 徳川家康、遠江二俣城に依田信蕃を攻め、毘沙門堂、鳥羽山、和田島に砦を築き之に備ふ

六月 五日 會津城主蘆名盛興歿す

六月 九日 佐竹義重、兵を遣し結城義親を陸奥に破る

六月十一日 徳川家康、駿河八幡山に陣し田中城を攻む

六月十九日 遠江二俣城主依田信守歿す、其子信審嗣ぐ

六月二十日 織田信長、大和多聞城を修理す

徳川家康光明山城を陥る

明智光秀姓を惟任と改む

諸將の邸を京都に營む

六月廿三日 伊勢國司北畠具教、家督を養子信雄に譲る

六月廿四日 徳川家康、朝比奈泰方を遠江光明山城に攻め之を陥る

六月廿六日 織田信長、岐阜を發し上洛す

六月廿七日 織田信長、參内し相國寺に館す

六月廿八日 前關白近衛前嗣、薩摩より京都に還る

六月 中 徳川家康、織田信長、使を越後に遣して上杉輝虎に長篠役の大捷を告ぐ

七月 三日 織田信長、宮中の蹴鞠會を拜觀す○明智光秀、日向守と爲り、姓を惟任氏と改む○羽柴秀吉、筑前守と爲り、桐を以て號とし金瓢を馬表と爲す

七月 六日 織田信長、京都市民主催の猿樂を妙顯寺に觀る

七月十一日 三河福釜城主松平親俊歿す

七月十三日 織田信長、奏請して公卿及び羽柴秀吉等五將の第邸を皇宮東南に營むことを許さる

七月十五日 織田信長、岐阜に還る○長曾我部元親の兵、土佐野根城を攻めて之を抜く、城將惟宗國長走りて甲浦城に入る

七月十六日 長曾我部元親の兵土佐甲浦城を陥る

七月二十日 徳川家康、遠江諏訪原城を攻む

七月 中 宇喜多直家、小早川隆景、備前常山城に三村高德を攻め之を陥る

七月 中 織田信忠、佐久間信盛を遣し三河武節城を取る



越前宗徒本願寺に應ず

七月 中 稻葉貞通、薙髮して一鐵と稱す  
八月 二日 四辻季遠薨す年六十三  
八月 四日 天台、眞言兩宗徒、服飾を争ひ相訴ふ、勅して之和解せしむ  
八月 九日 越前の餘黨安居景健、下間秀敏等、一向宗徒と亂を作り龍門、虎杖、木埋、鉢伏、火燧、水津、河野の諸城に據り大阪に應ず

織田信長越前に入る

八月十二日 織田信長、越前討伐の爲め、兵を率ゐて岐阜を發す  
八月十四日 織田信長、越前敦賀に著す  
八月十五日 織田信長の將羽柴秀吉等、越前本願寺一揆を撃ち、河野、龍門、木埋の諸城を抜き、柴田勝家、稻葉良通等は加賀に入り檜屋、大聖寺等の諸城を陥る  
八月十六日 織田信長、敦賀より府中龍門寺に陣を移す○安居景健、下間秀敏を斬り降を請ふ 織田信長許さず、之を誅す

越前平定

八月十八日 柴田勝家、津田信澄等、加賀鳥羽城を陥る○長曾我部元親、阿波に入り穴喰に陣し海部、日和佐、椿泊等の諸城を降す  
八月十九日 越前一揆、悉く平定さる  
八月廿二日 吉川元春、小早川隆景、伯耆に入りて尼子勝久を撃つ  
八月廿三日 織田信長、陣を越前一乗谷に移す  
八月廿四日 徳川家康、遠江諏訪原城を陥れ、牧野原と改稱す  
八月廿五日 大山義景、石塚義衛と隙ありて戦ふ

加賀平定

八月廿七日 織田信長の先鋒羽柴秀吉、加賀小松に至る○上杉輝虎、加賀松任城を陥れ、城將蕪木高秀を斬り、其首を織田信長に贈る  
八月廿八日 織田信長、兵を越前豊原に進む、堀江景忠、小黑西光寺等降りて加賀平定す  
八月廿九日 吉川元春、小早川隆景等、因幡に入り鬼城を攻む  
九月 二日 織田信長、豊原より北莊に至り此地を北陸經略の本營と爲し、柴田勝家、前田利家 佐々成政等に越前を分與し、戸次政次をして加賀を鎮せしむ

毛利氏因幡を平定

九月 三日 吉川元春、小早川隆景、尼子氏の屬城因幡私部城を陥る  
九月十四日 織田信長、諸將に令し北莊足羽山に假館を營む  
九月十五日 吉川元春の將杉原盛重、因幡鬼城を陥る、城主尼子勝久走りて宮吉城に入り、尋で但馬に奔り因幡悉く平定さる  
九月十六日 武田勝頼、兵を率ゐて遠江大井川上に陣し小山城を援く  
九月十八日 武田勝頼、遠江小山城に入り甲斐に還る○徳川家康、又濱松城に歸る  
九月二十日 前關白近衛前久、薩摩に奔る  
九月廿三日 織田信長、越前國の法制を柴田勝家に下し北隆を發す  
九月廿六日 織田信長、岐阜に凱旋す  
十月 十日 織田信長、岐阜を發す

越前法制を下す

十月十二日 織田信長、近江佐和山城に入る、尋で上洛し妙覺寺に館す  
十月十四日 一條内基を内大臣と爲す



毛利輝元織田氏に備ふ

十月廿一日 本願寺光佐、三好康長を遣はして和を織田信長に請ふ○毛利輝元、吉川元春、小早川隆景を因幡より召還し、織田信長の播磨侵入に備ふ

十月廿三日 織田信長、金剛寺に寺田安堵状を與ふ

十月廿八日 織田信長、京都及び堺の數寄者十七人を妙覺寺に招待し茶會を催す

十月 中 惟任光秀、長岡藤孝兵を丹波に出し赤井景遠を黒井城に攻む

日蓮宗壓迫

十月 中 詔して日蓮の徒を諸宗門列より除く

十一月 四日 織田信長を權大納言と爲す

十一月 七日 織田信長をして右近衛大將を兼ねしむ

十一月 十日 織田信忠、美濃岩村城に秋山晴近を攻む

十一月十三日 織田信長、岐阜に還る

十一月廿一日 美濃岩村城主秋山晴近、織田信忠に降る○織田信長、秋山晴近を長良川に磔殺す

十二月廿八日 織田信長、家督を長子忠信に譲り佐久間信盛第に移る

十一月 中 織田信長、使を越後に遣はして和を請ふ、上杉輝虎之を聽かず

十二月 七日 肝付兼護、伊東義祐と絶つ

十二月廿四日 織田信忠、岐阜に還る○遠江二俣城主依田信蕃、徳川家康に和を請ひ兵を率ゐて高天神城に入る○大久保忠世、二俣城に入る

十二月廿五日 前關白近衛前久、薩摩出水に至り専修寺に入る○三河刈屋城主水野信元自殺す

信長輝虎に和を請ふ

明の商船豊後に入る

是 歲 明商船、豊後に至り虎四匹、象一匹、孔雀、鸚鵡等を大友義鎮に贈る

天正 四年 丙子 皇紀二二二六六年 西曆一五七六年

正月十七日 織田信長、丹羽長秀を普請奉行と爲し近江安土城を築く

正月廿八日 織田氏の將惟任光秀、波多野宗貞を援けて赤井景遠を丹波に撃ち、敗れて近江坂本城に入る

二月 六日 龍造寺隆信、肥前須古城を修築し横澤、鹽田、貴志の諸城を抜く

二月 七日 徳川家康、遠江横須賀に城を築き、大須賀康高をして之を守らしむ

二月廿三日 安土城成る、織田信長之に移り、其子信忠に岐阜城を譲る

二月廿五日 小早川隆景、書を松浦鎮信、龍造寺隆信に與へて足利義昭の爲に戦艦を造らしむ

二月 中 能登七尾城主畠山義隆殺さる

三月 二日 一向宗徒、山城木津城を攻め之を抜く

三月 十日 左大臣西園寺公朝を罷む

三月十七日 徳川家康、今川氏眞を駿河に納め、松平家忠等に命じ之を擁して駿河の政令を掌らしむ

三月廿一日 松永久秀、十市常陸を大和平城に攻め之を取る

三月廿八日 大關高増、下野黒羽城に入る

一向宗徒木津城を抜く



三月廿九日 僧殘夢寂す年百三十九  
 三月中 上杉輝虎、毛利輝元と交渉を開始す  
 三月中 本願寺光佐、攝津石山城を築き、紀伊、加賀、越前門徒を嘯聚して武田、上杉、毛利氏と結び、織田信長討伐を謀る

三月中 上杉輝虎、大舉して越中に入り蓮沼城を陥れ、城將椎名泰種を仆し、神保氏治を守山城に攻めて之を抜く

三月中 安土城本丸成る

三月中 武田勝頼、遠江に出兵し高天神城に至りて徳川家康と芝原に戦ひ兵を收む

三月中 越後の諸將、上杉輝虎に甲斐討伐を説く、輝虎之を聽かず

四月 八日 大友義鎮、清恩鎮忠等を遣はし豊前彦山僧徒を攻めて火を放つ

信長大阪本願寺に迫る  
 四月十四日 織田信長、荒木村重、惟任光秀に命じ砦を野田、森口、天王寺等に築き大坂に迫る○本願寺光佐、砦を木津、難波に築き舟路を絶つ○本願寺光佐、加賀一向一揆をして上杉謙信の來援を求めしむ

四月廿六日 住吉社、兵燹に罹る

四月廿七日 結城義親の將佐藤忠秀、磐城棚倉城を攻めて之を陥る

四月廿九日 織田信長、京都に入る

四月中 柴田勝家、毛受家照を遣はして、加越二州の遺賊平定を織田信長に報す

五月 二日 織田信長の部將原田直政、三好康長等、根來寺僧徒を率る山城木津城を攻む、

一向宗徒本願寺を焼く

原田直政戦死す

五月 三日 本願寺僧徒、天王寺を焼く

五月 五日 織田信長、京都より大阪に向ふ

五月 七日 織田信長、本願寺僧徒を撃ちて大に之を破り、石山城を包圍し、荒木村重、木津城を陥る

五月 八日 常陸下妻城主多賀谷政経歿す

五月 十日 織田信長、筒井順慶をして大和を管せしむ

五月廿三日 武田勝頼、安堵状を聖應寺に授く

六月 一日 僧周麟寂す年七十九南遊集、謙齋雜稿、初渡集、謙齋詩集、再渡集

六月 五日 織田信長、京都に入り、佐久間信盛をして大阪を警備せしむ

六月 六日 徳川家康の將酒井正親歿す

六月 八日 織田信長、近江安土城に還る

六月十二日 足利義昭、毛利輝元、吉川元春等と京都を恢復せんとし、上杉輝虎、北條氏政と之を謀らしめ越甲相の和を説く

六月廿六日 近衛前久、鹿兒島を發す

六月中 葉室頼房薨す年五十

六月中 北條氏輝、下總に入り天神砦に據りて常陸下妻城を攻む、城主多賀谷重經、援を佐竹義重に乞ひ撃ちて之を却く

佐久間信盛に大阪警を備命す  
 足利義昭、京都恢復を謀る



毛利輝元本願寺を援けんとす

七月 一日 織田信長、近江安土城に天主閣を築く  
七月 三日 佐竹義重、結城義親に属するところの磐城棚倉城を攻む  
七月 四日 越前一向宗徒、上杉輝虎に援を求む  
七月 七日 相馬義胤、伊達輝宗と妙賀山に戦ふ  
七月 十三日 毛利輝元、本願寺を援けんとし能島、來島の兵船をして糧米を大阪石山城に納れしむ

輝虎加賀を略す

七月 廿三日 織田信長、伊達輝宗に上杉輝虎討伐の密書を送る  
七月 中 徳川家康、兵を出して遠江樽山砦を抜き、進んで勝坂城を攻む、天野景貫、潮見坂の險に據りて之を拒ぐ  
八月 四日 上杉輝虎、兵を飛彈に出し、姉小路自綱、三木大膳を降し江馬輝盛を高原城に攻め之を抜く

織田信長輝虎と絶つ

八月 廿三日 島津義久、大舉して伊東義祐の属城日向高原城を攻め之を抜く  
九月 八日 上杉輝虎、加賀に入り一向宗徒を撃破し、梅尾、増山兩城を陥れ、進んで小松城を攻む  
九月 十六日 織田信長、雁を献ず  
九月 中 織田信長、毛利輝元が足利義昭を保護せるを以て之と絶つ  
九月 中 龍造寺隆信、伊萬里家俊を肥前伊萬里城に攻め之を降す  
九月 中 羽柴秀吉、黒田孝高と兄弟の約を結ぶ

佐久間柴田加賀一揆をむ攻

九 月 中 若狭高濱城主逸見遠昌歿す  
九 月 中 加賀一向一揆、蜂起して織田信長の將戸次政次を大聖寺城に攻む、柴田勝家、佐久間盛政等來援し、御幸塚、小諸城を抜く、一揆走りて尾山松任城に入る  
十 月 九日 徳川家康、今川氏眞を濱松城に饗す  
十月 十二日 肝付兼護、其封邑大隅志布志、日向櫛間を島津義久に納む  
十月 十五日 尾張守畠山高政歿す  
十月 廿一日 僧宗順寂す年八十一

北條氏政足利義昭に應ず

十月 廿五日 能役者金剛新六歿す年七十  
十 月 中 北條氏政、織田信長夾撃承諾の旨を足利義昭に答ふ  
十 月 中 田村清顯、蘆名盛氏の属城岩代片平城を攻めて之を抜く  
十一月 四日 織田信長、京都に入り妙覺寺に館す、赤松義祐、別所長治等、來り謁す

信長内大臣となる  
興福寺安堵

十一月 十一日 徳川家康、遠江濱松を發し掛川城に至る  
十一月 十二日 徳川家康、陣を遠江横須賀城に移す  
十一月 十五日 徳川家康、濱松城に還る  
十一月 十七日 上杉輝虎、能登七尾城を攻め能登の諸氏を降す  
十一月 廿一日 右大臣九條兼孝を左大臣に、内大臣一條内基を右大臣に、織田信長を内大臣と爲す○織田信長、黄金二十枚を獻じ恩を謝す  
十一月 廿四日 織田信長、興福寺に安堵狀を與へ、朱印錢を收す○武田勝頼の兵、駿河田中城



北畠具教を殺す

十一月廿五日 織田信長、安土城に邁る  
十一月廿六日 織田信長、北畠具教を疑ひ之を弑す年四十九〇羽柴秀吉、伊勢多藝城を攻む、守將北畠政成自殺す

十一月廿八日 上杉輝虎、再び能登に入る

十一月 中 武田勝頼の將高坂昌信、上杉輝虎に書を致し信濃、上野に出兵なき事を請ふ  
十一月 中 龍造寺隆信、大村純忠を肥前大村城に攻む

三好長治民心を失ふ

十二月 五日 三好長治、暴虐民心を失ふ、細川眞之、兵を起して仁宇山に之を撃つ

十二月 十日 織田信長、吉良に遊獵す

十二月十五日 織田信長、其將織田忠寛を誅す

十二月十七日 織田信忠を左近衛少將と爲す

十二月廿七日 徳川家康、長女を奥平信昌に嫁す

葡萄牙人大砲を獻す

十二月 中 葡萄牙人、大友義鎮に大砲を獻す、之を國崩と稱す〇明人、瓦を造る術を傳ふ是 歲 蘆名盛氏、徳政を行ふ

天正 五年 丁丑 二二二七年 西曆一五七七年

正月 一日 勸修寺晴石薨す年五十五

正月 二日 土御門存脩薨す年五十二

正月十四日 織田信長、京都に入り妙覺寺に館す

上杉松永盟約す

正月廿二日 武田勝頼、北條氏政の妹を娶る

正月廿五日 織田信長、安土城に還る

正月 中 松永久秀、上杉輝虎に使を遣はして織田信長の夾撃を約す

二月 二日 雜賀三緘徒、根來杉坊等、織田信長に降る

二月 五日 上杉輝虎の將川田長親、越前宮野城を攻めて之を抜く

二月 九日 紀伊岩屋城主畠山貞政、雜賀根來寺の僧徒と兵を擧げて本願寺に應じ、和泉に入り貝塚、中野、千石堀に壘を設く〇織田信長、信忠、兵を率ゐて京都に入る

信長紀伊雜賀を征す

二月十三日 織田信長、京都を發して紀伊雜賀を征す

二月十六日 織田信長、河内若江を歴て香莊に至る

二月廿二日 織田信長、和泉佐野より信達に陣し、中野城を攻む

二月廿六日 前關白近衛前久、京都に入る

二月廿八日 織田信長、進んで和泉淡輪に至り、中野城を陥れ、織田信忠をして之を守らしむ

二月三十日 織田信長、淡輪を發し軍事を檢察す

三月 一日 織田信長、瀧川一益、惟任光秀等に命じて一揆の首領鈴木持久を紀伊雜賀に攻む

根來口の攻撃

三月 二日 織田信長、陣を鳥取八幡祠に移し、堀秀政、不破光治等をして根來口を攻めしむ



三月 五日 多賀谷重經、下總豊田城に豊田治親を攻む

三月 八日 相良義陽、島津義久と好を修す

三月 十二日 村井勝貞、皇居の四方牆壁を修築す

三月 十七日 羽前天童城主天童頼澄、最上義光と戦ひて敗れ、國を棄てて宮城に奔り國分盛氏に依る

紀伊平定

三月 廿一日 雜賀一揆の首領土橋平治、鈴木持久等降り、畠山貞政は岩屋城を致して逃走す、織田信長、砦を佐野に築き、佐久間信盛をして之を守らしむ

三月 廿三日 織田信長、河内若江に至る

信長入京

三月 廿五日 織田信長、京都に凱旋す

二月 廿七日 織田信長、近江安土城に還る

三月 廿八日 三好長治、細川真之と阿波新野に戦ひて敗れ、別宮浦に走りて自殺す

三月 中 織田信雄、伊賀森城を攻む、城主北畠具親、備後に走り毛利氏に依る

三月 中 足利義昭、織田信長の紀伊出征の虚に乗じ上杉輝虎に出兵を促す

三月 中 上杉輝虎、能登より越後に歸る

毛利輝元上杉氏に出兵を促す

四月 一日 毛利輝元、書を上杉輝虎に致し織田信長夾撃の爲め、越前、近江に出兵を促す

四月 四日 權中納言柳原淳光出奔す

四月 中 結城晴朝、北條氏政と絶ち、佐竹義重に援を求む

五月 中 僧朝日山日乘寂す

徳川武田相対峙す

五月 中 徳川家康、駿河に入り、武田勝頼亦遠州に來り相峙して戦はず  
五月 中 上杉氏の將直江實綱、毛利名左衛門に殺さる、輝虎、樋口兼續をして其家を嗣がしむ

六月 四日 筒井順慶、大和多聞城を毀つ

六月 十一日 江戸重通、小幡知貞を常陸大洗磯前社に殺す

六月 十九日 伊東義祐、湊村に島津忠長と大に戦ふ

六月 二十日 肥前大村城主大村純忠、龍造寺隆信に降る

六月 中 里見義弘、北條氏政と和す

六月 中 上杉輝虎、上杉義春に命じ越中、能登の叛徒を撃たしむ

六月 中 北條氏政、家督を長子氏直に譲る

七月 三日 伊達晴宗、鷹を織田信長に贈る

七月 十日 古澤經光、結城晴朝の兵と和歌原に戦ひ敗死す

七月 十七日 讃岐の諸將、毛利氏の屬城元吉城を攻めて敗る

七月 廿四日 北條氏繁、飯湫城に陣し佐竹義昭に備ふ

七月 中 下尾佐渡守、本間山城守、佐渡水畑城に據る、上杉輝虎、黒川實爲等を遣して之を降す

七月 中 上杉輝虎、能登に入りて七尾城を攻む、城將長重連、織田信長に援を乞ふ

七月 中 下總豊田城主豊田治親、叛臣飯見大膳に弑せらる



上杉輝虎越中に出兵す

閏七月 六日 織田信長、参内す  
閏七月 八日 上杉輝虎、能登を平げんとし、越中に出陣す  
閏七月十三日 織田信長、京都を發し安土に還る

閏七月二十日 長曾我部元親の兵、讃岐元吉城主香川義景を攻む、小早川隆景、穂田元清等を遣して之を救ふ

閏七月廿三日 織田信長、陸奥伊達晴宗に書を致し、越後本莊繁長と俱に上杉輝虎の背後を衝かしめんとす

輝虎越中能登加賀を略す

八月 八日 上杉輝虎、松永久秀と竊かに織田信長の夾撃を謀り、越中能登を攻略し更に加賀を侵す○織田信長の將柴田勝家、瀧川一益、羽柴秀吉、丹羽長秀、前田利家、佐佐成政等、加賀に入る、秀吉、勝家と隙あり中途にて還る

八月十一日 織田信長、羽柴秀吉を丹波に遣はし、惟任光秀を援けしむ

八月十七日 松永久秀、織田信長に叛して上杉輝虎に應じ大和信貴山城に據る

八月廿四日 武田勝頼、徳川家康と遠江横須賀に戦ふ

九月十五日 上杉輝虎、能登七尾城を陥れ、城將長重連を斬る

九月 八日 矢野三成、阿波一宮城を攻む、城主一宮成助敗れて大栗山に走る

九月廿四日 北條氏政、下野を侵し佐竹義重と戦ふ

九月廿七日 織田信忠、兵を率ゐて松永久秀討伐の爲め岐阜を發す

九月廿八日 織田信忠、安土城に著す

松永久秀自殺す

九月廿九日 織田信忠、大和に入る  
九 月 中 上杉輝虎、加賀に入り一向宗徒を降し、進んで小松、安宅、大道の諸城を抜き石動橋に至り、織田信長を走らし、遂に金澤城を陥れ、越前を侵す、信長退きて北庄を保ち、尋で近江長濱に入る

十月 一日 長岡藤孝、惟任光秀、筒井順慶等、大和片岡城を抜く

十月 三日 織田信忠、大和信貴山城を圍む、惟任光秀、長岡藤孝之に會す○柴田勝家、壘を加賀御幸塚、大聖寺に築き、佐久間盛政をして之を守らしめ兵を旋す

十月 十日 織田信忠、大和信貴山を陥る、松永久秀自盡す年六十八

十月十二日 織田信忠、京都に凱旋し妙覺寺に館す

十月十四日 肥前諫早城主西郷純堯、龍造寺隆信に降る

十月十五日 織田信忠を従三位左近衛中將と爲す

十月十六日 織田信忠、岐阜に還る

十月十九日 織田信長、羽柴秀吉をして播磨を略せしむ

十月二十日 武田勝頼、遠江を侵し大井川上る、徳川家康、馬伏塚に陣し戦はずして兵を引く

羽柴秀吉播磨を略す

十月廿三日 羽柴秀吉、播磨に著し黒田孝高に迎へられて姫路城に入る○徳川家康、濱松城に還る

十月廿五日 上杉輝虎、明春三月十五日を期し西上の令を發す



但馬平定

十月廿八日 羽柴秀吉、但馬に入り岩州城を抜き、竹田城を徇へ、其弟羽柴秀長をして之を守らしむ

十月 中 惟任光秀、長岡藤孝、丹波に入り波多野秀尙を龜山城に攻めて之を陥れ、尋で篠山、園部兩城を降す

十月 中 徳川家康、濱松城の改築を始む

十月 中 織田信長、衆僧を會して教法を討論せしむ

十一月 三日 筒井順慶、大和筒井城に歸る

十一月 五日 徳川氏の將植村氏明歿す年三十七

十一月 七日 上杉輝虎、其將柿崎景家を誅す

十一月 十二日 僧日秀寂す年八十三

十一月 十三日 織田信長、參朝す

十一月 十七日 阿波日和佐城主日和佐肥前守、長曾我部元親に降る

十一月 二十日 左大臣九條兼孝罷む○右大臣一條内經を左大臣に、内大臣織田信長を右大臣に二條昭實を内大臣と爲す

十一月 廿七日 羽柴秀吉、播磨上月城に上月景利を攻めて之を降し、福岡野城を抜き、山中幸盛、立原久綱をして上月城を守らしむ

十二月 三日 織田信長、京都より安土に還る

十二月 五日 陸奥探題伊達晴宗歿す年五十九

織田信長右大臣となる

宗論

島津義弘日向を略す

十二月 十一日 島津義弘、日向野尻城に入りて内山城將野村刑部、紙屋城將米良主税等を降し、佐土原城に迫る、城主伊東義祐、豊後に奔り大友義祐に依る

十二月 十三日 島津義久、伊東大炊助を日向本莊に誘殺す

十二月 廿三日 織田信長、安土に還る

十二月 中 上杉輝虎、能登より越後に還り、分國將士の名を録して上洛に備ふ

十二月 中 羽柴秀吉、播磨、但馬を平定して安土に凱旋す

是 歲 京都の南蠻寺成る、之を昇天寺と稱す○長崎甚左衛門、軍資を葡萄牙人に借りて長崎を抵當となせども返濟期日に辨ざる能はず、時津に退き遂に切支丹領と爲る

天正 六年 戊寅 皇紀二三三八年 西曆一五七八年

正月 一日 諸節會を復せらる○織田信長、安土城に諸將を招き茶會を催す

正月 二日 土持親成、島津義久と舊好を修す

正月 三日 十河存保、阿波勝瑞城に入る

正月 六日 織田信長を正二位に叙す

正月 十三日 中山孝親を准大臣と爲す

正月 十六日 准大臣中山孝親歿す年六十七

正月 十九日 上杉輝虎、兵を關東に遣し北條氏を撃破して後西上せんとし出陣の令を布く

正月 二十日 前内大臣正親町三條公兄歿す年八十五

諸節會を復す

播磨但馬平定す南蠻寺成る

輝虎北條氏を撃たんとす



尼子勝久再興を圖る

岩屋城毛利氏に屬す

濱松城修築成る

秀吉の中國經略

正月廿三日 前大臣今出川公彦薨す年七十三  
 正月廿五日 織田信長、安土に還る  
 正月 中 尼子勝久、羽柴秀吉に因つて出雲に入らんとし、山中幸盛等と謀りて尼子氏舊傳の松虫の轡を織田信長に獻じ、京都より播磨に赴き上月城に入る  
 二月 三日 磯野員正、織田信長に背きて出奔す  
 二月十三日 淡路岩屋城將菅平右衛門、毛利氏に屬す、毛利輝元、兒玉就忠を遣して之を守らしむ  
 二月十五日 蘆名盛氏、叛臣大槻政通、山内重勝を誅す  
 二月廿一日 伊東義祐の將米良四郎右衛門、日向を復さんとし援を大友義鎮に求む  
 二月十八日 徳川家康、濱松城の修築成る  
 二月廿三日 羽柴秀吉、兵を率ゐて安土を發し播磨に赴く  
 二月廿九日 織田信長、近江國中の相撲取三百人を安土城に召す  
 二月 中 宇喜多直家、播磨上月城を抜く、羽柴秀吉、之を復し再び尼子勝久をして守らしむ  
 三月 五日 織田信長、近江奥島山に放鷹す  
 三月 六日 羽柴秀吉、本營を播磨書寫山に移す  
 三月 七日 徳川家康、遠江掛川に出陣す  
 三月 八日 織田信長、安土に還る○徳川家康、陣を大井川上に移す

上杉謙信歿す

別所長治信長に抗す

三月 九日 徳川家康、駿河田中城に一條信龍を攻む  
 三月 十日 徳川家康、駿河牧野城に入る  
 三月十一日 上杉輝虎、越後春日山城に疾む  
 三月十二日 小早川隆景は安藝沼田を、吉川元春は出雲富田を發し全軍播磨に向ふ  
 三月十三日 關東管領上杉輝虎入道謙信歿す年四十九  
 三月十三日 徳川家康、兵を遣はして遠江小山城を攻む  
 三月十四日 織田氏の將長岡藤孝、惟任光秀、丹波に入りて波多野秀治を八上城に攻む  
 三月十八日 徳川家康、遠江濱松城に還る  
 三月廿三日 織田信長、京都に入る○播磨三木城主別所長治、織田信長に抗して播磨の形勢一變す  
 三月廿八日 羽柴秀吉、諸軍を督し播磨三木城に別所長治を攻む  
 三月三十日 柳原資定薨す年八十四  
 三月 中 小笠原長時、越後より會津に赴き蘆名盛氏に依る  
 三月 中 肥前有馬鎮貴、龍造寺隆信に降る  
 四月 一日 別所長治、播磨細川莊を襲ひ下冷泉爲純を殺す年四十八  
 四月 三日 羽柴秀吉、播磨野口城を攻め城將長井四郎左衛門を降す  
 四月 四日 關白、條晴良罷む○織田信忠、諸將を率ゐて大阪に赴く  
 四月 七日 織田信長、神保長治を遣はし越中を治めしむ



信長右大臣  
を辭す

四月 九日 右大臣織田信長罷む  
四月 十日 織田信長、瀧川一益、惟任光秀を丹波に遣して荒木氏綱を園部城に攻め之を降す

毛利氏秀吉  
に當らんとす

四月 十二日 大友義統、兵を率ゐて日向縣城を攻む、領主土持親成豊後に奔りて戦死す  
四月 十五日 毛利輝元、備中松山に陣し吉川元春、小早川隆景に命じ進んで猿山に軍し播磨上月城を圍ましむ○羽柴秀吉、救援の爲め高倉山に陣し、織田信長に援軍を求む

四月 十七日 徳川信康、濱松に赴き徳川家康に謁す

四月 十八日 徳川信康、岡崎に還る

四月 廿二日 織田信長、安土に還る

四月 廿七日 織田信長、京都に入り播磨を親征せんとす、佐久間信盛等の諸將之を諫めて止む

四月 中 長岡藤孝、惟任光秀、丹後に入り一色義有を撃破す

四月 中 織田信長、前田利家、佐々成政等をして北國を略せしむ

四月 中 龍造寺隆信、肥後隈府城を攻めて之を降す

五月 一日 織田信長、織田信忠を播磨に遣して羽柴秀吉を援けしむ

五月 二日 織田信忠、兵庫に抵る

五月 四日 徳川家康、駿河田中城を攻む

北國經略

上杉景勝景  
虎と争ふ

里見義弘歿  
す

信長入京

九鬼嘉隆毛  
利氏の水軍  
を破る

五月 六日 吉川元春の將山名盛重、羽柴秀吉の陣を撃つ○織田信忠、播磨加古川に陣す

五月 十一日 武田氏の部將高坂昌信歿す年五十二甲陽軍鑑全集二十二卷、甲陽軍鑑二  
十卷、甲陽軍鑑末巻結要本九卷等

五月 十三日 上杉景勝、上杉景虎と相續を争ひ之を遂ふ、北條長國、上杉憲景、本庄繁秀等は景虎を佐け、北條氏政、武田勝頼も亦援軍を送らんとし、兩黨國內に争ふ

五月 二十日 里見義弘歿す年四十九

五月 廿四日 羽柴秀吉、竹中重治を京都に遣して播磨八幡城主明石親景の歸順を織田信長に報ず

五月 廿七日 織田信長、安土に還る

五月 廿八日 佐竹義重、下野鬼怒川に陣し壬生城を攻む

六月 十日 織田信長、京都に入る

六月 十五日 羽柴秀吉、單騎馳せて京都に至りて織田信長に謁し命を受けて播磨に歸る

六月 十八日 上杉景虎、使を遣し北條氏政、武田勝頼に救を乞ふ

六月 十九日 島津義久、龍造寺隆信と好を修す

六月 廿一日 織田信長、安土に歸る○羽柴秀吉、吉川廣家等と播磨熊川に戦ふ

六月 廿六日 羽柴秀吉、播磨上月城の圍を解く能はず、高倉山を去りて書寫山に陣す○九鬼嘉隆、織田信長の命により鐵艦を造り、大坂へ廻送の途次、紀伊雜賀浦にて毛利輝元の水軍の糧食を本願寺に入れんとするを撃破し、三十餘艘を奪ひ和泉堺浦に達す



吉川元春秀吉を破る

六月廿七日 羽柴秀吉、播磨神吉城を攻む  
六月廿八日 吉川元春、羽柴秀吉と戦ひ大に之を破る  
六月廿九日 羽柴秀吉、兵を引く

六月三十日 上野金山城主由良成繁歿す

六月 中 長曾我部元親、讃岐を攻略し藤月城を陥る

六月 中 讃岐聖通寺城主奈良勝政、十河存保の援兵を乞ひ藤月城を復し守將青野重行を走らす

上月城陥る

七月 二日 明船、相模三崎港に來り北條氏と貿易す

七月 三日 播磨上月城陥り、守將尼子勝久自殺す年二十六〇立原久綱、近江に奔り、山中幸盛伴りて毛利氏に降る

七月 五日 里見義頼の將正木憲時、叛して安房濱萩、杵碕兩城を襲ひ之を抜く、眞里谷又四郎潜かに上總大多喜城に入り憲時を殺す

七月 六日 島津忠長、日向石城に長倉祐政を攻む

七月十三日 吉川元春、備中阿部に山中幸盛を誘殺す年三十四

七月十四日 大友義鎮、宣教師カブラルより洗禮を受く

七月十六日 織田信忠、播磨神吉城を陥れ城將神吉長則を斬る

七月二十日 島津義久、北郷時久と結ぶ

七月廿九日 徳川家康、其妹を松平康長に嫁す

大友義鎮洗禮を受く

明商伊豆に至る

七月 中 北條氏政、兵を率ゐて下野に入り皆川兵と大平山に戦ふ

七月 中 明商、伊豆に至り北條氏と貿易す

八月 一日 宇喜多直家、羽柴秀吉に依りて款を織田信長に通ず〇伯耆國主南條元續、出雲人福山光定と俱に羽柴秀吉に款を通ず〇吉川元春、福山光定を誅す

八月 三日 毛利輝元、諸軍を播磨より退く〇足利義昭、京都を恢復せんとし使を遣して島津義久に援を求む

輝元退く

八月 七日 飛鳥井雅敦薨す年三十一

八月 八日 遠江横須賀城將大須賀康高、武田勝頼の兵と高天神城下國安川に戦ふ

八月 十日 織田信忠、播磨志方城を攻め城將樺橋家治を降し、兵を轉じて三木城を攻む

八月十一日 織田信長、惟任光秀を長岡忠興に嫁せしむ

八月十五日 織田信長、近江及び京都の相撲取千五百人を安土城に召す

八月十七日 織田信忠、播磨を發し岐阜に歸る

八月十九日 徳川家康、駿河に兵を出す

八月廿一日 徳川家康、信康兵を率ゐて遠江小山城を攻む

八月廿六日 徳川氏の將松平家忠駿河田中城を攻む

八月 中 阿波勝瑞城主十河保存、長曾我部元親と中富川に戦ひて敗れ和を請ふ、夷山城主武像新左衛門、城を棄てて奔り、一宮成助來降す、元親之を斬る

九月 四日 徳川家康、大井川を涉り武田氏の兵を破りて駿河牧野城に入る

長曾我部元親阿波を侵す



武田勝頼越後に入る

北條氏政令制を定む

光秀藤孝等田邊城を攻む

九月 六日 松平家忠、駿河今木城を攻む○徳川家康は濱松に、徳川信康は岡崎に還る

九月 九日 織田信長、安土城に相撲を観る

九月十一日 足利義昭、毛利輝元に依りて京都恢復を圖り、書を島津義久に送り援助を請ふ

九月十六日 由良國繁、上野高津戸砦を攻む、守將里見勝政、勝安敗死す○梶原政景、常陸木田餘城を攻め之を陥る、城主小田氏治奔りて菅谷範政に依る

九月十七日 島津義久、島津征久を遣はし日向石城を攻む

九月廿四日 織田信長、京都に入り、尋いで大坂に赴き南巡して安部野に獵す○織田信長、齋藤新吾を遣して越中を略せしめ、大田保城を抜く○武田勝頼、兵を率ゐて越後に入り上杉景虎を援けんとし、却て上杉景勝と和す

九月廿九日 北條氏政、世田谷、新宿の制令を定む

九月三十日 織田信長、和泉堺浦に至り公卿其他に大船の威風を示す○日向石城將長倉勘解由左衛門、城を棄てて豊後に奔る

九月 中 織田信澄、惟任光秀、長岡藤孝等、丹波に入りて小山城を抜く、城將長澤義遠自殺す、尋で高山、馬堀の諸城を降す

九月 中 長岡藤孝、惟任城秀等、丹後田邊城を攻む、領主一色義通、但馬に走らんとし中山城に據りて敗死す

九月 中 毛利輝元の將村上景廣等、大坂河口に九鬼嘉隆の水軍を破りて石山城兵に糧を入る

勝頼駿河に入る

勝頼遠江に進む

秀吉三木城の糧道を絶つ

十月 一日 織田信長、九鬼嘉隆の水戦を観て二條城に還る

十月 五日 織田信長、二條城に相撲を興行し攝家清華に觀せしむ

十月 六日 織田信長、安土に還る

十月 八日 大須賀康高等、遠江國安川に出で高天神城兵と戦ひ之を破る

十月十四日 織田信長、近江長光山に放鷹す

十月十九日 武田勝頼、駿河に出陣す

十月二十日 大友義鎮、日向に入り田原紹忍をして高城を攻めしむ

十月廿三日 惟任光秀、丹波鬼嶽城を攻め、尋いで金山に陣し、赤井宗夏と戦ひ敗績して龜山城に還る

十月廿四日 日向三納郷の民、伊東義祐に應じ平山城を陥れ所在に放火す

十月廿五日 島津義久、大友氏討伐の爲め鹿兒島を發す

十月廿七日 徳川信康、濱松城に著す○島津義久、日向紙屋に至り、伊集院忠棟等をして佐土原を守らしむ

十月廿九日 武田勝頼、大井川を渡り遠江に入る○徳川家康、見付に兵を出す

十月 中 播磨中村城主中村一氏、別所長治に背きて羽柴秀吉に款を通ず、別所治定等、之を攻めて敗死す

十月 中 別所長治、攝津丹生山に砦を築き毛利氏の兵糧を三木城に入る○羽柴秀吉、三十餘の砦を築き三木、魚住の糧路を絶つ



荒木村重叛す

十一月 二日 武田勝頼、陣を遠江小山相良に移し、徳川家康、信康馬伏塚に陣す  
十一月 三日 織田信長、京都に入る○攝津守護荒木村重、伊丹城に據りて織田信長に叛き、毛利輝元、本願寺に應じ羽柴秀吉の夾撃を謀る、高槻城將高山友房、茨木城將中川清秀、花隅城將荒木村正、能勢城將能勢十郎、尼崎城將荒木村次、三田城將荒木重堅等之に應ず

信長村重を討たんとす

十一月 六日 織田氏の將九鬼嘉隆、毛利氏の水軍と木津浦に戦ひ之を破る  
十一月 九日 織田信長、荒木村重討伐の爲め京都を發し岡崎に至り、尋いで河内天野山に陣し攝津高槻城主高山友房を降す

耳川の戦

十一月 十一日 大友義鎮、島津義久と日向耳川に戦ふ、大友氏の宿將齊藤鎮實等之に死す  
十一月 十二日 大友義鎮、再び島津義久と日向耳川に戦ひて大敗し、大友氏の宿將吉弘鑑理、角隅石宗、臼杵鎮次、蒲池鑑盛等、戦死す○武田勝頼、遠江高天神城より駿河に赴く

十一月 十五日 織田信長、陣を河内天野山より大和郡山に移す○瀧川一益等、攝津伊丹城を攻む

十一月 十六日 攝津高槻城主高山友房、織田信長に來り調す

十一月 十七日 徳川家康、兵を遠江掛川に出し、武田勝頼、駿河島田に陣す

十一月 十八日 島津義久、大友氏の日向三納城を降し、鹿兒島に歸る○織田信長、總持寺に陣し攝津茨木城に迫る

秀吉村重を説く

十一月 十九日 攝津尼ヶ崎城陥る○龍造寺隆信、肥前より筑後に侵入す

十一月 廿四日 織田信長、部根山壘に抵り、茨木城主中川清秀を諭して之を降す

十一月 廿五日 武田勝頼、甲府に還る

十一月 廿七日 織田信長、陣を古池田に移す、中川清秀來り調す

十一月 廿八日 織田信長、進んで小屋野に陣す○羽柴秀吉、播磨より至り輕裝して攝津伊丹城に赴きて荒木村重説伏に手段を盡す、村重、其厚誼に感ずる所あり、秀吉再び播磨に還る

十一月 三十日 徳川家康、信康、濱松城に歸る

十一月 中 織田信長、二條第を皇室に獻ず

十二月 一日 龍造寺隆信、筑後より轉じて筑前に入る、尋で兵を班す

十二月 三日 荒木村重の將大矢田守將安部二右衛門等、織田信長に降る

十二月 四日 瀧川一益、丹羽長秀、兵庫一谷に火を放つ

十二月 八日 堀秀政等、伊丹城の總攻撃を開始す

十二月 十日 島津義久、足利義昭に復書し織田氏討伐の至難なるを陳ず

十二月 十一日 織田信長、又古池田に陣す

十二月 十三日 左大臣九條兼孝を關白と爲す

十二月 十五日 惟任光秀、再び丹波に赴きて八上城を攻む

十二月 廿一日 織田信長、古池田を發し京都に入る

伊丹城總攻撃



安土記

十二月廿五日 織田信長、安土に還る  
十一月 中 龍造寺隆信、秋月種實、筑紫廣門等、大友義鎮に叛す  
是 歲 南化和尙、安土記を作る  
天正 七年 己卯 皇紀二三三九年 西曆一五七九年

正月 五日 九鬼嘉隆、安土に至り織田信長に謁す

正月 九日 豊後長岩城主野中鎮兼、大友義鎮に叛す、加來統直等攻めて之を降す

正月十一日 大友義鎮、家督を其子義統に譲る

正月十八日 筑紫廣門、秋月種實、筑前巖屋城を攻む

正月二十日 内大臣二條昭實を右大臣に、三條西實枝を内大臣と爲す

正月廿二日 内大臣三條西實枝罷む

正月廿四日 前内大臣三條西實枝薨す年六十九 詠歌大概抄、時代相違色紙、三光院歌集、桂林集、三光院内府集、三内口訣、三光院故實西覽

正月廿七日 今出川晴季を内大臣と爲す

正月 中 上杉景勝、上杉景虎の將北條長國を斃す

二月 六日 播磨三木城主別所長治突出して、平井山に羽柴秀吉の本營を衝き敗績す

二月十八日 織田信長、京都に入り二條第に館す○徳川家康、松平家忠をして濱松城を修築せしむ

二月廿一日 織田信長、東山に鷹を放つ

二月廿七日 大友義統、叛將浦部城主田原親貫を攻めて之を誅す

三條西實枝 歿す

別所長治秀吉を攻めて敗る

毛利輝元字喜多直家の二心を怒る

二月廿八日 織田信長、東山に放鷹す

二月 中 島津義久、新納忠元等をして肥後を侵し、諸城を攻めしむ

二月 中 毛利輝元、字喜多直家の二心を怒りて、美作に入り諸城を抜き備中を攻略して還る

二月 中 羽柴秀吉、攝津丹生山城を陥る

三月 二日 織田信長、賀茂山に放鷹す

三月 三日 山科言繼薨す年七十三 權大納言言繼卿集、歴名上代、言繼卿記

三月 四日 織田信忠、北畠信雄、神戸信孝、京都に入り織田信長に謁す○高橋鑑種、大友義統に背きて豊前箕島城に杉重吉を攻む

三月 五日 織田信長、信忠、伊丹城の圍を巡視す

三月十四日 織田信長、多田谷に放鷹す○大友義統の將田原鑑尙、麻生元重、宗像氏貞等、叛して戸次鑑連と筑前に戦ふ

三月十六日 秋月種實、戸次鑑連等と筑前に戦ふ

三月十八日 上杉景勝、上杉憲政を誅す 年五、十六、上杉景虎、走りて鮫尾城を保つ

三月廿四日 上杉義春、越後鮫尾城を攻む、城將飯森澄之、片貝能連叛して上杉景虎遂に自盡す年二十八

三月廿五日 武田勝頼、遠江を侵して國安に至る、徳川家康、馬伏塚に陣す

三月廿六日 徳川家康、戸田康長をして松平家忠に代り遠江牧野城を守らしむ

武田勝頼國安に至る



長曾我部氏  
四國を平定す

明智光秀等  
播磨に赴く

三月廿七日 徳川家康、進んで遠江袋井に著す、武田勝頼、國安を去る○島津義久、使を琉球に遣はして舊好を修す

三月廿九日 武田勝頼、大井川を渡りて退く、徳川家康濱松に歸る

三月三十日 織田信忠、岐阜に歸る

三月 中 龍造寺隆信、三池鎮實を筑後三池城に攻めて之を抜き、小代城將小代親傳を降す

三月 中 長曾我部元親、伊豫を侵し河籠、大洲、八幡、鍛冶の諸城を降し、又讃岐香川信景を降して西讃岐を平定す

四月 七日 徳川秀忠生る○龍造寺隆信、蒲池鑑廣を筑後山下城に攻む

四月 十日 惟任光秀、筒井順慶等、播磨に赴く

四月十二日 織田信忠、北畠信雄、神戸信孝等、播磨に赴く

四月廿一日 三木城兵、織田信忠の陣を襲ひて利あらず

四月廿三日 武田勝頼、駿河江尻に出で進んで遠江國安に陣す、尋いで撤去す、

四月廿六日 織田信忠、小寺政職を播磨五著城に攻む

四月廿七日 准大臣烏丸光康薨す年六十七

四月廿八日 織田信忠、野瀬郡を侵略す

四月廿九日 織田信忠、古池田に歸り織田信長に謁す○前關白左大臣二條晴良薨す年五十四

四月三十日 織田信忠、岐阜に還る

北條氏の水  
軍敗る

光秀等丹波  
を略す

安土宗論

四月 中 北條氏政の水軍、武田勝頼の兵と駿河浮島原に戦ひて敗績す

四月 中 伊東義祐、大友義統の許を去つて伊豫道後に赴き大内榮運に依る

四月 中 長曾我部元親、再び伊豫を侵して三瀧、甲森兩城を陥る

五月 一日 織田信長、京都に入る

五月 三日 織田信長、安土に還る

五月 四日 徳川家康、駿河田中城を攻む

五月 五日 羽柴秀長、惟任光秀等、波多野宗長と丹波八幡山に戦ひて之を破る、宗長退いて氷上城を保つ

五月十九日 羽柴秀長、丹波久下城を陥れ、城將波多野宗貞を仆し、進んで氷上城を抜く、城主波多野宗長自盡す

五月廿五日 羽柴秀吉、攝津丹生山の砦を攻む

五月廿六日 播磨淡河城主淡河定範、砦を棄て三木城に入る○羽柴秀吉、攝津花隈と播磨三木城の聯絡を絶つ

五月廿七日 織田信長、安土淨嚴院に於て淨土僧靈譽、法華僧日光をして宗論を行はしめ、日光、辭屈せしを以て僧衣を褫ひ之を逐ふ

五月廿八日 北條氏政、小田原城を修築す

五月 中 島津義久、兵を率ゐて肥後に入り相良義陽と戦ふ

五月 中 龍造寺隆信、田尻鑑種をして肥後和仁城を攻め之を陥る



八上城を陥る

五月中 新納忠元、肥後を略し河内城を抜き名群城を築く  
 六月 一日 僧周良寂南遊集、城西聯句、謙齋雜稿、謙齋詩集、入年七十九唐記、初度集、再度集、九千句、三千句  
 六月 二日 惟任光秀、其母を質とし丹波八上城に送り城主波多野秀治、其弟秀尙を降し之を執へて安土に送る  
 六月 四日 織田信長、波多野秀治、秀尙を近江慈恩寺に誅す、八上城兵、之を怒り惟任光秀の母を殺す○小早川隆景、播磨魚住駐屯の兒玉元良に書を送り輸糧の方法を講ず

竹中重治歿す

六月十三日 竹中重治、播磨平山營に歿す年三十六  
 六月十六日 織田信長、筑山殿の隱謀に關し徳川家康の將酒井忠次に尋問す  
 六月十八日 織田信忠、安土に赴く  
 六月二十日 織田信長、京都に入る  
 六月 中 秋月種實、筑紫廣門等、筑前大宰府に陣して戸次鑑連と戦ひ、敗れて夜須に走る  
 六月 中 柴田勝家、主將と爲り前田利家、佐々成政、佐久間盛政を率ゐて越前より加賀に入る

柴田勝家諸將と共に加賀に入る

七月 一日 徳川家康、伊達輝宗に書を遣りて好を通ず  
 七月 五日 丹羽長秀、越前虎杖山、天王山及び岡山の諸城砦を陥る  
 七月十六日 徳川家康、良馬を織田信長に贈る

武田勝頼上野を侵す  
光秀丹波を平定

七月十九日 惟任光秀、丹波宇津城を抜き、進んで鬼ヶ城を攻む  
 七月廿一日 龍造寺隆信、河崎鎮堯を肥後生駒野城に攻め之を取る○惟任光秀、丹波福住城を陥る、城主靱山教業自盡す  
 七月廿三日 足利義昭、上杉景勝をして武田勝頼と結び、毛利輝元に應じて織田信長を討たしむ  
 七月 中 武田勝頼、西上野を侵し沼田城を陥れて進んで森下、那胡桃、猿原、小川、岩櫃、中城、新城、尻高等の諸寨を抜き、厩橋城に入る  
 七月 中 惟任光秀、長岡藤孝等、波多野氏の餘黨を丹波峰山城に攻めて之を降し、遂に弓木城主一色義定と和し、丹波を平定す  
 八月 三日 徳川家康、岡崎に至り世子信康を大濱に放逐す  
 八月 四日 戸次鑑連、糧を筑前荒平城に送り小田部紹叱を援く  
 八月 五日 徳川家康、三河西尾城に赴く  
 八月 七日 徳川家康、岡崎に歸る  
 八月 九日 惟任光秀、丹波黒井城を攻め之を抜く○徳川家康、世子信康を遠江堀江城に移す  
 八月 十日 徳川家康、世子信康を遠江二俣城に幽し、大久保忠世之を監す  
 八月十二日 織田信長、島津義久に書を與へ大友義統と和を講ぜしむ○徳川家康、本多重次をして岡崎城を守らしめ濱松城に還る

信長島津大友の和を圖る



八月十五日 戸次鑑連、戸次鎮榮等を遣はして麻生元重を筑前上松城に攻め之を陥る  
 八月廿二日 織田信忠、古屋野に出陣す  
 八月廿八日 龍造寺隆信、書を伊集院忠棟に送りて島津氏と大友氏を夾撃せんとす  
 八月廿九日 徳川家康、野中重政を小藪邑に遣はして其妻關口氏を筑山殿に誅す  
 八月 中 伯耆羽衣石城主南條元績、歎を織田信長に通じて吉川元春と戦ふ  
 八月 中 惟任光秀、脇坂安治等、丹波鬼ヶ城を攻め之を陥る、城將赤井直正自盡す  
 八月 中 原田隆種、筑前相子嶽城を攻む  
 八月 中 大津山資冬等、筑後高良山城を陥れて城將原田親興を斬る  
 八月 中 島津義久、相良義陽の兵を肥後水俣城に攻む  
 九月 一日 龍造寺隆信、蒲池鑑廣と筑後矢原に戦ふ  
 九月 二日 荒木村重、攝津伊丹城より尼崎に出奔し、遂に花隈城に遁る  
 九月 四日 羽柴秀吉、近江に至りて織田信長に謁し、宇喜多直家の降を納めしを告ぐ、信長其專制を怒り播磨に歸らしむ  
 九月 五日 北條氏政、徳川家康と和し織田信長と共に武田勝頼を夾撃せんとす  
 九月 六日 秋月種實、筑前寶蒲城を攻む  
 九月 十日 毛利氏の兵、兵糧を播磨三木城に運ばんとし、大村に羽柴秀吉と戦ひて大敗し別所長治の將淡河定範之に死し、羽柴氏の將谷衛好も戦死す年五十  
 九月十一日 織田信長、京都に入る○北條氏政、鷹を織田信長に贈る

荒木村重花隈に遁る  
信長秀吉の專制を怒る

毛利氏兵糧を三木城に入れんとし成らず

織田徳川北條の盟成る

信長法華僧に罰金を徴す

九月十二日 織田信忠、兵を分ちて尼ヶ崎に赴き七松に逼る  
 九月十三日 織田信長、北條氏政、徳川家康の三同盟成る○武田勝頼、駿河黄瀬川に北條氏政と對峙す  
 九月十四日 織田信長、京都の法華宗側僧侶に黄金二百枚の罰金を徴す  
 九月十五日 徳川信康自盡す年二十一  
 九月十七日 徳川家康、濱松を發し掛川に至る○武田勝頼、駿河に入り沼津城を築き、高坂源五郎をして之を守らしむ  
 九月十八日 徳川家康、駿河に入り田中城を攻む  
 九月十九日 徳川家康、松平家忠をして駿河持舟城を攻め之を抜く  
 九月廿一日 織田信長、伊丹に赴く  
 九月廿四日 織田信長、攝津池田に赴き諸所の柵壘を巡視す  
 九月廿五日 武田勝頼、甲斐に歸る  
 九月廿八日 織田信長、攝津茨木に宿す  
 九月三十日 徳川家康、遠江諏訪原城に入る  
 九月 中 吉川元春、伯耆羽衣石城に南條元績を攻めて、之を陥る  
 九月 中 戸次鑑連、筑前上坂、許斐兩城を攻め城將麻布元重、原田鑑尙を仆す  
 十月 一日 徳川家康、濱松に還る  
 十月 二日 種子島時堯歿す年五十二

吉川元春伯耆を攻む



十月 八日 織田信長、安土に歸る  
 十月 九日 徳川家康、今川氏眞を濱松城に襲す  
 十月十五日 瀧川一益、攝津上藤塚城將中西新八郎を諭し之を降す  
 十月十八日 惟任光秀、丹波福地山に至る  
 十月十九日 徳川家康、遠江掛川に出陣す  
 十月二十日 上杉景勝、武田勝頼の妹を娶る  
 十月廿一日 徳川家康の將大須賀康高、武田勝頼の兵を駿河河上に撃ちて之を破る  
 十月廿四日 惟任光秀、安土に至り織田信長に謁して丹波丹後平定を告ぐ  
 十月廿五日 北條氏政は伊豆三島に陣し、武田勝頼と黄瀬川に對峙す○徳川家康、進んで駿河を侵す

十月三十日 織田信長、宇喜多直家の降を許す  
 十一月 四日 織田信長、京都に入る  
 十一月 七日 駿河牧野城守將松平家忠、武田氏の兵を瀧坂に破る  
 十一月十一日 徳川家康、遠江掛川に出陣す  
 十一月十二日 徳川家康、馬伏城に陣す  
 十一月十五日 徳川家康、濱松に還る  
 十一月十六日 織田信長、二條第より妙覺寺に移る  
 十一月十九日 攝津伊丹城守將荒木久左衛門、瀧川一益に降りて花隈に走り、織田信澄遂に城

十一月廿二日 織田信長、二條第を新築し之を皇太子誠仁親王に獻す  
 十一月廿四日 武田氏の兵、駿河田中城を出て國安に陣す  
 十一月 中 龍造寺隆信、筑後山下城に蒲池鑑廣を攻めて之を降す  
 十一月 中 小早川隆景、吉川元春、備中に入り忍山城を陥る  
 十一月 中 龍造寺隆信、原田信種をして筑前安樂平城を抜く、城將小田部鎮通自殺す  
 十二月 十日 織田信長、山崎に至り寶寺に留りて荒木氏の事を處斷す  
 十二月十三日 織田信長、瀧川一益に命じ荒木村重の一族三十餘人を京都に護送し、家臣婦女召使等に至る迄、磔又は燒殺に刑す

信長荒木氏の一族を刑す

安土に耶教教會堂を造るを許す

十二月十四日 織田信長、山崎より京都妙覺寺に歸る  
 十二月十七日 織田信長、猿樂を張る  
 十二月十九日 織田信長、安土に歸る  
 十二月 中 池田信輝、攝津花隈城を抜く、荒木村重、備後尾道に走り毛利氏に依る  
 十二月 中 織田信長、領内に布告し安土城を參觀せしむ  
 是 歲 織田信長、宣教師オルガンチノに教會堂及び住宅を安土に造るを許す  
 天正 八年 庚辰 皇紀二四〇〇年 西曆一五八〇年  
 正月 三日 阿波一宮成助、長曾我部元親に通じ、三好存保を讃岐に逐ふ  
 正月 六日 羽柴秀吉、播磨宮之上砦を攻め之を陥る



正月十一日 羽柴秀吉、羽柴秀長等、播磨鷹之尾の砦、新城を攻め之を陥れ鷹之尾に陣を移す

正月十五日 播磨三木城主別所長治、使を淺野長吉の陣に致し弟友之、叔父賀相と共に自殺し城兵を救はんことを請ふ、羽柴秀吉之を許し酒肴を贈る

三木城陥る  
正月十七日 三木城遂に陥る、城主別所長治、別所友之自殺し、魚住、高砂、端谷、御着の屬城皆潰ゆ

正月 中 南條元續兄弟、兵を率ゐて出雲島田城を攻め吉川氏の兵と戦ふ

二月 八日 秋月氏の兵、大友宗麟の兵を猪膝に破る

二月廿一日 内大臣今出川晴季罷む、徳大寺公維を内大臣と爲す

二月廿二日 吉川氏の部將今田經忠、出雲島田城に於て南條氏の兵と戦ふ

二月廿六日 織田信長、將に京都本能寺に移らんとし其普請を命ず

二月廿九日 根來寺の岩室坊、山崎に至り織田信長に謁す

二月 中 長岡藤孝父子、丹後八幡城に入り一色義定を女婿と爲し、諸城を攻略す

二月 中 織田信長、京都より大坂近接の地を巡察し、本願寺に對し示威運動を爲す

三月 一日 織田信長、勅命を奏請して本願寺光佐に大坂退去を促す

三月 三日 織田信長、大和郡山に放鷹し攝津伊丹城に入る

三月 七日 織田信長、伊丹城より山崎に歸る

三月 八日 織田信長、京都妙覺寺に入る

信長本願寺光佐に退去を促す

信長本願寺光佐と和す

三月 九日 北條氏政の使者、京都に至り織田信長に謁す

三月十五日 武田勝頼、北條氏政と伊豆の海上に戦ふ○織田信長、奥之島山に赴き鷹を放つ

三月十七日 織田信長、本願寺光佐と和す

三月十九日 織田信長、安土に歸る

三月 廿日 織田信長、妖僧無邊を誅す

三月廿八日 織田信長、安土に還る

三月 中 荒木村重の家臣等、高野山西院谷、池ノ坊に匿る

閏三月 二日 池田信輝父子、花隈城兵を撃破す○本願寺光佐、勅答に關する示諭を受く

閏三月 六日 織田信長、青山虎を檢使として大坂本願寺に遣す

閏三月 七日 織田信長、本願寺光佐夫妻に黄金を贈る

閏三月 九日 柴田勝家、加賀に亂入し所在に放火攻略す

閏三月十六日 織田信長、安土に伴天連の屋敷を興ふ

閏三月 中 大和筒井順慶、封内寺院の洪鐘を收めて銃器を鑄る

四月 九日 本願寺光佐、婦女を紀井雜賀に移す

四月十一日 本願寺光佐、大坂を退去して紀伊鷲森に入り、新門跡本願寺光壽は石山御堂に據る

四月 中 羽柴秀長、但馬此隅城を攻めて山名祐豊を降して但馬を平定す

五月 三日 織田信忠、北畠信雄、安土に參著す

本願寺光佐紀伊に退く但馬平定

柴田勝家加賀に亂入す



光佐門徒に  
教書を下す

山名豊國播  
磨に走る

長曾我部元  
親信長に物  
を獻す

信長本願寺  
光壽と和す

五月 五日 織田信長、近江安土城に一門衆を饗す  
 五月 七日 織田信長、さきに近江安土城下に土木を起し、是日工を竣る  
 五月 廿四日 本願寺光佐、諸國門徒に教書を下す  
 五月 中 羽柴秀吉、兵を率る播磨より因幡に向ふ  
 六月 六日 羽柴秀吉、因播鹿野城を降し山名豊國の女を收めて鳥取城に向ふ  
 六月 廿一日 因播鳥取城主山名豊國、城を棄て播磨に走る、其老臣森下通興等、山名豊弘を擁して吉川氏に援を乞ふ

六月 廿六日 長曾我部元親、惟任光秀の執りなしを以て織田信長に物を獻す  
 六月 三十日 織田信忠安土に參著す  
 六月 中 英國の商船平戸に來航す  
 七月 十九日 龍造寺隆信、筑前立花城將戸次鑑連と和す  
 七月 八日 内大臣徳大寺公維罷む、前内大臣今出川晴季を内大臣と爲す  
 七月 十七日 織田信長、本願寺光壽に赦免狀を與ふ  
 七月 廿日 大坂城請取奉行矢部喜七郎赴く  
 七月 廿三日 本願寺光壽、門徒に大坂退去を告ぐ  
 七月 廿四日 織田信長、本願寺光壽と和す  
 七月 廿八日 矢部善七郎、本願寺光壽より石山御堂を受取る  
 七月 中 織田信長、荒木村重の家臣擲取の爲め前田利家を高野山に赴かしむ、僧徒之を

本願寺光壽  
紀州に退く

安藤加賀守  
父子を追放  
す

加賀平定

欺き還す

せしむ

八月 二日 本願寺光壽、大坂を退去し紀伊鷺森に移り、城地全く織田信長の手に歸す  
 八月 十二日 織田信長、京都より大坂に赴く○織田信長、書を島津義久に與へ大友宗麟と和せしむ  
 八月 十三日 織田信長、佐久間盛政父子に譴責狀を發し高野山に逐ふ  
 八月 十四日 北條氏政、武田勝頼と相峙し徳川家康に來援を求む○織田信長、攝津、河内、大和の諸城寨を毀つ  
 八月 十七日 織田信長、大坂より京都に還り林通勝、安藤伊賀守父子、丹波右近等の舊罪を責め之を追放す  
 八月 廿五日 織田信長、瀧川一益等をして大和の地を檢せしむ  
 八月 中 徳川家康、遠江高天神城攻圍を開始す  
 八月 中 能登七尾城主長連龍、織田信長に降る  
 八月 中 細川藤孝、丹後を平定す  
 九月 十日 高辻長雅薨す年六十五  
 九月 十一日 龍造寺隆信、筑後を攻略す  
 十月 廿七日 前右大臣花山院家輔薨す年六十二  
 十一月 三日 内大臣今出川晴季罷む、近衛信基を内大臣と爲す  
 十一月 十七日 柴田勝家、加賀一揆を平定す



十一月 廿日 柴田勝家、加賀一揆の主謀者を斬りてその首を安土に送る  
 十一月 廿三日 本願寺光壽新門 門徒に書状を下して多年の功勞を謝す  
 十一月 月中 僧景秀寂す年八十五  
 十二月 廿九日 正親町帝妃藤原房子薨す  
 是 歲 加賀、能登、越中、織田氏の領土と爲る

天正九年 辛巳 皇紀二二四一年 西曆一五八一年

正月 三日 織田信忠、尾張清洲城に赴き武田勝頼に備ふ  
 正月 十五日 織田信長、安土に馬揃を施行す  
 正月 廿三日 織田信長、惟任光秀に命じ京都馬揃を諸將に觸れしむ  
 正月 中 京極高吉歿す年七十八

二月 七日 三條實綱薨す年二十

二月 十四日 宇喜多直家歿す年五十三  
 二月 十九日 織田信忠、北畠信雄、京都に入り妙覺寺に館す  
 二月 廿日 織田信長、京都に至り本能寺に入る  
 二月 廿四日 柴田勝家等、上洛して織田信長に謁す  
 二月 廿八日 織田信長、惟任光秀を奉行とし京都に大馬揃を施行して天覽に供し、盛儀壯觀を極む

二月中 毛利氏の將吉川經家、市川雅樂允に代りて鳥取城に入る

長曾我部元親一條内政を逐ふ

佐久間盛政加賀一揆を破る

羽柴秀吉鳥取城に迫る

二月中 長曾我部元親、一條内政を伊豫に逐ふ

三月 二日 近衛前久、書を島津義久に與へて大友宗麟との和睦を勧告す

三月 五日 織田信長、禁中の御所室により小馬揃を施行す

三月 六日 上杉景勝の宿將河田豊前、柴田勝家等の不在なるに乗じ加賀一揆と相應じて兵を擧ぐ

三月 九日 佐久間盛政等、加賀一揆を撃破す

三月 十日 織田信長、安土より竹生島に參詣し長濱を経て歸城し、出遊の女房及び桑實寺の長老等を刑す

三月 十五日 上杉景勝等、越中小井手城を攻む

三月 廿三日 徳川家康、武田勝頼の屬城遠江高天神城を陥る、城將岡部長教戦死す

四月 十九日 織田信長、堀秀政を遣はし和泉の檢地をなさしむ

四月 廿九日 關白九條兼孝罷む、左大臣一條内基を關白と爲す

五月 十日 堀秀政、和泉槇尾寺拒命せしを以て之を燒く

五月 廿四日 河田豊前、越中松倉城に歿す

六月 廿五日 羽柴秀吉、姫路城を發し但馬を経て因幡に入り鳥取城に迫る

六月 廿八日 島津義久、近衛前久の執事伊勢貞知に書を遣りて勸告に答ふ

七月 五日 先鋒羽柴秀長、因幡丸山城の東に著陣し附近を偵察す

七月 七日 羽柴秀吉の全軍、因幡鳥取城附近に集合し諸將部署に就きて攻圍を開始す



畿内の馬揃

信長高野山の聖僧を刑す

柴田勝家伊達輝宗と結ぶ

七月廿一日 織田信忠、安土に至る  
 七月 中 武田勝頼、甲斐韮崎の西北に新城を築きて新府と稱す  
 八月 一日 織田信長、畿内隣國の衆、安土にあるものを聚めて馬揃を施行す  
 八月十四日 織田信長、愛馬三疋を羽柴秀吉に贈る  
 八月十七日 織田信長、前田利家に能登を與ふ  
 八月十八日 織田信長、高野山の聖僧數百人を誅す  
 八月廿五日 羽柴秀吉の兵、因幡加露川に毛利氏の運送船を燒く  
 八月 中 島津義久、大舉して肥後葦北郡に入る、相良義陽、水俣を棄てて佐敷に退く  
 八月 中 佐竹義重、北條氏の兵を下野佐野城に破る  
 九月 三日 織田信長、北畠信雄に伊賀征伐を命ず  
 九月 十日 三好在保、阿波勝瑞城を復し、一宮成助を逐ふ  
 九月十一日 北畠信雄、伊賀一國を殆んど平定す  
 九月 中 柴田勝家、伊達輝宗と結び上杉景勝に當らんとす  
 九月 中 相良義陽、島津義久に降を乞ひ、其幼兒を質とし津奈木、佐敷、湯浦、日奈子、高田等の諸城を致す、義久之を許す  
 十月 二日 織田信長、前田利家を能登七尾城に置き能登を鎮せしむ  
 十月 九日 織田信長、伊賀視察の爲め安土を發す  
 十月 十日 織田信長、伊賀一ノ宮に至る

鳥取城陥る

高野山攻撃

淡路平定

因幡平定

十月十二日 太田康資歿す年五十一  
 十月十三日 織田信長、伊賀一ノ宮より安土に還る  
 十月二十日 羽柴秀吉、堀尾吉晴を使者として吉川經家に降を勧告す  
 十月廿五日 羽柴秀吉、因幡鳥取城を陥る、守將吉川經家自盡す年三十五  
 十月廿七日 吉川元春、羽柴秀吉と伯耆馬山に對峙す  
 十月廿八日 吉川元春、挑戦すれども羽柴秀吉之に應ぜず  
 十月廿九日 羽柴秀吉、因幡鳥取城に退き、吉川元春亦た安藝新庄に歸る  
 十月 中 織田信長、其子信孝をして高野山を攻めしむ  
 十一月 八日 羽柴秀吉、姫路に歸る  
 十一月十七日 羽柴秀吉、淡路島に涉り岩屋城を降し淡路を平定す  
 十一月 廿日 羽柴秀吉、姫路に凱旋す  
 十一月 中 武田勝頼、織田氏の質子織田勝長を送還す  
 十二月 一日 相良義陽、肥後御船城主甲斐宗運と戦ひて敗績す  
 十二月 二日 相良義陽歿す年三十八  
 十二月 廿日 羽柴秀吉安土に至り織田信長に莫大の歳暮祝儀を獻す  
 十二月廿二日 羽柴秀吉、姫路城に還る  
 十二月廿四日 武田勝頼、甲斐新府に移る  
 十二月 中 羽柴秀吉、因幡を平定す



天正十年 壬午 皇紀二二四二年 西曆一五八二年

日本最初の遣歐使節羅馬に向ふ

正月廿五日 織田信長、伊勢皇太神宮の正遷宮を行ふ  
正月下旬 小早川隆景、備中の諸將を備後三原に會して訓示す  
正月廿八日 大友宗麟、大村純忠、有馬晴信等の遣歐使節伊東祐益、千々石直員等葡萄牙船イニヤス・リマ號に乗じて長崎を出發し羅馬に向ふ

長曾我部元親信長と絶つ

正月 中 伊達政宗、田村清顯の女を娶る  
正月 中 島津義久、相良氏の内訌に乗じて肥後八代を略す  
正月 中 織田信長、長曾我部元親に土佐及び阿波二郡をのみ領せしめ、他を侵すことなからしむ、元親茲に於て信長と絶ち、紀伊雜賀衆と結びて侵略を事とす  
二月 一日 信濃福島城主木曾義昌、織田信長に應じ兵を擧げて武田勝頼の兵と戦ふ  
二月 二日 前關白近衛前久を太政大臣と爲す○武田勝頼、甲斐新府城より信濃諏訪上原に出陣す

二月 三日 織田信長、武田勝頼を攻めんとし徳川家康、北條氏政に共に撃たんことを通牒す

二月 六日 河尻秀隆、信濃伊那口の瀧澤砦を奪ふ

信長元親を攻めんとす

二月 九日 織田信長、長曾我部元親を攻めんとし、三好康長をして阿波に入らしむ  
二月十二日 織田信忠、岐阜を發す  
二月十四日 織田信忠、美濃岩村に陣す○織田氏の兵、信濃松尾、飯田兩城を抜く

二月十五日 織田信忠、信濃飯田城に至り、尋いで大島城に入る

二月十六日 織田長益等、木曾義昌を援けて、武田勝頼の將今福昌弘を信濃鳥居嶺に破る

二月十七日 遣歐使節伊東祐益等、馮港に至る

二月十八日 徳川家康、遠江濱松城を發す

二月十九日 徳川家康、駿河牧野城に入る

二月 廿日 徳川家康、駿河田中城を攻む、城將依田信蕃、開城して甲斐に奔る

二月廿一日 徳川家康、駿府に著す

二月廿三日 徳川家康、駿河持舟城を攻む

二月廿七日 駿河持舟城主朝比奈攝津守、開城して久野に退く

二月廿八日 武田勝頼、信濃上原より甲斐新府に退く○北條氏政、駿河に入り、戸倉城を攻めて主將笠原範貞を殺し、興國寺城に陣す

二月 中 織田氏の宿將佐久間信盛歿す

三月 一日 駿河江尻城主穴山信君、岩原に抵り徳川家康に歸順す○織田信忠、信濃高遠城を攻む

三月 二日 信濃高遠城遂に陥る、守將仁科信盛戦死す年三十四

三月 三日 織田信忠、信濃上諏訪社を焼き、次で高島、深志兩城を攻めて之を降す○武田勝頼、甲斐新府を焼きて岩殿城に遁る

三月 四日 武田勝頼、甲斐駒飼に至る

高遠落城

家康田中城を攻む



織田信長安土を發す

三月 五日 織田信長、安土を發す  
三月 七日 織田信忠、甲斐古府に入り武田氏の餘黨を搜索し之を誅す  
三月 八日 織田信長、岐阜より大出に至る  
三月 九日 徳川家康、甲斐西郡萬座に陣し諸兵身延に進む、穴山信君、案内として文殊堂市川口より攻入る

天目山の戦  
武田氏滅亡す

三月 十日 織田信長、高野に至る○武田勝頼、甲斐駒飼より道を轉じて天目山に赴く  
三月 十一日 織田信長、美濃岩村に至る○武田勝頼、瀧川一益に圍まれ甲斐天目山の麓田野にて夫人北條氏九、信勝六と共に自盡す年三十七。○上杉景勝、越中富山城を攻めて之を復す○尋いで柴田勝家、魚津、松倉兩城を圍む

羽柴秀吉姫備中に入らんとす

三月 十五日 羽柴秀吉備中を攻めんとし姫路を發す  
三月 十六日 羽柴秀吉備前福岡に至る  
三月 十八日 織田信長、信濃高遠城に入る  
三月 十九日 織田信長、庶政の沙汰をなし、尋いで武田氏舊領土の處分を爲す○羽柴秀吉備前沼城に抵る

上杉景勝窮地に陥る

三月 廿三日 織田信長、瀧川一益をして上野厩橋城に入り關東を鎮せしむ  
三月 中 織田信長の將柴田勝家、佐々成政、前田利家等、越中越後に亂入し上杉景勝、窮地に陥る  
四月 一日 河野通直、西園寺公廣、伊豫の兵を發して毛利氏を援く

甲斐惠林寺焼かる

四月 二日 織田信長、甲斐に入る  
四月 三日 織田信忠、甲斐惠林寺を焼く、僧快川等之に死す  
四月 四日 羽柴秀吉、備前岡山に至る  
四月 五日 羽柴秀吉、蜂須賀正勝、黒田孝高等を備中に遣し高松城主清水宗治に勸降せしむ、宗治之を肯かず○上杉景勝、信濃の諸氏と結び森長可を飯山城に攻む

秀吉龍王山に陣す

四月 十日 織田信長、甲府を發し路を東海道にとりて凱旋の途に上る  
四月 十二日 織田信長、駿河大宮に抵る  
四月 十三日 織田信長、駿河江尻城に著す  
四月 十四日 羽柴秀吉、宇喜多直家の兵を合して備中に入り、龍王山に陣し宮路山、冠山兩城を攻む  
四月 十五日 織田信長、遠江掛川城に抵る  
四月 十六日 織田信長、遠江濱松城に抵る  
四月 十八日 織田信長、尾張池鯉鮒に抵る  
四月 十九日 織田信長、尾張清洲城に抵る  
四月 二十日 織田信長、美濃岐阜城に入る

信長安土に凱旋

四月 廿一日 織田信長、近江安土に凱旋し、直に四國討伐の命を發す  
四月 廿五日 羽柴秀吉の兵、備中冠山城を陥る、守將林重眞自殺す  
四月 廿七日 羽柴秀吉の諸軍、備中高松城に迫る



高松城水攻に着手

四月 中 遣歐使節伊東祐盛等コチンに著す  
五月 二日 羽柴秀吉、備中宮路山城を抜く  
五月 七日 羽柴秀吉、陣を備中蛙ヶ鼻に移し高松城の水攻に著手す  
五月 十一日 徳川家康、穴山信君を伴ひ濱松を發し安土に赴く○織田信長、織田信孝、惟任光秀等をして四國を征せしむ

惟任光秀に中國出陣を命ず

五月 十五日 徳川家康、穴山信君、安土に至る、織田信長の之を遇する慇懃を極む○織田信長、惟任光秀に中國出陣準備の爲め歸國を命ず  
五月 十七日 惟任光秀、安土城を出でて坂本に還り出陣準備を爲す

毛利氏高松城を援けんとす

五月 十九日 織田信長、安土總見寺に幸若八郎九郎大夫の舞を催し徳川家康を饗す  
五月 二十日 安土にて梅若大夫の能を演ぜしめ大振舞ひあり  
五月 廿一日 徳川家康、上洛の途に上る、京都、大坂、奈良、堺見物の爲めなり○小早川隆景は備中日指山に、吉川元春は岩崎山に、毛利輝元は猿懸山に陣し、全力を擧げて高松城を來援す

光秀連歌會を催す  
信長本能寺に入る

五月 廿三日 瀧川一益、上杉景勝と三國峠に戦ふ  
五月 廿六日 惟任光秀、近江坂本城を發して丹波龜山城に至り連に出陣準備をなす  
五月 廿七日 惟任光秀、丹波龜山城より山城愛宕山に宿禰す  
五月 廿八日 惟任光秀、愛宕山西坊に於て連歌師里村紹巴等と百韻の連歌を神前に納む  
五月 廿九日 織田信長、安土を發して京都本能寺に入る○森長可、信濃太田切より芦川城を

に入る

陥れ越後に亂入す

本能寺の變

六月 一日 惟任光秀、丹波龜山城を發し老坂より左行して京都に進む  
六月 二日 惟任光秀、京都本能寺を襲撃す織田信長自殺す年四十九、二條城陥る、織田信忠自殺す年二十六○徳川家康、和泉堺より間道を経て三河に赴く、穴山信君途に誅せらる○毛利輝元、安國寺惠瓊をして羽柴秀吉と和を講ぜしむ

羽柴秀吉毛利氏と和す

六月 三日 本能寺の變、羽柴秀吉の許に達す○柴田勝家、佐々成政、越中魚津城を陥る○安土城守將蒲生賢秀、織田信長夫人及び幼兒を奉じて日野城に移る  
六月 四日 備中高松城將清水宗治自盡す年四十六○羽柴秀吉、毛利輝元と誓紙を交換し和議全く成る○羽柴秀吉、夜より撤兵を開始す○徳川家康、舟にて三河大濱に著す

明智光春安土城を收む

六月 五日 神戸信孝、丹羽長秀等、大坂城に於て津田信澄を殺す○明智光春、安土城を收む○徳川家康、惟任光秀を討たんとして軍備を爲す○羽柴秀吉、高松を去り備前沼に至る○惟任光秀、近江を平定し日野城主蒲生賢秀、細川忠興等を招く、賢秀等之を却く

秀吉姫路城に入る

六月 六日 羽柴秀吉、姫路城に入る、諸軍七、八兩日中に到着す○惟任光秀、禁制を近江多賀社に掲ぐ  
六月 七日 徳川家康、岡崎城に歸る○關東管領瀧川一益、本能寺の事變を聞き上洛の決心を爲す



秀吉姫路を  
發す  
惟任光秀山  
崎に入る

六月 八日 羽柴秀吉、姫路城に於て惟任光秀討伐軍進發の命を下す○柴田勝家、兵を率ゐ  
越中に上杉景勝の兵と戦ふ

六月 九日 羽柴秀吉、姫路城を發し攝津尼崎に向ふ○惟任光秀、京都に入り銀五百枚を獻  
ず○北畠信雄、漸く兵を近江土山に出す○惟任光秀、山崎に入り下鳥羽に陣し  
細川藤孝父子を招く、應ぜず

六月 十日 惟任光秀、漸く羽柴秀吉進發の報に接す○筒井順慶、羽柴秀吉に應ず

六月 十一日 惟任光秀、急に淀城の修繕を命ず○羽柴秀吉、攝津尼崎に抵る○北條氏政、書  
を瀧川一益に贈りて京都異變の眞否を問ひ二心なき事を告ぐ○惟任光秀、筒井  
順慶を誘ふ、順慶之と絶つ

六月 十二日 羽柴秀吉、大兵を率ゐて攝津天神馬場に至る○惟任光秀、山城桂川を渡り御坊  
塚に陣す○池田信輝、中川清房、高山長房等、羽柴秀吉と會す

山崎の戦

六月 十三日 羽柴秀吉、神戸信孝を淀川に迎へ山城山崎に至り、惟任光秀と戦ひて大に之を  
破る、光秀、走りて山城勝龍寺城に入る

光秀敗死

六月 十四日 惟任光秀、山城小栗栖にて土民に刺さる年五十五○羽柴秀吉、山城勝龍寺城を  
陥れ園城寺に陣す○近江坂本城陥り守將明智光春自盡す年四十六○中川清秀、  
高山長房等、丹波龜山城を抜き城將明智光慶を誅す○北畠信雄、安土に放火し  
遂に安土城に延焼す○徳川家康、兵を率ゐて尾張鳴海に抵る○筒井順慶、山城  
榎島城主井戸良弘を降し、羽柴秀吉の軍に會す

柴田勝家清  
洲に赴く

六月 十五日 柴田勝家、上洛の途に上り近江柳瀬に抵り山崎合戦の捷報に接し、道を轉じて  
尾張清洲に赴く

六月 十六日 羽柴秀吉、近江大津より安土に抵り、次で長濱に入り山本城主阿閉貞大を斬る

六月 十七日 羽柴秀吉、明智氏の將齋藤利三を六條河原に斬る年四十九○惟任光秀の首級を  
本能寺に梟す

六月 十八日 柴田勝家、近江加田莊に禁制を掲ぐ

六月 十九日 徳川家康、熱田にて羽柴秀吉よりの捷報に接し濱松に歸る○瀧川一益、北條氏  
直の兵と上野神流川原に戦ひ、大敗して伊勢長島に還る

六月 二十日 徳川家康、武田氏の將依田信蕃をして甲斐、信濃兩國の土を招撫せしむ

六月 廿三日 朝廷、本願寺光佐、光壽父子の義絶を和解せしめ給ふ

六月 廿四日 佐竹義重、誓書を送り那須資胤父子と和す

六月 廿五日 神戸信孝、羽柴秀吉、美濃尾張に入り惟任光秀の殘黨を平定す

織田秀信を  
繼嗣と定む

六月 廿七日 羽柴秀吉、柴田勝家、丹波長秀、池田信輝等、尾張清洲城に會し織田秀信を繼  
嗣と定め遺領を分與す

六月 中 伊達輝宗、使を上野厩橋城に遣し、瀧川一益に音信を通じ共に扶助するを約す

六月 中 毛利氏の將、伊豫來島城主村上通昌、叛して羽柴秀吉に應じ河野通直等に破ら  
る

七月 一日 本願寺光佐、神戸信孝に使を遣し戦捷を賀す



徳川家康甲斐に入る

七月三日 徳川家康、甲斐の内亂に乗じ、濱松を發して甲斐に入り北條氏直と對峙す

七月六日 長岡藤孝、京都に入る

七月七日 徳川家康、駿河大宮に抵る

七月八日 羽柴秀吉、山城に檢地を行ひ、漸次諸國に及ぶ

七月十一日 羽柴秀吉、京都に入る

七月十六日 上杉景勝、北條氏直を信濃千曲川に擊破す

七月十七日 小笠原貞慶、徳川家康の援を得て信濃深志城を復す

七月十八日 北條氏直、信濃佐久郡に入り諸將を降す

七月 中 羽柴秀吉、長濱城を柴田勝豊に與ふ

七月 中 島津義久、大友義統と和す

八月十日 徳川家康、甲斐若神子に北條氏直と對陣す

八月十一日 徳川家康、甲斐新府城を修す

八月廿八日 長曾我部元親、十河存保を阿波中富川に破る

八月 中 徳川家康、甲斐、信濃を平定す

九月八日 細川忠興、一色義有を誅す

九月廿五日 徳川家康、北條氏直と戦ふ

九月 中 神戸信孝、淺井長政の寡婦お市の方を柴田勝家に嫁す

九月 中 阿波勝端城主十河存保、讃岐に走りて十河城を保つ

上杉景勝北條氏直を破る

島津義久大友義統と和す

家康甲斐信濃を平定

長曾我部元親阿波を平定す

九月 中 長曾我部元親、阿波瑞龍、富岡の諸城を攻略し、阿波統一成る

十月三日 羽柴秀吉を従五位下左近衛少將と爲し綸旨を賜はる

十月八日 神戸信孝、羽柴秀吉に對し柴田勝家と相軋るの不利なるを警告す

十月九日 故織田信長に従一位太政大臣を贈位さる

信長の葬儀

十月十一日 羽柴秀吉、京都紫野大徳寺に於て五日間に亘り、盛大なる織田信長の葬儀を執行す

十月十八日 羽柴秀吉、神戸信孝の老臣齋藤利堯、岡本重政に復書す

十月 中 有馬晴信、肥前深江城を攻む

十月廿八日 柴田勝家、前田利家、不破勝光、金森長近を使者として越前北莊を發し羽柴秀吉の許に赴かしむ

家康北條氏直と和す

十月廿九日 徳川家康、北條氏直と和す

十月 中 龍造寺隆信、筑後高尾城主田尻鑑種を攻む

十月 中 長曾我部元親、讃岐に入り十河城を攻む

十一月二日 柴田勝家の使者前田利家等、羽柴秀吉と寶寺城に會し和を講す

十一月六日 施藥院全宗等、青蓮院尊朝法親王を迎へ天台座主と爲し一山の再興を企つ

十一月十日 前田利家等、越前に還りて柴田勝家に復命す

十一月廿一日 神戸信孝、羽柴秀吉と和を講す

十一月 中 徳川家康、濱松に凱旋す

延暦寺再興を企つ



神戸信孝和を請ふ

家康北畠信雄と會見す

十二月 七日 羽柴秀吉、京都を發す  
 十二月十一日 柴田勝家、徳川家康に神戸信孝應援を依頼す  
 十二月十三日 羽柴秀吉、近江佐和山城に入る○近江長濱城守將柴田勝豊、羽柴秀吉に降る  
 十二月十八日 羽柴秀吉の兵、美濃に入る  
 十二月廿一日 羽柴秀吉、進んで大垣に抵り、兵を分ちて諸城を攻略し遂に岐阜城に逼る、神戸信孝、丹羽長秀に依りて羽柴秀吉に和を請ふ  
 十二月廿九日 羽柴秀吉、寶寺城に凱旋す  
 十二月 中 天台座主尊朝法親王、延暦寺再建の爲め諸國を勸進さる  
 天正 十一年 癸未 皇紀二三四三年 西曆一五八三年  
 正月 一日 羽柴秀吉、姫路城に還る  
 正月 三日 羽柴秀吉、諸將の賀禮を受く  
 正月十三日 長曾我部元親の兵、伊豫に入り北川親安を滅す  
 正月十六日 徳川家康、濱松より岡崎に赴く  
 正月十八日 徳川家康、岡崎城に於て北畠信雄と會見す  
 正月二十日 徳川家康、吉良に遊獵す  
 正月廿三日 北畠信雄、尾張清洲城より近江安土に移り、織田秀信の後見役と爲る  
 正月 中 羽柴秀吉、仙石秀久を讃岐に遣して、十河存保を應援せしむ  
 正月 中 伊勢龜山城守將關盛信の姫路に赴きし虚に乗じ、其部下岩間三太夫兵を擧げて

秀吉瀧川一益を討んとす

伊勢征伐

柴田勝家南下す

島津義久宣教師を逐ふ

瀧川一益に應ず  
 閏正月 一日 徳川家康、濱松に歸る  
 閏正月 七日 羽柴秀吉、京都に入る  
 閏正月 八日 羽柴秀吉、安土に至る  
 閏正月 九日 羽柴秀吉、織田秀信に謁し、檄を領國及び友邦の諸將に與へ、瀧川一益討伐に着手す  
 閏正月 中旬 羽柴秀吉、近江柳瀬附近を踏査し、柴田勝家對戰の準備を爲す  
 閏正月 廿八日 羽柴秀吉、瀧川一益討伐の爲め近江安樂越より伊勢に侵入す  
 二月 七日 羽柴秀吉、上杉景勝と結ぶ  
 二月 十日 羽柴秀吉、總軍七萬五千を三道より分ち進ましめ瀧川一益を伐つ  
 二月十六日 羽柴秀吉の兵、伊勢龜山城を攻む  
 二月廿二日 依田信蕃、岩尾を攻陥し之に死す  
 二月廿八日 柴田勝家、軍夫に命じ沿道の雪を拂ひ進軍を開始す  
 二月 中 小笠原長時歿す年六十五軍法要録、兵術・要録、軍神勸請大事、馬道具寸法、犬追物圖、小旗仕立之書、兵用録、胸明集、羽捕之書、兵家受用集  
 三月 二日 柴田勝家の將佐久間盛政等、先鋒として越前北莊を發す  
 三月 三日 羽柴秀吉、伊勢龜山城を降す  
 三月 四日 柴田勝家、前田利家以下二萬餘人を率ゐて越前北莊を發す  
 三月 五日 佐久間盛政、近江柳瀬椿坂附近に入る○島津義久、宣教師を逐ふ



羽柴秀吉長濱城に至る

三月 七日 佐久間盛政、近江天神山附近の村落に放火す  
 三月 九日 柴田勝家、近江に入り内中尾山に陣す  
 三月 十日 佐久間盛政、近江木之附近に放火す  
 三月 十五日 羽柴秀吉、近江佐和山城に抵る  
 三月 十六日 羽柴秀吉、近江長濱城に至る  
 三月 十七日 羽柴秀吉、近江柳瀬方面に進み柴田勝家に挑戦すれども之に應ぜず、兩軍對峙す

三月 廿七日 羽柴秀吉、近江長濱に還りて駐在敵軍の動靜を偵察す

三月 中 徳川氏の將大久保忠世、信濃に入り小諸城を陥る

四月 五日 僧日栖寂す 本迹問答鈔三卷 指要鈔秘決二卷

四月 十三日 長濱城主柴田勝豊の部將山路正國、叛して佐久間盛政に走る

四月 十七日 羽柴秀吉、神戸信孝討伐の爲め二萬の兵を率ゐて長濱より岐阜に向ふ○神戸信孝、柴田勝家と謀り長曾我部元親に通じ、羽柴秀吉を討たんとす

四月 十九日 羽柴秀吉、神戸信孝を岐阜に攻む

四月 二十日 佐久間盛政、近江賤ヶ嶽大岩山砦を襲撃し、守將中川清秀を斃す年四十二、岩

崎山守將高山長房、戦はずして退く○羽柴秀吉、大垣にて大岩山の敗報に接し神速に赴援の準備をなし、一萬五千の兵を率ゐる電馳して賤ヶ嶽に向ふ、柴田勝家、近江内中尾山より狐塚に陣す

秀吉岐阜を攻撃す

賤岳の戦

四月 廿一日 羽柴秀吉、近江猿ヶ馬場に陣し賤ヶ嶽に佐久間盛政を撃破し、轉じて柴田勝家の兵を大に破り殆んど全滅せしむ、勝家、近江狐塚より奔りて越前府中城に抵り、前田利家と會見し、次で越前北莊に入る、羽柴秀吉之を追撃して今莊に抵る○徳川家康、石川數正を羽柴秀吉の本營に遣して戦捷を賀し、初花の茶壺を贈る

四月 廿二日 羽柴秀吉、越前府中に到着し前田利家を訪ひて之を降す○佐久間盛政、越前敦賀にて土人の爲めに捕はれ、羽柴秀吉の營に送らる

四月 廿三日 羽柴秀吉、堀秀政を先鋒とし進撃して越前北莊を攻圍せしむ

四月 廿四日 羽柴秀吉、越前北莊城を陥る、柴田勝家五十四、夫人織田氏年三十七自盡す、

柴田勝家自盡す

淺井氏の遺子三人、秀吉に送らる、(長女淀君、次女徳川秀忠室、三女京極高次室となる)

四月 廿五日 羽柴秀吉、加賀を徇へ金澤に到る、能登、越中の士皆降る

四月 廿八日 徳川家康、兵を率ゐる甲斐に赴く

四月 廿九日 羽柴秀吉、上杉景勝の降を許し盟約を徴す

秀吉上杉景勝と結ぶ

四月 中 柴田勝豊京都にて歿す

四月 中 遣歐使節伊東祐益等、コチンに着し、次で臥亞に向ふ

四月 中 羽柴秀吉、前田利家に加賀石川、河北兩郡を加増し、金澤に在て北陸を鎮せしむ



五月 一日 羽柴秀吉、金澤より北莊に到り、丹羽長秀に越前、加賀二郡を與へ、若狹を併領せしむ

五月 二日 北畠信雄、神戸信孝を岐阜城に攻む、信孝、尾張に遁れ野間大御堂寺に於て自盡す年二十六

秀吉安土に凱旋

五月 五日 羽柴秀吉、近江長濱に抵る

五月 七日 羽柴秀吉、安土に凱旋す

五月 十日 徳川家康、甲斐より濱松に還る

五月 十一日 羽柴秀吉、近江坂本に駐在す

五月 十二日 佐久間盛政を斬る年三十

京都所司代を置く

五月 十八日 大友義統、羽柴秀吉に書を寄せて款を通ず

五月 廿一日 羽柴秀吉、池田玄以を京都所司代と爲す

五月 廿二日 羽柴秀吉を従四位下參議と爲す

六月 二日 羽柴秀吉、池田信輝を美濃大垣城に移し、自ら大坂城に入る

六月 六日 羽柴秀吉、書を大友氏に與へ懇親を結ぶ

瀧川一益降る

六月 六日 龍造寺隆信、肥前高來郡に鳥津義久の新納忠堯と戦ひ、之を仆す

六月 中 瀧川一益、羽柴秀吉に降り越前大野にて五千石を給せらる

六月 中 北畠信雄、伊勢長島城に移る

六月 中 長曾我部元親、降を乞ふ、羽柴秀吉之を許さず

大坂城修築

七月 二十日 徳川家康、其次女徳姫を北條氏直に嫁す

七月 中 羽柴秀吉、大坂城修築に著手す

七月 中 仙石秀久、讃岐引田城に據る、長曾我部元親攻めて之を逐ふ

八月 六日 羽柴秀吉、津田信勝を濱松に遣し徳川家康に不動國行の名刀を贈る

八月 廿四日 徳川家康、信濃上田城を眞田昌幸に與ふ

八月 中 高橋紹運の子宗茂、戸次鑑連の養子と爲る

十月 七日 徳川家康を右近衛權中將と爲す

十月 中 鳥津義久、秋月種實に依りて大友宗麟と絶ち、龍造寺隆信と和す

十月 中 蘆名盛隆、嬖臣大庭三左衛門に弑さる年二十四

十月 中 徳川家康、分國に令して守隨の秤を用ひしむ

十一月 中 羽柴秀吉、大坂城に遷る

守隨の秤を用ひしむ

十二月 四日 土岐頼藝歿す年八十二

十二月 五日 觀世元忠歿す年七十五

十二月 十五日 繪師徳力善章歿す年九十一

十二月 三十日 徳川家康、三河一向宗を復す

是 歲 宣師オルガンチノ、羽柴秀吉に謁す

天正 十二年 甲申 皇紀二二四四年 西曆一五八四年

二月上旬 徳川家康、酒井重忠を密使として北畠信雄に遣る

宣教師秀吉に謁見す



北畠信雄羽柴秀吉と絶つ

徳川家康北畠信雄を援く

二月二十日 遣歐節使伊東祐益等、臥亞を發し葡萄牙の首府リスボンに向ふ

三月 三日 北畠信雄、伊勢長島城に於て老臣伊勢松島城主津川玄蕃允、尾張星崎城主岡田長門守、尾張刈安賀城主淺井田宮丸を殺す

三月 六日 北畠信雄、羽柴秀吉と絶ち、援を徳川家康に請ふ

三月 七日 徳川家康、濱松城を發す

三月 八日 徳川家康、三河岡崎城に抵る

三月 九日 徳川家康、三河矢作に陣し兵力を集中す○北畠信雄、其將佐久間正勝をして伊勢龜山城に關信盛を攻めしむ

三月 十日 池田信輝、森長可、羽柴秀吉に應ず○羽柴秀吉、大坂城を發し尾張に向ふ

三月 十三日 徳川家康、尾張清洲城に入り、北畠信雄と羽柴秀吉討伐の事を議す○池田信輝美濃大垣城を發し俄に尾張犬山城を襲ふ

三月 十四日 羽柴秀吉の將蒲生氏郷、堀秀政、瀧川一益等、伊勢峰城を攻む○池田信輝、尾張犬山城を陥れ、城主中川貞成の叔父僧清藏主を斃す

二月 十五日 池田信輝、尾張小牧山附近に至り村邑に放火す

三月 十六日 羽柴秀長、筒井順慶等、伊勢松ヶ島城を包圍す

三月 十七日 奥平信昌等、森長可の兵を尾張羽黒に破る○徳川、北畠氏の兵、尾張星崎城を抜く、守將岡田善同、伊勢に走る

三月 十八日 徳川家康、榊原康政をして尾張小牧山に築壘せしむ

龍造寺隆信敗死

家康小牧山に據る

三月 十九日 畠山貞政、紀伊根來、雜賀の一揆と與に北畠信雄に應じ大坂に逼らんとす

三月 廿一日 羽柴秀吉、兵十二萬五千を率ゐて大坂を發す

三月 廿二日 羽柴秀吉の將中村一氏、蜂須賀家政、黒田孝高等、和泉岸和田に於て畠山貞政等の軍を撃破す○徳川家康の小牧山の築壘竣成す

三月 廿三日 徳川家康、更に小牧山附近の蟹清水、北外山、宇田津等に壘を築かしむ

三月 廿四日 島津義久、島津家久、新納忠元等を遣し有馬晴信を援け、龍造寺隆信を肥前高來郡に撃破して之を斃す年五十六

三月 廿六日 羽柴秀吉、佐竹義重に書を贈り戦局を報じ、岐阜を發す

三月 廿七日 羽柴秀吉、尾張犬山城に至り、樂田、羽黒近傍を巡視す

三月 廿八日 徳川家康、小牧山に移る

三月 廿九日 羽柴秀吉、小牧山に對し諸壘を築き、諸將の部署を定む○北畠信雄、伊勢長島城より尾張小牧山に著陣す○羽柴秀長等、伊勢松ヶ島城を陥る

三月 中 大友義鎮、植田玄佐を葡萄牙に遣す

四月 四日 羽柴秀吉、尾張岩崎山、二重堀間に壘を築く

四月 五日 羽柴秀吉、更に尾張田樂の古壘を修築し之を本營とす

四月 六日 池田信輝、堀秀政、森長可、三好秀次等、岡崎城奪取を謀て進發す

四月 七日 池田信輝等、尾張篠木、柏井地方に到り上條村に砦を築く○徳川家康、北畠信雄、尾張小幡城に入り西軍の形勢を窺ふ



長久手の戦

四月 八日 池田信輝等、尾張諏訪ヶ原、矢田川、長久手を過ぎ藤島村に向ふ。○徳川家康、尾張小幡城に入る。○龍造寺政家、肥前蓮池城主鍋島直茂に誓書を與へ盟約す。

四月 九日 池田信輝等、尾張岩崎城を陥れ守將丹羽氏重を仆す、徳川家康之を長久手に追躡して大に破る、池田信輝年四十九、森長可年二十七、池田之助年廿六、戦死す、堀秀政獨り善戦して徳川氏を撃破す、羽柴秀吉、兵を率ゐて來援し龍泉寺に陣す、家康之を避けて小幡城に入り、尋で小牧山に還る。

四月 十日 羽柴秀吉、尾張小幡城を攻めんとし、徳川家康既に去れりと聞き田樂に還る。

四月 十一日 羽柴秀吉、尾張小松寺山に進み戦機の熟するを待つ。

四月 十二日 蒲生氏郷等の兵、峯城を抜く。

四月 廿二日 徳川家康、迂回進出したるも兩軍遂に戦はず。

四月 廿九日 羽柴秀吉、尾張大浦に砦を築く。

四月 三十日 羽柴秀吉、諸軍に明日大決戦の準備を命ず。

五月 一日 羽柴秀吉、諸軍に撤退の命を發して美濃に向ひ北畠信雄の領土攻略を謀る。○羽柴秀吉、比叡山の再興を許す。

五月 三日 羽柴秀吉、大浦を發し木曾川を越え聖徳寺に陣す。

五月 四日 羽柴秀吉の將細川忠興、蒲生氏郷等、美濃加賀野井城を攻め、城主加賀野井重宗を殺す。

五月 六日 細川忠興等、美濃加賀野井城を陥る。

秀吉の諸將美濃を攻む

羽柴秀吉軍を班す

羽柴秀吉大坂に還る

徳川家康清洲に入る

瀧川一益蟹江城に入る

一益北畠信雄に降る

五月 七日 羽柴秀吉、進んで美濃竹ヶ鼻城を攻む。城主不破廣綱、開城して降る。

五月 十日 羽柴秀吉、兵を大垣に班す。

五月 十三日 羽柴秀吉、大垣に抵る。

五月 廿一日 羽柴秀吉、近江に抵る。

五月 廿八日 羽柴秀吉、大坂に還る。

五月 中 大友義統、島津義久に書を送りて其戦捷を祝す。

六月 十二日 徳川家康、酒井忠次を尾張小牧山に留め、清洲城に入る。

六月 十三日 羽柴秀吉、蒲生氏郷に伊勢松ヶ島十二萬石を與ふ。

六月 十五日 瀧川一益、伊勢長島、尾張清洲の聯絡を中斷せんとして白子浦を發す。

六月 十六日 瀧川一益、尾張蟹江城に入る。

六月 十八日 徳川家康の將榊原康政等、尾張下市場城を攻めて之を陥れ守將岡部正綱を殺す。

○瀧川一益、蟹江城の脱出を謀りて成らず、再び城に入る。

六月 十九日 徳川家康の兵、尾張蟹江城を攻撃す。

六月 廿二日 瀧川一益、城より突出奪戦して利あらず。

六月 廿三日 徳川氏の將石川數正、尾張前田城を抜く。

六月 廿九日 瀧川一益、織田長益に依りて北畠信雄に降る。

六月 中 長曾我部元親、讃岐十河、虎丸兩城を降し、讃岐を平定す。

六月 中 徳川家康、前田、下市場二城を破毀せしむ。



叡山再興の  
綸旨を下す

七月 三日 瀧川一益、尾張蟹江城を棄てて、京都妙心寺に匿る  
七月 五日 徳川家康、北畠信雄、伊勢に入り桑名に陣す○遣歐使節伊東祐益等、葡萄牙リ  
スポンに著す

七月 十日 比叡山再興に關し宇喜多秀家に綸旨下る

七月 十三日 徳川家康、北畠信雄等、清洲に還る

七月 廿八日 大友義統、龍造寺政治家等、羽柴秀吉に款を通ず

七月 中 越中富山城主佐々成政、美濃に至り北畠信雄、徳川家康に面す

八月 十五日 羽柴秀吉、大坂を發す

八月 十六日 羽柴秀吉、兵を率る美濃に入り先鋒を尾張の小口樂田に進む

筒井順慶歿す

八月 十一日 筒井順慶歿す年三十六

八月 廿一日 羽柴秀吉、尾張羽黒、五郎丸、奈良口等に壘を築く

八月 廿六日 羽柴秀吉、木曾川を渡る

八月 廿七日 羽柴秀吉、尾張二宮山に上り敵情を偵察す

八月 廿八日 羽柴秀吉、轉じて小折に抵り所在に放火し、諸處に築壘す○徳川家康、北畠信  
雄と與に尾張清洲城より岩倉城に進み之と對陣す

秀吉徳川家  
康と對峙す

八月 中 大友宗麟の將戸次道雪、高橋紹運等、筑前黒木城を攻む

九月 二日 羽柴秀吉、丹羽長秀をして徳川家康に對し調停を謀らしむ、成らず

島津義弘肥  
後を略す

九月 五日 島津義弘、兵を率るて肥後を攻略す

島津義久龍  
造寺政治家と  
和す

九月 十二日 佐々成政、能登末森城を攻む、前田利家之を破る

九月 十七日 羽柴秀吉、尾張より兵を班し大垣に退く

九月 廿一日 島津義久、龍造寺政治家の和を許す

九月 廿七日 徳川家康、北畠信雄と與に尾張清洲城に還る

九月 廿八日 伊達輝宗、家督を政宗に譲る

九月 三十日 羽柴秀吉、近江坂本に抵る

十月 二日 羽柴秀吉、京都に入る

十月 四日 徳川家康、尾張小牧山を修す

羽柴秀吉大  
坂に還る

十月 六日 羽柴秀吉、大坂に還る

十月 十六日 徳川家康、酒井忠次に尾張清洲城を、榊原康政に小牧山を、松平家忠、菅沼定  
盈に小幡城を守らしむ

十月 十七日 徳川家康は三河岡崎に還り、尋で北畠信雄は伊勢長島城に歸る

十月 二十日 羽柴秀吉、近江坂本に抵り轉じて伊勢に向ふ

十月 廿三日 羽柴秀吉、伊勢羽津に陣し繩生、桑部に砦を築く

十月 下旬 遣歐使節伊東祐益等、西班牙首都マドリッドに著す

十月 中 上杉景勝、越中に出で佐々成政の屬城境城を攻めて、之を抜く

上杉景勝越  
中に入る

十月 中 島津義久、大友義鎮と絶つ

十一月 四日 徳川家康、小牧山を修理す



十一月 六日 羽柴秀吉、伊勢日永山に抵る○僧圓譽寂す年八十一  
十一月 七日 羽柴秀吉、伊勢繩生に來り富田知信、津田信務を北畠信雄に遣して講和を周旋せしむ

信雄羽柴秀吉と和す

十一月 九日 徳川家康、尾張清洲城に抵り部將酒井忠次等を伊勢桑名に赴援せしむ

十一月十一日 北畠信雄、羽柴秀吉と伊勢矢田河原に會し單獨講和成る

十一月廿一日 徳川家康、羽柴秀吉の使者富田知信、津田信勝、北畠信雄の使者瀧川雄利に接す

十一月廿二日 羽柴秀吉を従三位權大納言と爲す

佐々成政南下す

十一月廿三日 佐々成政、徳川家康に應じて羽柴秀吉討伐の爲め越中富山城を發す

十二月 一日 佐々成政、信濃上諏訪に至る

十二月 四日 佐々成政、遠江濱松城に抵り徳川家康と會見し、尋で清洲城に赴き北畠信雄に謁し再舉を勸説せしも計成らずして越中に歸る

信雄徳川家康に謝す

十二月十四日 北畠信雄、濱松城に赴き徳川家康に面會して援軍の勞を謝す○遣歐使節伊東祐益等、西班牙首都マドリツドにて國王フィリッポ二世に謁見し書翰、物品を獻す

十二月十五日 左大臣一條内基罷む、右大臣二條昭實を左大臣と爲す

十二月廿五日 北畠信雄、遠江濱松城を發して尾張に還る

十二月廿九日 任助法親王薨す年六十

十二月中 朝鮮國王、日本に復書し好を修す

是 歲 直瀬道三、洗禮を受く、是より大坂にて洗禮を受くる者多し

天正 十三年 乙酉 皇紀二四五年 西曆一五八五年

仙洞御所を造營す

正月十八日 羽柴秀吉、仙洞御所を造營す

正月 中 岩代大鹽城主大内定綱、伊達政宗に叛し、蘆名氏に應ず

二月十二日 左大臣二條昭實を關白と爲す

二月十七日 仙洞御所の築地を築く

二月廿二日 北畠信雄、伊勢より大坂に到りて羽柴秀吉と會見す

二月廿四日 前田利家、佐々成政と越中蓮沼に戦ふ

前田利家佐々成政と戦ふ

二月廿五日 徳川家康、三河吉良城を築く

二月廿六日 北畠信雄、上洛して正三位權大納言と爲る

三月 二日 北畠信雄、京都を發し伊勢に還る

三月 三日 羽柴秀吉、仙洞御所の繩打を行ひ凡て舊儀に復せんとす

三月 十日 關白二條昭實、左大臣を罷む、右大臣近衛信輔を左大臣に、内大臣今出川晴季を右大臣に、羽柴秀吉を内大臣と爲す○更に勅使を大坂に遣し羽柴秀吉の生母に大政所を、其夫人に北政所の稱を賜ふ

秀吉内大臣となる

三月十一日 比叡山再建に關し伊達政宗に綸旨下る

三月十九日 遣歐使節伊東祐益等、伊太利羅馬に入る



紀伊征伐

三月廿一日 遣歐使節伊東祐益等、羅馬法王グレゴリヨ十三世に謁見す○佐々成政、加賀を  
侵し鷹巢に火を放つ、前田利家之を逐ふ

三月廿二日 羽柴秀吉、大軍を率ゐて紀伊に進む

三月廿三日 羽柴秀吉、紀伊根來寺を焼く

四月 三日 羽柴秀吉、本願寺光佐と面會す

丹羽長秀歿す

四月十六日 丹羽長秀歿す年五十一

四月廿四日 羽柴秀吉、紀伊雜賀に進み、小雜賀太田村に一揆を攻めて之を降す○羽柴秀長  
和泉堺を發す

羽柴秀長四國を征す

四月廿五日 羽柴秀長、淡路福良浦に著し阿波に向ふ

四月廿六日 羽柴秀長、阿波土佐泊に達し和氣城を攻む○宇喜多秀家、黒田孝高等、讃岐に  
入り喜岡、由良山、池田の諸城を降し、尋で阿波に轉じて岩倉、脇兩城を陥る

四月廿七日 羽柴秀吉、紀伊新宮、熊野等を攻略し、高野山の法制を定め大坂に還る

高野山法制を定む

四月 中 北條氏直、佐竹義重と下野に對峙す

五月 四日 羽柴秀吉、大坂城に宣教師コエルホを引見す

五月 八日 甘露寺經元薨す年五十六

五月十九日 阿波一宮城將谷忠兵衛、羽柴秀長に依りて長曾我部元親の降を請ふ

長曾我部元親降を請ふ

五月二十日 土佐の諸將、讃岐を退く

五月 中 伊達政宗、岩代耶摩郡檜原に陣し蘆名盛重と戦ふ

秀吉關白となる

五月 中 蜂須賀正勝歿す年六十一

六月 三日 遣歐使節伊東祐益等、伊國羅馬を出發す

六月十一日 北畠信雄、徳川家康に質子を羽柴秀吉に致さんことを勸告す

六月十六日 羽柴秀吉、大兵を率ゐる四國征伐に赴かんとして止む

六月十七日 五辻爲仲薨す年五十六

六月廿八日 遣歐使節伊東祐益等、ヴェニスにて伊國大絲領エコロ・ダ・ボンテに謁見す

六月 中 大内定綱の將岩代刈田松城將青木弘房、伊達成實に降る

七月 二日 羽柴秀吉、上國經營の吹聴を伊達政宗の臣遠藤基信に與ふ

七月十一日 關白二條昭實を罷め、内大臣羽柴秀吉を關白と爲し、内覽氏長者、兵杖牛車を  
許さる

七月十三日 關白羽柴秀吉、參内して恩を謝し南殿に猿樂を張る

七月十四日 羽柴秀吉、勅書を賜はる

七月十五日 羽柴秀吉、親王准後の坐位を定む

七月十六日 羽柴秀吉、長曾我部元親の降を許し土佐一國を與ふ

七月十七日 羽柴秀吉、蜂屋頼隆をして北國征伐を前田利家に命じ軍令を頒つ

七月廿一日 豐臣秀吉、大坂に歸る

七月 中 伊達政宗、岩代川股に至り、大内定綱を攻めて小手森城を抜く

七月 中 羽柴秀吉、五奉行を定め淺野長政、前田玄以、増田長盛、石田三成、長束正家



北國征討の途に上る

を之に任ず

七月中 薩摩出水城主島津義虎歿す年五十

八月 四日 羽柴秀吉、北國征伐の先鋒軍を發せしむ

八月 六日 羽柴秀吉、大坂を發し北國征討の途に上る

八月十一日 羽柴秀吉、越前府中に至る

八月十八日 羽柴秀吉、金澤に著す、前田利家之を迎ふ

八月二十日 羽柴秀吉、加賀俱利伽羅峠を越えて、八幡嶺に上り越中一國の形勢を觀望し攻撃の策を定む

八月廿四日 越中八幡嶺の假城壞成し、羽柴秀吉之に移る

八月廿九日 越中富山城主佐々成政、削髮染衣し北畠信雄に依りて羽柴秀吉に降る

八月 中 北條氏直、上野沼田城を攻めて利あらず

八月 中 阿蘇惟前、肥後花山城を攻む、城將木脇祐昌、鎌田政虎歿す

八月 中 伊達政宗、朝倉國清を岩代月館城に攻めて之を陥れ、進んで小濱城を攻む、城主大内定綱、城を棄て、會津に奔る

閏八月 一日 羽柴秀吉、越中宮野に陣を移し、上杉景勝と音信を通ず

閏八月 二日 羽柴秀吉、越中吳服山に抵る○徳川家康、駿河府中に至り大久保忠世、平岩親吉等をして信濃上田城主眞田昌幸を撃たしむ

閏八月 三日 徳川家康の將大久保忠世、信濃千曲川を涉り八重に陣す

伊達政宗近隣を併す

佐々成政降る

家康眞田昌幸を撃たしむ

北國平定

閏八月 四日 羽柴秀吉、越中一國の掟を定む

論功行賞

閏八月 六日 羽柴秀吉、凱旋の途に就く

閏八月 十日 羽柴秀吉、近江坂本城に入り、諸將功臣の論功行賞を行ふ

閏八月十八日 信濃上田城主眞田昌幸、徳川家康の兵を激撃して之を破る

閏八月 中 島津義久、兵を率ゐて阿蘇惟前を征し、肥後甲佐、堅志田、御船、津森の諸城を攻略し、伊集院久春を津森城に留めて凱旋す

閏八月 中 上杉景勝、信濃に兵を出して眞田昌幸を援く

閏八月廿三日 徳川家康、駿府城を修築す

閏八月廿七日 羽柴秀吉、大坂に凱旋す

九月十一日 筑前立花城主戸次鑑連入道道雪、筑後高良山陣中に歿す年七十三

九月十二日 徳川家康、比叡山再建の繪旨に答申す

九月十八日 徳川家康、三河田原に狩す

九月廿六日 徳川氏の兵、信濃上田城より退く

九月 中 岩代二本松城主畠山義繼、伊達實元に依りて伊達政宗に降る

十月 二日 羽柴秀吉、書を島津義久に與へ、九州諸將と和せしむ

十月 四日 徳川家康を權中納言と爲す

十月 八日 岩代二本松城主畠山義繼、伊達輝宗を執へ、之を弑す年四十二

十月十五日 伊達政宗、岩代二本松城を攻め、畠山義繼を殺す

秀吉島津氏に書を送る

上杉景勝眞田氏を援く

秀吉大坂に凱旋



長曾我部元親上洛す

十月廿八日 徳川家康、諸將と濱松城に會し對羽柴秀吉策を議す  
十月 中 長曾我部元親、京都に至り羽柴秀吉に謁す  
十月 中 伊勢正遷宮を舊式に復す

十一月十三日 徳川家康の重臣石川數正、三河岡崎城を脱出して羽柴秀吉の許に奔り、尋で小笠原貞慶、水野忠重、又脱走して京都に赴く

十一月十五日 徳川家康、北條氏政に書を贈る  
十一月十八日 徳川家康、岡崎城を修す

石川數正秀吉に走る

十一月廿一日 小早川隆景、吉川元春、京都に至り羽柴秀吉に謁す○伊達政宗、岩代にて佐竹義重、蘆名盛重、岩城常隆等と戦ふ

十一月廿八日 北畠信雄、瀧川雄利等をして羽柴秀吉の旨を傳へ、徳川家康に入京を説く  
十二月 四日 徳川家康、駿府城に移る

十二月廿三日 高倉永相薨す年五十五  
十二月 中 肥後津森城主滿永宗甫、伊集院久春を逐ふ  
十二月 中 島津義久、使を長崎に遣し耶蘇宣教師コエルホの上京を止む

南蠻寺を廢す

十二月 中 日吉神社假殿成る  
是 歲 羽柴秀吉、南蠻寺を廢す

天正 十四年 丙戌 皇紀二二四六年 西曆一五八六年  
正月十一日 島津義久、僧立昌を遣し細川幽齋につき羽柴秀吉の命を奉じ難きを答ふ

羽柴秀吉徳川家康と和す

正月十三日 羽柴秀吉、織田長益、瀧川雄利、羽柴勝雅等を遣し徳川家康の上洛を促す

正月十四日 羽柴秀吉、參内賀正す

正月十六日 羽柴秀吉、朝廷に黄金製の家を獻す

正月廿一日 羽柴秀吉、徳川家康と和す

正月 中 島津義久の將新納忠元、肥後津森城を攻め之を降す

二月十四日 遣歐使節伊東祐益等、葡萄牙リスボンを出發し日本に向ふ

二月廿二日 羽柴勝雅、富田信廣等、羽柴秀吉の命を受け三河吉田に赴き徳川家康と朝日姫の結婚を謀る

二月廿六日 徳川家康、吉田城を發して相模に赴く

二月廿八日 羽柴秀吉、參内して觀櫻會を催す

三月 九日 徳川家康、北條氏政と伊豆三島に會す

三月十一日 徳川家康、北條氏政と駿河黄瀬川に會し盟約成る

三月廿一日 徳川家康、濱松城に還る

三月 中 大友義鎮、豊後を發して京都に入る

四月 一日 大友義鎮、羽柴秀吉に謁し九州親征を乞ふ

四月 二日 松平勝俊歿す年三十五

四月 六日 島津義久、龍造寺政家と親交不渝の起請を爲す

四月 十日 羽柴秀吉、書を毛利輝元に與へ九州出陣の準備を命ず

徳川北條の盟約成る

毛利輝元に征西準備を命ず



四月廿一日 羽柴秀吉、入洛し地を舊大内裏趾に相し聚樂第を營まんとす  
 四月廿三日 徳川家康の使者本多忠勝大坂に抵り、朝日姫の結納を納む  
 四月廿三日 聚樂第の造營始め  
 四月廿八日 羽柴秀吉の妹朝日姫大坂を發す、淺野長政之を護衛す  
 四月 中 毛利輝元、羽柴秀吉の書に接し長井筑後守等を赤間關に遣し守備を嚴にせしむ  
 四月 中 徳川家康、比叡山横川の四季堂を建立し傳教大師の像を安置す  
 五月 四日 耶蘇宣教師コエルホ、フロエー等、大坂に抵り、羽柴秀吉に謁す  
 五月十一日 酒井家次等、三河西野に朝日姫を迎ふ  
 五月十四日 朝日姫、濱松に着し徳川家康と婚儀を修む  
 五月 廿日 島津義久の使者僧玄昌、鎌田政廣、薩摩に歸りて復命す  
 五月廿五日 羽柴秀吉、京都東山に大佛殿を造營し、僧木食興山之を監督す、方廣寺之なり  
 五月廿六日 徳川家康、榊原康政を大坂に遣して婚儀終了を羽柴秀吉に報ぜしむ  
 六月上旬 筑前高橋紹運、立花宗茂等、使を大坂に遣し羽柴秀吉に九州出軍を乞ふ  
 六月 十日 上杉景勝、大坂に抵り羽柴秀吉に謁す  
 六月十八日 島津義久、兵を率ゐて鹿兒島を發し大友氏を討たんとす  
 七月 二日 島津義久、肥後に入り八代に陣す  
 七月 六日 島津義久の將島津忠長等、筑後高山に陣し筑前鷹取城を陥れ、尋で日當山城を抜き勝尾城に逼る

聚樂第を營む  
 朝日姫家康に嫁す  
 宣教師秀吉に謁す

秀吉大佛殿を營む

上杉景勝大坂に至る  
 島津義久大友氏を討んとす

伊達政宗二本松城を陥る

立花宗茂援軍を乞ふ

毛利輝元兵を九州に發す

七月 十日 筑前勝尾城主筑紫廣門、島津義久に降る  
 七月十二日 島津忠長、伊集院忠棟等、筑前岩屋城を圍む  
 七月十六日 伊達政宗、岩代二本松城を攻めて之を抜く、城主新城彈正會津に奔る  
 七月十七日 徳川家康、駿府に赴く  
 七月廿四日 誠仁親王薨す年三十五  
 七月廿五日 羽柴秀吉の使者黒田孝高、宮木豊盛等、京都を發す  
 七月廿七日 島津忠長等、筑前岩屋城を陥る、城將高橋鎮種自殺す年三十九  
 七月廿八日 筑前立花城主立花宗茂、羽柴秀吉に形勢の急を報じ援軍を求む  
 八月 三日 羽柴秀吉、書を吉川元春に與へ門司要害を守備せしむ○羽柴秀吉、安國寺惠瓊、黒田孝高に書を與へ支那征伐の意を告ぐ  
 八月 五日 羽柴秀吉、更に小早川隆景に書を與へ關門守備の堅固を命ず  
 八月 六日 羽柴秀吉の使者黒田孝高、宮木豊盛、安藝吉田に著し、毛利氏及び兩川に九州出兵を促す  
 八月 十日 毛利輝元、其部將神田元忠等をして三千人を率ゐ先發せしむ  
 八月十一日 黒田孝高等、大坂に歸る  
 八月十五日 羽柴秀吉、龜井茲矩に琉球を與ふことを約し、琉球守の稱號を與ふ  
 八月十六日 毛利輝元、兵を率ゐて出陣し、管内の兵を赤間關に集合せしむ  
 八月廿四日 島津氏の兵、筑前立花城の圍を解きて去る



島津氏の兵立花城を解く

八月廿五日 立花宗茂、島津氏の兵を追撃し筑前高鳥居城に押寄せ、城主星野鎮胤元兄弟を仆す

八月廿六日 羽柴秀吉、淺野長政を三河に遣して生母大政所を質とするを告げ、徳川家康の上洛を促さしむ○毛利氏の先鋒神田元忠等、豊前小倉城に高橋元種を攻めて利あらず、門司に退く

八月廿七日 筑紫廣門、筑後大善寺の幽所を脱し五箇山城に入る

小早川隆景等九州に發す

八月廿八日 筑紫廣門、筑前勝尾城を復す○小早川隆景、伊豫を發し九州に赴く、尋で吉川元春出雲を發す

八月中 伊達政宗、米澤に凱旋し、岩代二本松を伊達成實に與ふ

八月中 羽柴秀吉の調停により徳川家康、眞田昌幸と和す

高野山金堂成る

九月初三日 肥前龍造寺政家、島津義久と絶ち、鍋島直茂と筑後に入り、遂に肥後玉名郡を侵す

九月五日 毛利輝元、防府に至る

瀧川一益歿す

九月九日 黒田孝高、大坂より赤間關に著す○瀧川一益歿す年六十二

諸將豊後に渡る

九月十二日 羽柴秀吉の將長曾我部元親、十河存保、仙石秀久等、豊後に渡り上野原に屯す  
九月十七日 周仁親王、元服を加へらる、羽柴秀吉、加冠の役を勤む  
九月廿四日 吉川元春、赤間關に抵り、黒田孝高、小早川隆景等と相會す

島津義久辯疏す

九月廿七日 島津義久、長壽院盛淳等を羽柴秀長、石田三成の營に遣し筑州進出の辯疏を爲す

九月三十日 羽柴秀吉、小早川隆景に書を與へ來春出馬の意を告ぐ

十月三日 毛利輝元以下の諸將、悉く門司に航す○羽柴秀吉、黒田孝高等に書を與へ、薩軍攻略の方策を告ぐ

十月四日 毛利輝元、豊前小倉城を攻め之を陥る

十月十日 大政所、大坂を發し三河に赴く

大政所三河に赴く  
義久鹿兒島を發す

十月十四日 徳川家康、三河吉田城に至る○島津家久、日向佐土原を、島津義久は鹿兒島を發し、日向鹽見に抵る

十月十五日 徳川家康、岡崎城に赴き大政所の西下を待つ

十月十八日 大政所、三河岡崎城に著し徳川氏の質となる

十月廿日 徳川家康、岡崎を發し上洛の途に上る

十月廿一日 島津義弘、肥後阿蘇に抵り野尻に陣す

十月廿二日 島津義弘、豊後直入郡に入り高木城を陥る

十月廿三日 島津義弘、豊後片瀨城を陥れ、尋で一萬田、白丹、朽綱の諸城皆降る

十月廿四日 島津義弘、豊後神原城より津加牟禮城に移る

徳川家康上洛

十月廿五日 徳川家康、京都に著す  
十月廿六日 徳川家康、大坂に抵り羽柴秀長第に入る、羽柴秀吉之を訪ふ



島津家久豊後を略す

十月廿七日 徳川家康、北畠信雄、大坂城に入り羽柴秀吉と會見す  
十月 中 島津家久、豊後朝日嶽、松尾島、高尾等の諸城を降し、鶴賀城に迫る  
十月 中 豊前、筑前の諸城將、羽柴秀吉に款を送る

十一月 一日 徳川家康、大坂を發し京都に入る

十一月 三日 島津家久の兵、豊後梅牟禮城を攻めて利あらず

十一月 四日 大友義統等、島津氏の兵、豊後府内城に迫るを聞き相率ゐて城に還る

後陽成天皇

讓位

十一月 七日 讓位あり○小早川隆景、豊前宇留津城を陥る

徳川家康岡崎に還る

十一月十一日 徳川家康、岡崎城に還る

十一月十二日 大政所、岡崎城を發し大坂に向ふ

十一月十三日 本願寺光佐を惟三后と爲す

十一月十五日 毛利氏の兵、豊前障子嶽城を抜き、進んで香春城を攻む○吉川元春陣中に歿す  
年五十七

十一月十八日 大政所、大坂に還る

十一月 廿日 羽柴秀吉、毛利輝元に宇留津城攻陥の感狀を與ふ

十一月廿五日 即位あり○島津家久、豊後松尾城を發し武山城を陥れ、使者を利光城に遣し降を勸む、守將利光統久等、伴りて降る

即位

十一月廿六日 豊後利光城主利光宗匡、筑後より歸り昨日の約を變じ守城に決す

羽柴秀吉三十七箇國に兵を徵す

十一月廿八日 利光宗匡等、薩軍の先鋒を豊後利光川に破る

十一月 中 磐城三春城主田村清顯歿し、遺命して國事を伊達政宗に委せしむ

十二月 一日 羽柴秀吉、島津義久を討たんとして三十七國の兵を徵す

十二月 三日 豊後利光城兵、出で、薩軍と小筒井川に戦ひて敗る

十二月 四日 足利義昭、書を島津義久に與へ和を勸む○徳川家康、濱松城より駿府城に移る

十二月 五日 島津家久、兵を分ち大友義鎮の豊後臼杵城を監視せしめ、自ら兵を率ゐて梨尾山に陣し、利光城に逼る

十二月 六日 島津家久、豊後利光城を攻め二、三の丸を陥る

十二月 七日 薩軍、梨尾山に退く、利光城兵、之を追撃して城主利光宗匡遂に戦死す

十二月 八日 毛利氏の兵、豊前香春城を陥る

十二月 八日 島津氏の兵、豊後利光城を攻む

十二月十二日 長曾我部元親等、豊後利光城應援の爲め、府内を發し戸次川に島津家久等と戦ひて大敗し、十河存保、長曾我部信親十一二之に死す○長曾我部元親は伊豫日振

島に、仙石秀久は淡路洲本に、大友義統は府内城より高崎城に奔る

十二月十三日 島津家久、豊後府内城を陥れ、尋で鶴崎、利光兩城を抜く

十二月十五日 大友義統、豊後高崎城より豊前龍王城に遁る

十二月十六日 大友義統、毛利氏に援軍を請ふ

十二月十九日 羽柴秀吉を太政大臣と爲し、豊臣の姓を賜ふ

秀吉に豊臣の姓を賜ふ

長曾我部元親戸次川に大敗す



仙石久秀封を褫はる

十二月廿二日 島津義弘、豊後弘岡城攻撃を中止し陣を菅迫に移す  
十二月廿四日 島津義弘、更に豊後朽綱に陣を移す○北小路俊直薨す年五十八  
十二月 中 豊臣秀吉、仙石久秀の封を褫ふ

天正 十五年 丁亥 皇紀二三四七年 西曆一五八七年

正月 一日 豊臣秀吉、二十四州に軍令を頒ち、本月廿五日より順次出發せしむ

正月 二日 龍造寺政家、筑後山下城を攻む

正月 五日 島津家久、豊後朽綱に抵り島津義弘と軍議す

正月 七日 志賀親次、豊後菅迫城兵と戦ふ

正月十六日 毛利輝元、重臣桂元親に書を與へ豊臣秀吉接待の準備をなさしむ

正月十八日 島津家久、豊臣秀吉西下の報に接し豊後より退去を開始す

正月十九日 島津義久、書を羽柴秀長に遣り豊後侵掠の辯疏を爲す

正月廿六日 島津義弘、豊後朽綱より野上城に移る

正月 中 神屋宗湛、豊臣秀吉に謁す

二月 七日 親王、公卿以下、聚樂第に於て豊臣秀吉に賀正す

二月 十日 羽柴秀長、九州征伐の爲め大和郡山を發す

二月十八日 豊後岡城將志賀親次、小牧、鍋田兩城を陥る○島津家久、豊後府内城を退き松尾山に移る

三月 一日 豊臣秀吉、大坂を發し九州征伐の途に上る、軍裝華麗、朝臣上下皆之を送る

豊臣秀吉九州親征

島津家久豊後を退却す

豊臣秀吉前將軍義昭と會す

島津氏退却を開始

三月 三日 常陸佐竹義廣、陸奥蘆名氏を嗣ぐ

三月 六日 豊臣秀吉、備前岡山に著す

三月 七日 羽柴秀長、長府に抵り毛利輝元、小早川隆景等に迎へられ、關門海峡を越え湯ノ嶽附近に陣し、豊臣秀吉の來著を待つ

三月 七日 島津歳久、肥後祁答院に籠城す

三月十一日 島津義弘、豊後野上を去り武宮に抵る

三月十二日 豊臣秀吉、備後赤坂にて前將軍足利義昭と會す○島津義弘、豊後府内城に入る

○豊後岡城主志賀親次、神原城を陥れ守將入田宗和を降す

三月十三日 天皇、勅して豊臣秀吉の戦捷を祈らしめ給ふ○徳川氏の將久松俊勝歿す年三十

二

三月十四日 志賀親次、進んで田北城を陥る○島津氏の將伊集院忠棟、豊後菅迫城を去り肥

後に向ふ

三月十五日 足利義昭の使者、豊後府内に抵り島津義弘に講和を勧告す○島津義弘、島津歳

久、新納忠元等は肥後より薩摩に歸らしめ、親ら島津家久と共に日向を経て歸

國せんとす

三月十六日 島津義弘、島津家久と豊後松尾山に合す○島津氏の豊後鶴崎城將伊集院久宣、

白濱重政、野村文綱等、敗死す

三月十七日 島津義弘、島津家久、豊後松尾山を退き宇目に次す



秀吉嚴島に詣づ

三月十八日 豊臣秀吉、安藝嚴島社に詣づ○島津義久、島津家久、日向に入り志賀親次、佐伯惟定等の襲撃に遇ひ大寺安辰、之に死す

三月十九日 島津義弘、島津家久、日向高城に抵る

三月二十日 島津義弘、島津家久日向都於郡に著し、島津義久と會す

三月廿二日 豊臣秀吉、防府に著す○島津家久等、日向佐土原に還る

三月廿四日 勅使廣橋兼勝を遣して豊臣秀吉の陣中の勞を慰し給ふ

三月廿五日 豊臣秀吉、赤間關に著す

三月廿六日 島津氏の將島津征久、新納忠元、町田久倍、筑後より肥後に入り形勢を見る

三月廿八日 豊臣秀吉、關門海峡を渡り豊前小倉に抵る

三月廿九日 豊臣秀吉、長野種信の豊前馬ヶ嶽城に入る○豊臣秀吉、日向縣城將土持久綱を走らす

三月 中 和寇、竹島を侵す

四月 一日 豊臣秀吉、蒲生氏郷、前田利長に命じ豊前巖石城を攻めしむ

四月 二日 豊臣秀吉、筑前に入り大隈城に抵る

四月 三日 天皇、更に豊臣秀吉の戦捷を祈らしめ給ふ○豊臣秀吉、筑前杵原山に來り、諸軍を督勵して遂に巖石城を陥れ城將熊谷久重を仆す、筑前小熊城主秋月種實父子削髮して來降す

四月 四日 豊臣秀吉、筑前秋月城に抵る

天皇更に戦捷を祈らしめ給ふ

豊臣秀吉豊前小倉に渡る

足利義昭の使者島津氏に和を勧む

四月 五日 立花宗茂、豊臣秀吉に來り謁し嘉獎さる

四月 六日 羽柴秀長、日向耳川を渡り高城を圍む

四月 十日 豊臣秀吉、筑後高山に次す、龍造寺政家、筑紫廣門來り謁す○黒田長政、島津氏の將上井覺兼、鎌田政近等を日向財部川に撃破す

四月 十一日 豊臣秀吉、肥後南關に入る

四月 十二日 足利義昭の媾和勸告使一色昭光、木食興山、日向都於郡に來り、島津義久に和を勧む

四月 十三日 豊臣秀吉、肥後高瀬に抵る

四月 十四日 豊臣秀吉の先鋒、肥後熊本に入る

四月 十六日 豊臣秀吉、肥後熊本に抵る、城主城久基降る

四月 十七日 新納忠元、伊集院久信、肥後谷山城を陥れ、島津征久は關城に、町田久倍は八代城に入る

四月 十八日 豊臣秀吉、熊本より隈の庄に進む○島津義久、島津義弘、島津家久等、日向根白坂に西征軍を逆襲す、藤堂高虎、小早川隆景、宮部繼潤之を撃退し、島津忠隣之に死す年十九

四月 十九日 豊臣秀吉、肥後八代城に抵る、肥前松浦隆信、其子鎮信、有馬晴信等來り謁す

四月 二十日 島津征久、町田久倍、肥後人吉に遁る

四月 廿一日 島津義久、伊集院忠棟を羽柴秀長の營に遣して降を請ふ、相良頼房來り謁す○

島津軍逆襲す

島津義久降



を請ふ  
大久宗麟歿  
豊臣秀吉薩摩に入る

島津征久等、薩軍の諸將、肥後人吉より薩摩大口城に入る  
四月廿三日 前豊後守護大友義鎮入道宗麟歿す年五十八  
四月廿四日 豊臣秀吉の先鋒、薩摩出水に至る○肥後高田城守將島津忠永降る○薩將桂忠助薩摩平佐に歸り城に據る

諸將薩摩に攻入る

島津義久鹿兒島に還る

島津義久降る

四月廿五日 豊臣秀吉、肥後佐敷に次す  
四月廿六日 豊臣秀吉、肥後水俣に抵る  
四月廿七日 豊臣秀吉、薩摩出水に入る○高尾野、野田、阿久根、高城、水引、東郷等の諸城悉く降る  
四月廿八日 小西行長、加藤嘉明、九鬼嘉隆、脇坂安治等、薩摩平佐城を攻む  
四月廿九日 桂忠助、薩摩平佐城を以て降り、日向高城守將山田有信退却す  
五月 一日 薩軍日向都於郡の營を撤し、島津義久は鹿兒島に、島津義久は日向眞幸に歸城し、羽柴秀長、都於郡に陣を進む  
五月 二日 豊臣秀吉、薩摩阿久根より高城に抵る  
五月 三日 豊臣秀吉、薩摩太平寺に入りて本營を置く、羽柴秀長、島津氏降服の允可を乞ふ  
五月 六日 島津義久、豊臣秀吉に來謁の爲め鹿兒島を發す  
五月 七日 島津義久、薩摩雨窓院にて剃髮し龍伯と改む  
五月 八日 島津義久、太平寺に至り佐々成政、堀秀政に依て豊臣秀吉に謁し、其罪を謝す

羽柴秀長島津義弘を諭す

島津義弘降る

豊臣秀吉薩摩を去る  
佐々成政肥後に封ぜらる

秀吉之を許し、舊の如く大隅、薩摩及び日向諸縣郡を領せしめ、質を出さしむ、義久、依て其女龜壽を納る  
五月 九日 羽柴秀長、桑山重晴を日向眞幸に遣し島津義弘を諭さしむ  
五月十三日 羽柴秀長、更に福智長通をして島津義弘を諭す  
五月十五日 豊臣秀吉、糟屋武則に書を與へ博多築城の理由を告ぐ  
五月十八日 豊臣秀吉、薩摩太平寺を去り平佐に抵る○大村純忠歿す年五十五  
五月十九日 僧興山、更に島津義弘を諭す、義弘、日向眞幸城を出で野尻に來りて羽柴秀長に降る  
五月二十日 豊臣秀吉、薩摩山崎に次す  
五月廿一日 島津義久、上原尙近等に命じ日向飯肥を開城せしむ  
五月廿二日 豊臣秀吉、薩摩鶴田に抵る、島津義弘日向飯野より來り謁す  
五月廿五日 豊臣秀吉、島津義弘に大隅を、其子久保に日向諸縣郡を與ふ  
五月廿六日 豊臣秀吉、薩摩曾木に進む、新納忠元來り謁す  
五月廿七日 豊臣秀吉、薩摩を去り肥後に入る  
五月廿八日 豊臣秀吉、肥後佐敷に抵り書を北政所に與へ、海外經略の志を告ぐ  
六月 二日 豊臣秀吉、肥後隈本に次し、佐々成政等に肥後を與ふ  
六月 四日 豊臣秀吉、筑後の高良山に次す  
六月 五日 島津家久、日向佐土原に歿す年四十四



六月 六日 豊臣秀吉、筑前大宰府安樂寺に入り佐々成政等に肥後統治の方針を授く

六月 七日 豊臣秀吉、筑前箱崎に至り八幡宮に詣づ○有馬晴信、松浦鎮信、五島純玄等の舊領を安堵す○宗義調、其子義智來り謁す

六月 八日 豊臣秀吉、箱崎にて發句會を催す

六月 十日 豊臣秀吉、箱崎社頭より南蠻船に乘じ博多に抵る

博多を再興

六月 十一日 豊臣秀吉、筑前博多の再興を企つ

六月 十二日 筑前博多町の町割を開始す

六月 十五日 島津義久、鹿兒島を發し上洛の途に上る○豊臣秀吉、書を宗義調に與へ朝鮮國王の來朝を促さむ

島津義久上洛の途に就

六月 十九日 豊臣秀吉、箱崎に茶會を催し神屋宗湛、島井宗室等を招く○豊臣秀吉、天主教

天主教を禁ず

を禁ず

六月 廿四日 島津義久、筑後高良山に著す○僧宗亘寂す年八十四

小早川隆景筑前、筑後に封ぜらる

六月 廿五日 豊臣秀吉、筑前、筑後を小早川隆景に與ふ○島津義久、筑前箱崎に抵り豊臣秀吉に謁す○島津義久、豊臣秀吉の茶會に招かる、尋で箱崎を發し上洛の途に就く

六月 廿八日 豊臣秀吉、立花宗茂等、諸將に論功行賞を行ふ

六月 廿九日 島津義久、赤間關に著す

七月 一日 豊臣秀吉、箱崎を發し凱旋の途に上る

七月 二日 豊臣秀吉、關門海峽を渡る

七月 三日 豊臣秀吉、赤間關に抵り、黒田孝高、毛利吉成に封を與ふ

七月 四日 豊臣秀吉、赤間關を發す

七月 十日 豊臣秀吉、備前岡山に著す○島津義久、和泉堺に抵る

七月 十二日 勅使勸修寺晴豊、京都を發し豊臣秀吉を迎ふ

豊臣秀吉凱旋

七月 十四日 豊臣秀吉、大坂城に凱旋す

七月 廿二日 羽柴秀長、大和に歸る

七月 廿五日 豊臣秀吉、京都に入る

秀吉參内

七月 廿九日 豊臣秀吉、參内し西征の経過を奏上し、其の恩を謝す

八月 一日 豊臣秀吉、八朔の賀を聚樂第にて受く

八月 二日 十月朔日を期し北野大茶會を開催することを布告す

八月 四日 羽柴秀長、大和より入洛す

八月 六日 佐々成政、兵を發し隈部親永を討たんとす

八月 十日 豊臣秀吉、福島正則、生駒親正等、諸將に封を與ふ

八月 二十日 黒田孝高、肥後一揆を注進す

八月 中 耶蘇教宣教師等、肥前平戸に會議す

九月 七日 豊臣秀吉、黒田孝高等に命じ佐々成政を援けて肥後一揆を鎮定せしむ

聚樂第に移る

九月 十三日 豊臣秀吉、大坂より聚樂第に移る



北野大茶會  
を催す

朝鮮國王の  
入調を促す

伊達政宗、  
最上義光と  
絶つ

九月十四日 上杉景勝、越後赤谷城を陥る  
 九月十九日 豊臣秀吉、木材を北野に運ばしめ大茶會の準備をなす  
 九月廿四日 大政所、北政所、大坂に歸る  
 十月 一日 豊臣秀吉、京都北野に大茶會を開催す  
 九月廿八日 上杉景勝、新發田重家を撃ち、之を滅す  
 十月十六日 北野大茶會終る○神屋宗湛、上洛して豊臣秀吉に謁す  
 十一月 九日 三條西公國薨す年三十六  
 十一月十九日 北畠信雄を内大臣と爲す  
 十二月二十日 足利義氏歿す年四十七  
 十二月廿八日 徳川家康を左近衛大將と爲す  
 是 歲 宗義調、使を朝鮮に遣し國王の入朝を促す、肯かず  
 天正 十六年 戊子 皇紀二二四八年 西曆一五八八年  
 正月廿九日 徳川家康、遠江中泉に遊獵す  
 二月 四日 徳川家康、駿府城を收す  
 二月 五日 徳川家康、中泉より歸る  
 二月 中 伊達政宗、陸前大崎城主大崎義隆を攻め出羽最上義光と絶つ  
 三月 一日 徳川家康、駿府を發し上洛の途に上る  
 三月十二日 霧島山噴火す

徳川家康上  
洛

聚樂第行幸  
諸將誓書を  
上る

北政所に從  
一位を賜ふ

北條父子の  
上洛を促す

三月十四日 徳川家康、岡崎に至る  
 三月十八日 徳川家康、京都に入る  
 三月十九日 豊臣秀吉、聚樂第に徳川家康を饗應す  
 四月 一日 遣歐使節伊東祐益等、宣教師ワリニヤーニと與に臥亞を出發し日本に向ふ  
 四月 十日 豊臣秀吉、參内して聚樂第行幸を奏請す  
 四月十四日 天皇、聚樂第に行幸あり  
 四月十五日 徳川家康、北畠信雄、羽柴秀長、三好秀次、宇喜多秀家、前田利家等の諸大名  
 誓書を上る○豊臣秀吉、京都の地子錢を獻上す  
 四月十六日 聚樂第にて和歌御會あり  
 四月十七日 天皇、聚樂第にて伶人の舞を觀給ふ  
 四月十八日 車駕、聚樂第より還幸あり  
 四月十九日 勅使、大坂に下りて、北政所に從一位を賜ふ  
 四月廿七日 徳川家康、京都を發す  
 四 月 中 大内定綱、伊達政宗に降る  
 五月十二日 駿府城天守閣成る  
 五月十八日 豊臣秀吉、寺澤堅高を長崎に遣し、長崎を切支丹より沒收して公領と爲す  
 五月十九日 前内大臣徳大寺公維薨す年五十二  
 五 月 中 豊臣秀吉、富田信廣を相模小田原に遣し北條氏政父子の上洛を促さしむ



豊臣秀吉北條氏政と和す  
佐々成政自殺す

五月 中 北條氏直、使者を徳川家康に遣し豊臣秀吉との調停を依頼す  
五月 中 諸國百姓の兵器を藏するを禁ず  
閏五月 十日 徳川家康の調停により、豊臣秀吉、北條氏政父子の和睦成る  
閏五月 十四日 豊臣秀吉、佐々成政に自殺を命ず年五十三  
閏五月 十五日 豊臣秀吉、肥後を加藤清正、小西行長に分與す  
六月 八日 大政所病む  
六月 二十日 大政所、病平癒の立願御祈禱行はる  
六月 廿一日 天皇、右立願の御拜あり、更に勅使を伊勢男山に差遣し給ふ○北條氏政父子、十二月上洛すべき事を豊臣秀吉に約す

刀狩令を下す

七月 二日 前關白左大臣一條内基薨す年六十四  
七月 八日 豊臣秀吉、刀狩令を下す  
七月 十五日 畠山政頼歿す年五十五  
七月 廿一日 伊達政宗、出羽最上義光、陸前大崎義隆等と和す  
七月 廿二日 刀狩を實行す

琉球に入朝を促さんとす

八月 三日 伊達政宗、磐城三春城主田村氏を併す  
八月 七日 北條氏政の使者北條氏規、小田原を發す  
八月 十六日 島津義久、豊臣秀吉の命を受け大隅志布志大慈寺の僧を琉球に遣し其入朝を促さんとす

大徳寺を建つ

八月 廿二日 北條氏規、京都に至り豊臣秀吉に調す  
八月 中 豊臣秀吉、大政所の爲め大徳寺を建立す  
九月 六日 醫師島田清庵、罪ありて磔せらる  
十月 中 葡萄牙人ロベツ、馮港より來航せる大船の船長ベレーラの名代として豊臣秀吉に調す

稻葉一鐵歿す

十一月 九日 稻葉貞通繼一歿す年七十三  
十一月 廿二日 島津氏の琉球使節未だ發せず、島津義久之を督促す  
十一月 下旬 豊臣秀吉、妙音院を小田原に遣し、更に北條氏政の上洛を促す  
十二月 十二日 宗義調歿す年五十七  
十二月 廿四日 徳川家康、岡崎城に歸る

藤原惺窩朱子學を講ず

是 歲 藤原惺窩、論孟集註中庸章句等の書を得て始めて朱子學を講ず  
天正 十七年 己丑 皇紀二二四九年 西曆一五八九年

再び朝鮮の入朝を促す

二月 五日 駿河、遠江地方大地震あり  
三月 廿八日 徳川家康、駿府城を發して上洛の途に就く  
三月 七日 徳川家康、京都に入る  
三月 廿八日 豊臣秀吉、宗義智に書を與へ、再び朝鮮の入朝を促さしむ  
五月 三日 徳川家康、伊達政宗に書を與へ、最上義光と和睦せしむ  
五月 十九日 伊達政宗、相馬盛胤を破り磐城駒ヶ嶺城を取る



財寶分與

蘆名氏亡ぶ

五月二十日 豊臣秀吉、聚樂第に於て皇弟古佐磨王、以下諸將に金銀を分與し、恩賜の金額三十六萬五、兩に達す

六月 四日 徳川家康、京都を發す

六月 五日 蘆名義廣、伊達政宗と岩代磨上原に戦ひ、大敗して黒川城に走る

六月 九日 豊臣秀吉、伊達政宗の鷹、鶴を贈りし返禮に、國行の太刀一腰を贈る

六月 十日 徳川家康、駿府城に歸る○蘆名義廣、岩代黒川城を棄て、常陸に奔り、蘆名氏滅ぶ

六月廿三日 大須賀康高歿す年六十三

七月 四日 豊臣秀吉、書を上杉景勝、佐竹義重に與へて伊達政宗を撃たしむ

七月 七日 徳川家康、貢租賦役の法を統下に頒つ

七月廿一日 前田利家、蘆名氏征伐の件に關し伊達政宗に警告を發す

七月廿二日 施藥院全宗、更に警告狀を伊達政宗に發す

七月 中 宗義智、僧立蘇と俱に朝鮮に入る、朝鮮、廷議して通信使節を送るに決す

八月 八日 僧宗悅寂す年七十二

八月廿四日 島津義久、琉球王尙寧の遣使僧龍雲等と鹿兒島を發す

八月廿八日 徳川家康、甲斐に赴く

八月 中 常陸下妻城主多賀谷重經、下館城主水谷勝俊、書を豊臣秀吉に上りて東征を促す

伊達政宗に警告す

豊臣秀吉東征を決意す

琉球使節豊臣秀吉に謁す

諸將に軍令を頒つ

豊臣秀吉北條氏政と絶つ

九月 一日 豊臣秀吉、北條氏討伐を決意し、諸大名の妻孥を京都に置かしむ

九月 三日 伊達氏の臣上郡山左近丞、淺野長政に書を送り、伊達政宗の爲めに辯明す

九月十三日 鶴松丸、大坂城に移る

九月十八日 徳川家康、甲斐東郡城を築く

九月廿四日 島津義久、琉球王尙寧の使者を率ゐて豊臣秀吉に謁す

十月 三日 下野宇都宮國綱、北條氏邦と和す

十月二十日 淺野長政、伊達政宗に書を與へ、會津處分に關し命ずるところあり

十月廿四日 豊臣秀吉、北條氏征伐の軍令を諸將に頒つ

十月 中 北條氏政の將沼田城代猪俣範直、眞田昌幸の領上野吾妻郡名胡桃を取る

十一月上旬 豊臣秀吉、大谷吉繼を徳川家康の許に遣し、北條氏討伐の決心を告ぐ

十一月 八日 小西行長、明年正月に宗義智、朝鮮使節を召連れ歸朝すべき旨を豊臣秀吉に報す

十一月廿一日 豊臣秀吉、眞田昌幸に信濃上田城を嚴守し、以て東征を待たしむ

十一月廿二日 伊達政宗、岩代須賀川城を陥れ、二階堂氏を滅す

十一月廿四日 豊臣秀吉、書を北條氏政に與へ、之と絶つ

十一月廿六日 上郡山仲爲、和久宗是、連署して伊達政宗に上洛を勸告す

十一月 中 伊達政宗、白川義親、石川昭光を降し、會津四郡、仙道七郡を併せ、岩代黒川城に徙り、威、奥羽に震ふ



伊達政宗に上洛を促す

十二月 一日 徳川家康、濱松城に歸る  
十二月 四日 北條氏直、沼津より妙音院一鷗を招く、妙音院、其拘禁を脱し之に赴き、途にて豊臣秀吉の兵に捕へらる  
十二月 五日 豊臣秀吉、伊達政宗に書を與へ、小田原征伐の決意を告げ其上洛を促す○徳川家康、岡崎城を發し上洛す

家康軍議に參與す

十二月 七日 北條氏直、豊臣氏の臣富田知信、津田信勝に書を致し、自家の辯疏をなす  
十二月 九日 北條氏直、徳川家康に書を送りて更に辯疏し、下野壬生城主壬生義勝に命じて山中城を修せしむ  
十二月 十日 徳川家康、京都に入り豊臣秀吉に謁し、東征の議に參與す  
十二月 十二日 徳川家康、京都を發す  
十二月 十三日 徳川家康、使を駿府に遣して出陣準備をなさしむ  
十二月 十四日 是頃、豊臣秀吉、小田原征伐の軍令を發し、長束正家に命じ兵糧の事を掌らしむ

北條氏直大砲を作らしむ

十二月 廿三日 徳川家康、駿府に歸る  
十二月 三十日 北條氏直、鐵砲鍛冶山田次郎右衛門等に命じ、大筒二十挺を鑄造せしむ  
是 歲 豊臣秀吉、方廣寺大佛殿造營の材を諸國に徵す  
天正 十八年 庚寅 皇紀二二五〇年 西曆一五九〇年  
正月 三日 徳川家康の嗣子長丸、上洛の途に上る、井伊直政、酒井忠世、内藤正成、青山

北條氏の籠城準備

忠成等之に扈從す  
正月 五日 北條氏直、管内に令し人夫三萬人を徵發す  
正月 十三日 徳川長丸、京都に入る  
正月 十四日 北條氏政、小田原城の内外を修築擴大し、又相模足柄城を修す○徳川家康夫人朝日姫歿す年四十八

小田原城の軍議評定

正月 十五日 徳川長丸、豊臣秀吉に謁す  
正月 十七日 徳川長丸、京都を發して歸國す○北條氏直、伊達政宗に書を致し佐竹義宣挾撃を謀る  
正月 二十日 北條氏政、小田原城に其一門宿將を招き、軍議を評定す○豊臣秀吉、書を伊達政宗に送りて小田原に會せしむ  
正月 廿一日 徳川家康、出陣の令を管内諸國に發し、二月上旬を期して駿府に會せしむ○北條氏政、鎌倉建長寺の糧米を相模小田原城及び玉繩城に輸送す  
正月 廿五日 徳川長丸、駿府城に還る○徳川家康、豊臣秀吉の意を察し本多正信、本多重次に命じて道路の諸城を掃除せしめ、更に人質として其従弟本多康俊を京都に送る

伊達政宗佐竹の兵を破る

正月 廿七日 伊達政宗の兵、佐竹義宣を磐城淺川に破る  
正月 廿八日 豊臣秀吉、書を徳川家康に致して領内の城を借らん事を請ふ、家康之を諾す  
正月 中 京都三條大橋成る



津輕爲信自立す

諸將小田原に向ふ

水軍遠州に集る

正月 中 南部信直の臣津輕爲信、陸奥浪岡城に據りて自立す  
 二月 一日 豊臣秀吉、諸將に命じ本日より三月一日迄の間に東征の師を出さしむ  
 二月 二日 前田利家、書を伊達政宗に送りて、下野に來り會せしめんとす、政宗之を肯か  
 ず  
 二月 五日 徳川家康の先鋒酒井家次、駿府を發す  
 二月 七日 蒲生氏郷、伊勢松坂城を發す  
 二月 十日 徳川家康、兵を率ゐて駿府城を發す○前田利家の前軍、加賀金澤を發す○上杉  
 景勝、越後春日山城を發す  
 二月十三日 鶴松丸、聚樂第に移る  
 二月十五日 徳川家康の將酒井忠次、駿河吉原に陣す  
 二月十六日 徳川家康、伊奈忠政に命じ富士川に舟橋を架せしめ、軍兵の通行を便にせしむ  
 二月二十日 羽柴秀次、近江八幡山城を發す○前田利家、前田利長、加賀金澤城を發す  
 二月廿一日 北畠信雄、駿府に抵る  
 二月廿四日 徳川家康、駿河長久保城に次し、總軍の到るを待つ  
 二月廿五日 細川忠興、丹後宮津城を發す○蒲生氏郷、北畠信雄、沼津に陣す○水軍の將長  
 曾我部元親、加藤嘉明、脇坂安治、九鬼嘉隆等、遠江今切港に入る○徳川家康  
 の部下に命じて新築せしめたる豊臣秀吉の宿泊亭舎、是日竣成す  
 二月廿六日 徳川家康の豊臣秀吉饗應準備全く成る

水軍清水港に入る

豊臣秀吉、京都を發す

二月廿七日 筒井定次、伊賀上野城を發す○長曾我部元親以下水軍の諸將、駿河清水港に入  
 る  
 二月廿八日 淺野長政、京都を發す  
 二月三十日 宇喜多秀家、京都を發す  
 三月 一日 豊臣秀吉、參内して節刀を賜はり、兵を率ゐて京都を發す○毛利輝元を京都に  
 羽柴秀長を大坂城に留守せしむ  
 三月 三日 豊臣秀吉、近江八幡山に抵る  
 三月 四日 豊臣秀吉、近江相原に抵る  
 三月 五日 豊臣秀吉、大垣に次す  
 三月 六日 豊臣秀吉、尾張清州城に著す  
 三月 七日 北條氏直、相模三浦郡逗子村に令し、農工商をとはず兵器を備へ軍に會せしむ  
 三月 八日 上杉景勝、前田利家等、上野松井田城を攻む  
 三月 九日 豊臣秀吉、熱田より三河岡崎城に抵る  
 三月 十日 豊臣秀吉、三河吉田城に入る、出羽角館城主戸澤盛安來り謁す  
 三月十四日 徳川家康、松平家忠に命じ豊臣秀吉の營を駿河吉原驛に造營せしむ  
 三月十五日 是頃、上杉景勝、前田利家等、眞田昌幸、松平康國と信濃追分驛附近に會し、  
 將に上野に入らんとす  
 三月十八日 豊臣秀吉、駿河田中城に抵る○伊達政宗、豊臣秀吉に謁見を決意す○北條氏直



秀吉駿府城に入る

三月十九日 豊臣秀吉、駿府城に入る

三月二十日 徳川家康、駿河長久保より駿府に來り、豊臣秀吉に謁見す

三月廿二日 徳川家康、駿河長久保に歸る

三月廿三日 豊臣秀吉、駿河清見寺に入る

三月廿六日 豊臣秀吉、駿河吉原に抵る

三月廿七日 豊臣秀吉、駿河沼津三牧橋城に入る、陸奥西根城主津輕爲信、下野太田原城主太田原晴清來り謁し、本領安堵の朱印を與へらる

奥羽諸將安堵す

三月廿八日 豊臣秀吉、沼津を發し山中城西方の高處に上り地勢を視察し、長久保に抵りて徳川家康と會議す○豊臣秀吉、北畠信雄に伊豆韮山城攻撃を命ず○上杉景勝、前田利家等の東山道支軍、上野松井田城を圍む

山中城陥る

三月廿九日 豊臣秀吉、沼津城を發し初音ヶ原に向ふ○羽柴秀次、伊豆山中城を攻めて之を陥る、城將松田康長戰死し、北條氏勝、相模玉繩城に走る○北畠信雄等、伊豆韮山城を攻めて外郭を破る

攻撃軍進む

三月 中 宗義智、朝鮮使節正使黄允吉、副使金誠一を同道して京城を發す

四月 一日 羽柴秀次、進んで相模鷹ノ巣城を抜く○豊臣秀吉、兵四萬を率ゐて駿河山中城を發し箱根に抵る○徳川氏の將本多重次等、伊豆韮山城攻撃軍を援け安良里城壘を攻略す○徳川家康、相模宮城野に次す○北條氏の屬城竹浦、宮城野、湯本

小田原城を包圍す

四月 二日 徳川家康、小田原城の西、北諏訪に進み總世寺山に陣す○羽柴秀次、相模久野の守將等、皆、城を棄て小田原城に退くに移る

四月 三日 羽柴秀次、相模荻窪山に陣す○伊豆下田城將清水康英、援將江戸朝忠、城を棄て、走る○豊臣秀吉の全軍、箱根を踰えて小田原城を圍む

四月 四日 武藏鉢形城兵、小田原城に入らんとして發す

四月 五日 徳川氏の將榊原康政、武藏鉢形城兵を撃破す○豊臣秀吉、本營を箱根より湯本早雲寺に移し、持久包圍の策を決して、諸將を小田原に召す

四月 六日 徳川家康、相模今井村に陣す

總攻撃を命ず

四月 七日 豊臣秀吉、全軍に小田原總攻撃を命ず

四月 八日 小田原城早川口の守將皆川廣照、走りて木村重茲の陣に投降す

四月 九日 諸將、各々包圍の部署に就く○北條氏政の重臣松田憲秀、小田原城中より款を豊臣秀吉に送る

松山城陥る

四月 十日 上杉景勝、前田利家等、上野松井田城攻圍戰の狀況を豊臣秀吉に報ず

四月十一日 前田利家、武藏松山城を攻めて、之を陥る

四月十三日 豊臣秀吉、北政所に書を與へ淀君を招致す

四月十五日 豊臣秀吉、巡視と稱し徳川家康、北畠信雄の陣に赴き歡談す、謀叛の噂ある爲なり○僧宗普寂す年七十五



四月十六日 是頃、松平康國等、上野西牧城を攻取す○武藏鉢形城の支城日尾、根小屋、天神山、花隈の諸城降る

佐野城陥る

四月中旬 佐野了伯、豊臣秀吉に應じて下野佐野城を陥る、守將大貫武重自盡す

厩橋城陥る

四月十七日 上皇、妙法院常胤法親王に勅し、宮中に豊臣秀吉の戦捷を祈らしめ給ふ○上杉景勝の將藤田信吉等、上野國峰城を陥れ、更に其支砦岩崎を抜く

松井田城陥る

四月十九日 前田利家の兵、上野厩橋城を陥る○前田利家、本多忠勝等、武藏鉢形城を圍む

佐竹義宣秀吉に通ず

四月二十日 前田利家、上杉景勝、由良國繁等、上野松井田城を陥れ、守將大導將政繁降る

箕輪城陥る

○北條氏長、伊達政宗に書を送り音問を通ず

江戸城を收む

四月廿一日 北條氏勝、相模玉繩城を出でて徳川家康の營に來り、豊臣秀吉に早雲寺に謁す

玉繩城陥る

四月廿二日 佐竹義宣、豊臣秀吉に通じて下野壬生、鹿沼兩城を陥る

相模玉繩城陥る

四月廿三日 天皇、聖護院道澄に勅して清涼殿に豊臣秀吉の戦捷を祈らしめ給ふ

前田利長、眞田昌幸、上野箕輪城を攻めて之を陥る

四月廿四日 前田利長、眞田昌幸、上野箕輪城を攻めて之を陥る

淺野長政等、武藏江戸城を收め、守將遠山直景、眞田凱尹等を降す

四月廿五日 豊田秀吉、關東諸城を收めん爲め、淺野長政、本多忠勝、平岩親吉を遣す

朝鮮使節黃允吉等の一行、釜山を發す

四月廿六日 淺野長政等、小田原を發す

諸城を陥る

四月廿七日 淺野長政等、武藏江戸城を收め、守將遠山直景、眞田凱尹等を降す

川越城陥る

四月廿八日 相模玉繩城陥る

上杉景勝、前田利家、武藏川越城を抜く、次で本庄、八幡山、深谷、東方等の諸城を陥る

五月 一日 上杉景勝、前田利家、武藏川越城を抜く、次で本庄、八幡山、深谷、東方等の諸城を陥る

勅使勸修寺晴豊、京都を發し小田原に赴く

五月 二日 勅使勸修寺晴豊、京都を發し小田原に赴く

太田氏房の兵、蒲生氏郷、北畠信雄の營を襲撃して利あらず

五月 三日 太田氏房の兵、蒲生氏郷、北畠信雄の營を襲撃して利あらず

淀君、小田原に著す

五月 七日 淀君、小田原に著す

伊達政宗、豊臣秀吉に謁せんとし會津を發す

五月 八日 伊達政宗、豊臣秀吉に謁せんとし會津を發す

豊臣秀吉、書を上杉景勝に與へ、前田利家と共に武藏鉢形城に赴かしむ

五月十三日 豊臣秀吉、書を上杉景勝に與へ、前田利家と共に武藏鉢形城に赴かしむ

最上義守歿す年七十

五月十七日 最上義守歿す年七十

徳川氏の將酒井家次は下總臼井城を、内藤家長は佐倉城を攻取す

五月十八日 徳川氏の將酒井家次は下總臼井城を、内藤家長は佐倉城を攻取す

淺野長政、木村重茲等武藏岩槻城に迫る、守將太田氏房は小田原に走り、妹尾兼延之に死す

五月十九日 淺野長政、木村重茲等武藏岩槻城に迫る、守將太田氏房は小田原に走り、妹尾兼延之に死す

前田利家、上杉景勝、武藏鉢形城を包圍す

五月二十日 前田利家、上杉景勝、武藏鉢形城を包圍す

武藏岩槻城陥り、守將伊達房實降る

五月廿二日 武藏岩槻城陥り、守將伊達房實降る

結城晴朝、小田原に來り、豊臣秀吉に謁す

五月廿四日 結城晴朝、小田原に來り、豊臣秀吉に謁す

豊臣秀吉、書を淺野長政、木村重茲に遣して漫りに武藏岩槻城の開城を許せるを責む

五月廿五日 豊臣秀吉、書を淺野長政、木村重茲に遣して漫りに武藏岩槻城の開城を許せるを責む

豊臣秀吉、石田三成、長束正家に命じ上野館林、武藏忍二城を攻めしむ○佐竹義宣、宇都宮國綱、小田原に著し豊臣秀吉に謁す○堀秀政歿す年三十八

五月廿七日 豊臣秀吉、石田三成、長束正家に命じ上野館林、武藏忍二城を攻めしむ○佐竹義宣、宇都宮國綱、小田原に著し豊臣秀吉に謁す○堀秀政歿す年三十八

堀秀政歿す

堀秀政歿す



館林城陥る

五月三十日 淺野長政、木村重茲等、武藏岩槻城より鉢形城に向ふ  
六月 二日 石田三成等、上野館林城を陥る  
六月 四日 石田三成等、館林城より武藏忍城に向ふ  
六月 五日 伊達政宗、小田原に著す○小田原城澁取口の守將和田左衛門、徳川家康の營に來り降る

葦山城開城

六月 六日 石田三成等、武藏忍城を攻む  
六月 七日 石田三成等、武藏忍城丸墓山に上り築堤を企つ○徳川家康、其將朝比奈泰勝を伊豆葦山城に遣し、開城を勸告せしむ、守將北條氏規、乃ち城を致して去る

伊達政宗秀吉に謁す

六月 九日 伊達政宗、豊臣秀吉に謁す○武藏忍城の水攻築堤を起工す  
六月 十日 豊臣秀吉、茶會に伊達政宗を招く

鉢形城を開く

六月 十一日 石田三成等、忍城水攻の爲め荒川の水を導き、利根川の水を誘ふ  
六月 十四日 武藏鉢形城主北條氏邦、開城して正龍寺に入り剃髮す  
六月 十五日 松田直憲、其父松田憲秀の内應を北條氏直に告ぐ  
六月 十六日 北條氏直、松田憲秀を執ふ

遣歐使歸る

六月 十七日 前田利家、上杉景勝、小田原に抵り豊臣秀吉に謁し、尋で武藏八王子城に向ふ  
六月 十八日 武藏忍城の築堤決潰して、寄手死する者二百七十餘人に達す  
六月 二十日 遣歐使節伊東祐益等、宣教師ワリニヤニ等、長崎に著す○豊臣秀吉、山中長俊に命じて成田氏長に勸降狀を送らしむ

八王寺城陥る

六月 廿二日 前左大臣西園寺公朝薨す年七十六  
六月 廿三日 上杉景勝、前田利家、武藏八王子城を陥る、守將横地吉信、中山家範、近藤助實、之に死す

六月 廿四日 北條氏規、徳川家康の營に入る○豊臣秀吉、黒田孝高、瀧川雄利を小田原城中に遣はし、太田氏房を介して北條氏政父子に降を諭さしむ

六月 廿五日 徳川氏の將本多忠勝、相模津久井城を抜く○石田三成、龍淵寺僧を使者として意を傳へ、忍城兵を諭さしむ

忍城陥る

六月 廿六日 豊臣秀吉、小田原石垣山の營に移る  
六月 廿七日 石田三成、武藏忍城を取る  
六月 廿九日 北條氏直、織田信包に依りて、哀を豊臣秀吉に請ふ

七月 三日 豊臣秀吉、近臣垣見家純等に命じて小田原より會津に至る、道路橋梁を修せしむ

北條氏直降る

七月 五日 北條氏直、自ら松田憲秀を斬り、其弟氏房を伴ひ小田原城を出でて、瀧川雄利の陣に入り降を請ふ○南部信直、其子利直、小田原に來り豊臣秀吉に謁し、九戸政實及び津輕爲信の反を訴ふ○淺野長政をして陸奥を巡察せしむ

七月 六日 豊臣秀吉、小田原開城を命ず

小田原城開城

七月 七日 豊臣秀吉、榊原康政、脇坂安治、片桐直盛に命じ小田原城を受取らしめ、是日より三日を限り城兵を放つ



七月 九日 北條氏政、北條氏照等、醫師田村安栖の宅に移る

七月 十日 徳川家康、小田原城に入る

北條氏政自殺  
七月 十一日 豊臣秀吉、北條氏政十五、北條氏照に切腹を命ず

七月 十二日 豊臣秀吉、北條氏直を高野山に放つ

徳川家康の移封  
七月 十三日 豊臣秀吉、小田原城に入り、徳川家康を關東に移封し、諸將の論功行賞を行ふ

○伊達政宗、會津黒川城を出でて、出羽米澤城に移る

七月 十四日 豊臣秀吉、小田原を發し奥州に向ふ

七月 十九日 大導寺政繁を江戸櫻田に斬る

七月 二十日 北條氏直、小田原を發し高野山に赴く

七月 廿一日 朝鮮使節黃允吉等、京都に入り大徳寺に館す

七月 廿三日 細川藤賢歿す年七十四

七月 廿四日 豊臣秀吉、江戸城を發す

秀吉宇都宮に着す  
七月 廿六日 豊臣秀吉、下野宇都宮に着し、伊達政宗、最上義光、木村清久等を召して評議す

七月 廿七日 豊臣秀吉、南部信直に南部七郡を領せしむ

七月 廿九日 徳川家康、榊原康政をして江戸城を修めしむ

八月 一日 徳川家康、武藏江戸城に入る○豊臣秀吉、佐竹義重、佐竹義宣に本領安堵状を與ふ○徳川家康、初て伊奈忠次を關東郡代と爲し、武藏、相模、安房、上總、

家康江戸城に入る

下總、上野、下野、常陸、八國の貢税を管掌せしむ

八月 七日 豊臣秀吉、岩代長沼城主新國盛秀の小田原の師に會せざるを罰し、其の封を除く

八月 九日 豊臣秀吉、會津に入り奥羽二州の處分を爲し陸前名生城主大崎義隆、陸前登米

蒲生氏郷を會津に封ず

城主葛西晴信、磐城石川城主石川昭光、磐城白河城主結城義親の封を除き、蒲

奥羽檢地を行ふ  
生氏郷を會津に封じ奥羽を鎮せしむ

八月 十日 豊臣秀吉、淺野長政を留めて、奥羽の檢地を行はしむ

八月 十二日 豊臣秀吉、會津を發し凱旋の途に就く

八月 十五日 徳川家康、井伊直政を上野箕輪に、榊原康政を上野館林に、本多忠勝を上總大

多喜に、大久保忠世を相模小田原に、鳥居元忠を下總矢作に、平岩親吉を上野

厩橋に、小笠原秀政を下總古河に、内藤信成を伊豆韮山に、本多廣孝を上野白

井に封ず

江戸町奉行を置く

八月 中 徳川家康、始めて江戸町奉行を置く

八月 中 結城晴朝、家督を徳川秀康に譲る

豊臣秀吉凱旋  
八月 中 徳川家康、僧存應に法を聽き、増上寺を菩提所とす。

九月 一日 豊臣秀吉、東北より京都に凱旋す

九月 四日 豊臣秀吉、從軍諸將の歸著を俟つて、參内すべき事を奏上す

九月 十二日 徳川家康、小濟民部之丞等を船奉行と爲し、相州三浦郡三崎にて海上往還の船



皇居成る  
狩野永徳歿す

朝鮮使引見  
秀吉書を比  
律賓王に贈  
る

朝鮮使節國  
書を捧呈す

舶を改めしむ

九月十三日 皇居、造營竣成す○淺野長政、其子幸長に書を與へ銀山試掘を命ず

九月十四日 繪師狩野永徳歿す年四十八

十月 二日 豊臣秀吉、陸奥三春城主田村宗顯の封を收む

十月 五日 豊臣秀吉、聚樂第に朝鮮使節正使、黄允吉、副使、金誠一を引見す

十月十五日 豊臣秀吉、書を比律賓國王に贈る

十月十九日 豊臣秀吉、大和郡山城に赴き羽柴秀長の病を訪ふ

十月廿二日 奥羽一揆蜂起して、木村吉清を陸前佐沼城に攻む

十月廿八日 蒲生氏郷、部下に出陣を命ず

十月廿九日 陸奥大雪あり

十一月 一日 豊臣秀吉、宗義智の勞を賞す

十一月 三日 豊臣秀吉、參内して東征の復命を奏す

十一月 四日 豊臣秀吉、堀秀治に故堀秀政の封を襲がしむ

十一月 五日 蒲生氏郷、會津を發す

十一月 六日 蒲生氏郷、姉ヶ島に抵る

十一月 七日 朝鮮使節黄允吉等、豊臣秀吉に謁見し、國書を捧呈す○蒲生氏郷、伊達氏の領

十一月十一日 朝鮮使節黄允吉等、京都を發し歸國す

十一月十七日 蒲生氏郷、伊達政宗、岩代黒川に會見し軍事を議す

十一月十八日 伊達政宗、病と稱し先發延期を蒲生氏郷に報ず

十一月十九日 蒲生氏郷、伊達政宗の反狀を察し、腹背敵の覺悟にて出發し、一揆の陸前名生

城を陥る

十一月二十日 蒲生氏郷、更に陸前高清水城攻撃に著手せんとするに當り、伊達政宗逆心の報

に接し名生城に入る

十一月廿三日 木村吉清、父子陸前名生城に來り蒲生氏郷に會す

十一月廿八日 伊達政宗、蒲生氏郷と誓書を交換す

十一月 中 遣歐使節、及び宣教師ワリニヤーニ等、長崎を發し上洛す

十二月 七日 伊達政宗、岩代杉目に還り原田宗時、濱田景隆を二本松城に遣し淺野長政に就

いて辯明す

十二月廿一日 淺野長政、伊達政宗に上洛を促す

十二月廿四日 蒲生氏郷、豊臣秀吉に伊達政宗の逆心を報ず

十二月廿六日 和久宗是、淺野長政、書を伊達政宗に與へ上洛を促す

十二月廿八日 和久宗是、再び伊達政宗に上洛を促す

十二月廿九日 結城秀康、白川表に兵を出す

天正 十九年 辛卯 皇紀二二五一年 西曆一五九一年

正月 一日 伊達政宗の將伊達成實、國分盛重等、蒲生氏郷に質と爲る○羽柴秀次、奥州討

政宗成實を

政宗の上洛  
を促す

蒲生氏郷伊  
達政宗と誓  
ふ



質とす

正月 二日 伐の爲め、尾張清洲城を發す  
 蒲生氏郷、木村吉清父子、陸前名生城を發し會津に還る  
 正月 三日 鶴松丸再び病む  
 正月 五日 徳川家康、武藏江戸城を發し岩槻城に入る  
 正月 七日 羽柴秀次、小田原に抵る  
 正月 九日 伊達政宗、米澤に歸る  
 正月 十日 羽柴秀次の先鋒、相模早川に來り、奥羽平定の報に接す  
 正月 十一日 徳川家康、武藏岩槻城にて奥羽平定の報に接す  
 正月 十三日 徳川家康、江戸城に歸る  
 正月 十四日 羽柴秀次、武藏府中に抵る、徳川家康、往きて之に會す  
 正月 十五日 豊臣秀吉、本願寺を京都六條に移す  
 正月 十九日 徳川家康、書を伊達政宗の老臣片倉景勝に與へ、其上洛を促す  
 正月 二十日 豊臣秀吉、沿海諸國に令して、遣外船艦水手の準備をなさしむ  
 正月 廿一日 淺野長政、再び伊達政宗の上洛を促す  
 正月 廿三日 羽柴秀長薨す年五十一  
 正月 廿六日 淺野長政、更に伊達政宗の上洛を勸告す  
 正月 廿九日 故羽柴秀長の葬儀を行ふ  
 正月 三十日 伊達政宗、米澤を發し上洛の途に上る  
 政宗上洛の途に就く  
 本願寺を京都に移す  
 羽柴秀長薨す  
 質とす

宣教師印度副王の書を呈す

閏正月 二日 伊達政宗、岩代杉目に著す  
 閏正月 三日 徳川家康、江戸城を發し上洛す  
 閏正月 四日 伊達政宗、岩代二本松に著し、淺野長政と會見す  
 閏正月 八日 耶蘇宣教師ワリニヤーニ及び遣歐使節等、聚樂第にて豊臣秀吉に謁し、印度副王の書を呈す  
 閏正月 十日 是頃、蒲生氏郷、京都に來り豊臣秀吉に謁す  
 閏正月 十一日 豊臣秀吉、京都を發し尾張清洲城に到る  
 閏正月 十九日 伊達政宗、駿河府中に著す  
 閏正月 廿六日 徳川家康、伊達政宗に書を送りて豊臣秀吉の近況を報ず  
 閏正月 廿七日 伊達政宗、尾張清洲城に來り、豊臣秀吉に謁す  
 閏正月 廿八日 伊達政宗、清洲を發して上京す  
 二月 三日 豊臣秀吉、京都に還る  
 二月 四日 伊達政宗、京都に著す  
 二月 九日 豊臣秀吉、木村吉清父子の封を收む  
 二月 十三日 豊臣秀吉、千利休に堺に罷下るべきを命ず  
 二月 十五日 徳川家康、京都に入る  
 二月 廿八日 豊臣秀吉、千利休に切腹を命ず年七十四  
 二月 中 朝鮮使節、堺浦より對馬に來り尋で京城に歸る

千利休切腹



九戸政實叛  
廣島城を築く

朝鮮討明の  
不可を陳ず

朝鮮入明の  
教導を肯ぜず

三月 三日 徳川家康、京都を發す  
 三月二十日 豊臣秀吉、朝鮮軍役の定めを發表す  
 三月廿一日 徳川家康、江戸城に著す  
 三月 中 南部信直の族九戸政實、叛きて陸奥糠部城に據る  
 四月二十日 茶人津田宗及歿す  
 四月 中 毛利輝元、安藝廣島城を築きて之に徙る  
 四月 中 南部信直、其子利直を上京せしめ、豊臣秀吉に九戸政實の叛を告ぐ  
 五月上旬 伊達政宗、京都を發して國に歸る  
 五月 五日 朝鮮、答書を草し、豊臣秀吉に討明の不可を陳ず  
 六月 七日 菊桐章を濫用する事を禁ず  
 六月二十日 豊臣秀吉、羽柴秀次、徳川家康、蒲生氏郷、伊達政宗、上杉景勝等をして九戸政實を征せしむ  
 六月廿四日 伊達政宗、陸奥宮崎城を攻む  
 六月廿七日 伊達政宗、遂に陸奥宮崎城を陥る  
 六月 中 宗義智、自ら朝鮮に赴き豊臣秀吉の意を傳へ、入明の嚮導となさんとす、朝鮮肯ぜず  
 七月 十日 羽柴秀次、尾張清洲を發し奥州に赴く  
 七月上旬 伊達政宗、陸前佐沼城を抜く

全國檢地を  
行はんとす  
鶴松丸歿す  
制令三條を  
頒つ

七月十三日 蒲生氏郷、一揆征討の軍令を發す  
 七月十七日 豊臣秀吉、伊達政宗に宮崎城攻陥の感狀を與ふ  
 七月十九日 徳川家康、江戸城より岩槻城に抵る  
 七月二十日 豊臣秀吉、伊達政宗に佐沼城攻陥の感狀を與ふ  
 七月廿四日 蒲生氏郷、會津を發し南部に向ふ  
 七月廿五日 豊臣秀吉、印度副王に贈る返書草案成る  
 七月廿五日 豊臣秀吉、全國の檢地を行はんとす  
 七月 中 朝鮮、邊城を修築す  
 八月 五日 鶴松丸歿す年三  
 八月 六日 豊臣秀吉、東福寺に入り鬚を斷る  
 八月 七日 豊臣秀吉、清水寺に參籠す○是頃伊達政宗、淺野正勝に依りて會津近邊の保存を運動す  
 八月 十日 豊臣秀吉、有馬温泉に赴く  
 八月十八日 豊臣秀吉、大坂に還る  
 八月廿一日 豊臣秀吉、制令三條を頒つ  
 八月廿五日 豊臣秀吉、京都に入る  
 九月 一日 蒲生氏郷等、九戸政實の陸奥穴田井、根曾利兩城を攻めて之を陥る  
 九月 三日 蒲生氏郷等、陸奥福岡城を陥る



九戸政實を斬る

九月 七日 九戸政實、淺野長政に降り奥羽平定さる

九月 八日 淺野長政、九戸政實等を斬る

九月 廿三日 豊臣秀吉、伊達政宗を岩手澤に移す

九月 中 羽柴秀次等、奥州の制法を定め、平泉に至り、尋いで京都に歸る

十月 十日 豊臣秀吉、九州諸大名に命じ肥前名護屋城を築かしむ

十月 二十日 豊臣秀吉、高野山寺領三千石の他に五萬石あるを發見し、書を與へて之を戒飭す

十月 廿四日 島津義久、書を琉球に送り兵糧金銀を輸して出師及び名護屋築城の役を助成せ

島津義久琉球に書を送る

十月 廿七日 德川家康、岩手澤より古河に歸る

十月 廿九日 德川家康、江戸城に歸る

十月 中 對馬清水山城を築く

十一月 四日 北條氏直歿す年三十

十一月 八日 德川秀忠を參議右近衛中將と爲す

十一月 九日 僧經範寂す年三十三

十一月 十九日 仙石曾繁、伊達政宗に書を遣り淺野長政の言を傳へて蒲生氏郷と和解せしむ

十一月 中 豊臣秀吉、其甥羽柴秀次を繼嗣と爲す

十一月 中 朝鮮、使を明に遣し日本の野心を告ぐ

十一月 中 朝鮮、使を明に遣し日本の野心を告ぐ

羽柴秀次を嗣とす

北條氏直歿す

豊臣秀吉秀次に關白を讓る

十二月 四日 豊臣秀次を内大臣と爲す

十二月 十七日 德川秀忠、京都を發し江戸に歸る

十二月 二十日 豊臣秀吉、豊臣秀次を訓誡す、秀次、誓書を上る

十二月 廿八日 豊臣秀吉、關白を豊臣秀次に讓り、太閤と稱す

文祿 元年 壬辰 皇紀二二五二年 西曆一五九二年 十二月八日改元

正月 三日 豊臣秀吉、諸國の船頭を召寄せ海上の事を問ひ、証明の用意を爲す

正月 五日 豊臣秀吉、証明動員令を下し部署を定む

正月 十八日 豊臣秀吉、小西行長、宗義智をして進發し朝鮮の状況を探らしめ、毛利輝元、黒田長政、加藤清正等は對馬にありて其報告を待つて動かさむ

正月 廿六日 天皇、聚樂第に行幸あり

正月 廿八日 天皇、聚樂第より還幸あり○左大臣近衛信輔罷む

正月 廿九日 關白内大臣豊臣秀次を左大臣と爲す

二月 二日 德川家康、江戸城を發す

二月 七日 德川家康、駿河清見寺に抵る

二月 十六日 德川家康、京都に入る

二月 廿三日 東國衆、京都に入る

二月 廿七日 豊臣秀吉、書を黒田長政、毛利吉成、鍋島直茂等に與へて、對馬、壹岐に在陣

せしめ、又加藤清正は進んで朝鮮近島に屯し、以て共に小西行長、宗義智の報

出兵令を出す

聚樂第行幸

証明動員令を下す



名護屋城成る

を待たしむ○島津義弘、大隅栗野を發し肥前名護屋に向ふ

二月中 肥前名護屋城成る

三月一日 豊臣秀吉、眼疾あり出師を延期

三月四日 加藤清正等、肥前名護屋を發し壹岐に航す

三月十二日 小西行長、壹岐、平戸、有馬、大村の兵を率ゐて對馬に航し、船を府中浦に泊す

朝鮮進發部署を定む

三月十三日 豊臣秀吉、朝鮮進發の部署を定め(第一番)小西行長、宗義智、松浦鎮信等、

(第二番)加藤清正、鍋島直茂、相良親房等、(第三番)黒田長政、大友義統等、

(第四番)島津義弘、毛利秀元、高橋元種等、(第五番)福島正則、長曾我部元親、

峰須賀家政等、(第六番)小早川隆景、立花宗茂、毛利秀包等、(第七番)毛利輝

元、(第八番)宇喜多秀家、(第九番)織田秀信、羽柴秀勝、總軍十萬八千七百人

に達す、此外、九鬼嘉隆、加藤嘉明、藤堂高虎等を水軍と爲し沿海を襲撃せし

め、徳川家康、前田利家、織田信雄、上杉景勝、蒲生氏郷、伊達政宗、佐竹義

宣等を肥前名護屋本營に留む

三月十七日 徳川家康、上杉景勝、佐竹義宣京都を發す

三月廿六日 豊臣秀吉、京都を發して名護屋に向ふ

四月六日 島津義弘、借船にて渡海せる事を新納忠元に報ず

四月十日 九鬼嘉隆、藤堂高虎、加藤嘉明、脇坂安治等、水軍の諸將、肥前名護屋に會し

豊臣秀吉京都を發す

水軍の將名

護屋に會す

て軍の規約を定む

四月十一日 豊臣秀吉、廣島に至る

四月十二日 小西行長等、對馬大浦を發して朝鮮に赴く

四月十三日 小西行長、釜山城に達し攻めて之を陥れ、尋で多太浦、西生浦を抜く

四月十四日 小西行長、東萊城を抜く

四月十五日 小西行長、機張及び水軍營を陥る

四月十六日 小西行長、進んで梁山を取る

四月十七日 小西行長等、鵝院の險を越え、進んで密陽を抜く○加藤清正、鍋島直茂等釜山

に到る

四月十八日 加藤清正、梁山に著し、進んで彦陽を陥る○黒田長政、大友義統等、安骨浦に

上陸し、進んで金海城を奪ふ

四月十九日 豊臣秀吉、豊前小倉に抵る

四月二十日 小西行長、大邱城を陥る○加藤清正等、慶州城を抜く○北條氏房歿す年二十八

四月廿一日 豊臣秀吉、筑前名島に抵る

四月廿二日 宗義智、仁同城にあり鮮民安堵の令を出す

四月廿三日 加藤清正、永川に到る

四月廿四日 豊臣秀吉、筑前深江に次して、書を細川忠興に與へ、羽柴秀勝と共に行營を壹

岐勝本に築かしむ○小西行長、尙州に入り巡邊使李鑑を走らし、忠清道の忠州

加藤清正彦陽を陥る

鮮民安堵の令を出す



豊臣秀吉肥前に至る  
外征軍の濫妨狼藉を禁ず

に向ふ

四月廿五日 豊臣秀吉、肥前東松浦郡名護屋城に著す○黒田長政等、昌原を抜く

四月廿六日 豊臣秀吉、將に渡海せんとして毛利輝元に六端帆の渡船九十艘の送附を求め、又外征軍に令して濫妨狼藉を禁じ、朝鮮人民をして其生業に安堵せしむ○小西行長等、咸昌、開慶を徇へ、烏嶺の險を踰ゆ○加藤清正等、龍宮豊津を渡る

四月廿七日 小西行長、宗義智、忠州に進み朝鮮軍と彈琴臺下に戦ひて之を破る○我水軍、釜山港に入る

四月廿八日 加藤清正、小西行長と忠州に會す○島津義弘、對馬名室港を發し朝鮮に向ふ

諸將京城政略を軍議す

四月廿九日 小西行長、加藤清正、松浦鎮信、鍋島直茂等の諸將、忠州の郊外に會して、京城政略を議す

四月中 朝鮮王李昭は新義州に、王子臨海君津、順和君瑋は咸鏡道に走る

五月一日 小西行長、鹽州に至る

京城陷る

五月二日 小西行長、宗義智、漢江を渡りて京城に入る○加藤清正、鍋島直茂、相良長每等相次いで京城に入る

五月三日 羽柴秀勝、細川忠興、壹岐より對馬に進む○宇喜多秀家、釜山に至る○黒田長政、永同に到る○韓將李舜臣、軍艦を率ゐて唐浦前洋に出で我水軍と戦はんとす

五月四日 韓將李舜臣、戰艦八十餘艘を率ゐて巨濟島の東面に我水軍を破る

借錢取締令

五月五日 加藤清正、小西行長と相議し陣を京城外に移すを定め、榜を四方の城門に立て

逃散市民の歸還を促す

五月六日 豊臣秀吉、書を北政所に送る○宣祖、兵を率ゐて安城龍泉を経て鳳山に至る

五月七日 黒田長政、京城に入る

五月八日 宇喜多秀家、京城に入る○宣祖、平壤に入る

五月十二日 豊臣秀吉、借錢取締令を出す○朝鮮王李昭、金命元をして臨津江より進んで京城を恢復せしめんとす

五月十三日 小西行長、坡州の陣に僧天荆を召して、朝鮮に遣るべき講和文代作を命ず

講和書を遣す

五月十五日 小西行長、柳川調信に命じて講和書を朝鮮軍に遣る

五月十六日 豊臣秀吉、書を小早川隆景に下して親しく渡海すべき事を告げ、渡船及び御座所の準備を命ず○柳川調信、又書を朝鮮軍に送りて和を勸む

五月十七日 柳川調信、小西行長の陣に到り、講和の事を報告す

豊臣秀吉意氣揚る

五月十八日 臨津江の朝鮮軍、江を渡りて我水軍を圍む、我水軍奮撃之を破る○豊臣秀吉、京城陥落の報に接し、意氣昂揚、大陸經略の大方針を定め、豊臣秀次に出陣の注意を與ふ

諸軍泗川に進む

五月廿七日 我諸軍、泗川、昆陽に進む○朝鮮水軍、露梁に退く

五月廿九日 原田孫七郎等、豊臣秀吉の親書を持し比律賓に著して其書を太守に捧呈す○我諸軍、開城に入る



石田三成等  
渡鮮す

水軍再敗す

平壤陥る

六月 一日 加藤清正、開城より書を豊臣秀吉に贈り、咸鏡道に向ふ旨を告ぐ  
 六月 二日 豊臣秀吉、在韓諸將に書を與へ渡海延期を報ず  
 六月 三日 豊臣秀吉、更に石田三成、増田長盛、大谷吉隆を朝鮮に遣して一切の行政、軍令の執行及び監察に當らしめ、又在韓諸軍の部署を定め、進んで明を討たしむ  
 六月 四日 徳川家康、前田利家、豊臣秀吉の渡海延期の理由を在韓諸將に通告す  
 六月 五日 韓將李舜臣等、我水軍を唐項浦に破りて我戦艦を燒く、來島通之之に死す  
 六月 八日 我軍、大同江邊に至る○大政所發病す  
 六月 九日 豊臣秀吉、朱印狀を上り、明々年鳳駕を明に移し奉るべきを奏す  
 六月 十一日 宣祖、平壤を發し寧邊に走る  
 六月 十三日 天皇、入唐に就き有節和尚召連の勅言あり  
 六月 十四日 梅北國兼、兵を擧げて肥後佐敷城を取り、進んで八代に次す○朝鮮軍、大同江を渡り我軍を襲ふ、黒田長政、宗義智、之を撃破す  
 六月 十五日 黒田長政等、平壤を占領す  
 六月 十七日 梅北國兼、境善左衛門等に殺さる  
 六月 二十日 豊臣秀吉、書を大政所の侍女に與へ、渡海延期の旨を告げ、更に諸寺諸社に生母の爲め、我身を致して平癒立願を行ふ  
 六月 廿四日 加藤清正、鍋島直茂等、永興に到り、朝鮮王子の北走を聞き之を追ふ  
 七月 五日 加藤嘉明、九鬼嘉隆等、巨濟島の西見乃梁に韓將李舜臣を攻む

我水軍連敗す  
我軍明兵を破る

秀吉生母大政所薨す

秀吉京都に還る

伏見城を築く

七月 八日 韓將李舜臣、進んで閑山島附近に我水軍を破り戦艦七十餘艘を燒く  
 七月 十五日 豊臣秀吉、外征諸將に命じ、先づ朝鮮を平定せしめ、來春入明の計をなさしむ  
 七月 十六日 石田三成、増田長盛、大谷吉隆等、京城に著す○我兵、明の援兵租承訓、史儒を平壤外安定館に破る  
 七月 十八日 島津歳久、梅北國兼の事に坐し、島津義弘に攻められて龍ヶ水に戦死す  
 七月 廿一日 鍋島直茂等、咸興に至る  
 七月 廿二日 豊臣秀吉、母の病を聞きて遽に肥前名護屋城を發し上洛の途に就く○豊臣秀吉の生母大政所薨す年八十  
 七月 廿三日 加藤清正、會寧に到り朝鮮王子臨海君、順和君を擒にし、之を淺野長政に報ず  
 七月 廿九日 豊臣秀吉、大坂に著し、大政所の死を聞きて卒倒す  
 七月 中 小早川隆景、吉川廣家、毛利秀包、立花宗茂等、全羅道を攻略す  
 八月 四日 豊臣秀吉、亡母追善供養の爲め、青巖寺を高野山に創立す  
 八月 五日 豊臣秀吉、京都に入る  
 八月 六日 豊臣秀次、大政所の葬儀を大徳寺に行ふ  
 八月 七日 蓮台野にて大政所の火葬を營む、勅使を遣して准三后を贈らる○我諸將、京城會議を開く  
 八月 廿四日 豊臣秀吉、伏見城を築く  
 八月 廿九日 明人沈惟敬、平壤に來り、小西行長と乾伏山の麓に會して和を講じ、五十日間



の休戦を約す

九月 一日 朝鮮水軍、釜山浦を襲ひて克たず

九月 五日 勅使菊亭晴季、勸修寺晴豊、久我敦通、中山親綱を大坂に遣さる

九月 七日 樂燒初代樂長次郎長祐歿す年四十七

太田三樂歿す

九月 八日 太田三樂資正歿す年七十九

九月 九日 勅使菊亭晴季等、豊臣秀吉に面會し肥前名護屋下向を止む○羽柴秀勝、唐島陣中に歿す年二十四

九月十八日 豊臣秀吉、京都に入り直に參内す

九月廿五日 豊臣秀吉、毛利輝元の病氣見舞狀を發し、醫師曲直瀬道三を遣す

秀吉再び名護屋に赴く

十月 一日 豊臣秀吉、大坂を發し肥前名護屋に赴く

十月 二日 長谷川秀一等、晋州を攻めんとし、朝鮮軍と戦ひ咸安に入る

十月 四日 我軍、晋州に逼り、利あらずして退く

十月二十日 繪師狩野直信歿す年七十四

明將朝鮮に向ふ

十月廿七日 明將李如松、李如栢、張世爵、揚元、山海關を發して朝鮮に向ふ

十月三十日 豊臣秀吉、茶人神屋宗湛の邸に赴く

十一月 十日 豊臣秀吉、小早川隆景、鍋島直茂等に書を與へ、明軍來襲の警戒を命ず

十一月十四日 明人沈惟敬、再び平壤に來る

十一月廿一日 我吉州守備兵、朝鮮軍に破らる

本願寺光佐寂す

十一月廿四日 本願寺光佐寂す年五十

十二月 二日 明將李如松の先鋒錢世楨、杵大受等、鴨綠江を渡る

十二月 三日 明人沈惟敬、韓將尹根壽と龍濱館に會見す

十二月 八日 明將李如松、宋應昌と會す

改元

十二月十八日 改元あり

十二月廿四日 明將李如松、兵を率ゐて鴨綠江を渡る

十二月廿五日 明將錢世楨等、肅寧に抵る○豊臣秀吉、黒田長政に書を與へ、明年三月渡海す

べき旨を告ぐ

十二月 中 僧一翁寂す年八十六

是 歲 長崎に奉行所及び代官町年寄等を置く

長騎奉行及代官を置く

文祿 二年 癸巳 皇紀二二五三年 西曆一五九三年

正月 三日 小西行長の臣竹内吉兵衛、順安に至り沈惟敬を迎へ、杵大受の兵に捕へらる

上皇崩御

正月 五日 正親町上皇崩御寶算七十七○明主將李如松、朝鮮軍と合し平壤城西に至りて攻撃を開始す、是夜我車之を逆撃して敗る○豊臣秀吉、蠣崎慶廣をして蝦夷を鎮

せしむ

正月 七日 明、韓兩軍、平壤攻撃の配置成る

正月 八日 明將李如松、牡丹臺を燒き小西行長を平壤に圍む、鳳山守將大友義統遁れ、行

小西行長大敗す

長大敗して退く○明先鋒錢世楨等、大同江を渡る



防守準備

正月 九日 小西行長等、龍泉に抵る○宇喜多秀家、諸奉行と議し、加藤清正の軍を京城に還らしめんとす

正月十一日 平壤の敗報、高陽に達し我諸將防守の準備を爲す

正月十二日 京城留守石田三成、増田長盛等、黒田長政に書を與へて、小早川隆景と共に防守の策を講ぜしむ

正月十三日 明將李如松、書を朝鮮王に致して糧草供給に盡力せざるを責む

正月十四日 大谷吉隆、高陽に至る

正月十六日 明將李如松、進んで開城に至り、一舉にして京城を衝かんとす

正月十八日 小早川隆景、開城を去り坡州に引上ぐ○明將李如松等、開城に入る

正月廿一日 我軍を京城に集む

正月廿四日 勅して公卿を朝堂に會して誥誠十二條を宣告す

正月廿六日 小早川隆景、立花宗茂、吉川廣家、宇喜多秀家、黒田長政等、李如松を碧蹄館に逆撃し、李如松、大敗して平壤に奔る

正月廿七日 明將李如松、開城に還る

正月廿九日 加藤清正、鍋島直茂等、京城に著す

二月 九日 豊臣秀吉、毛利輝元に書を興へ兵糧供給の命を下す

二月十二日 小西行長、黒田長政、石田三成等、幸州山城を攻む

二月十六日 豊臣秀吉、再び書を毛利輝元に興へ、釜山浦にて兵糧を受取らしむ○加藤清正

諸將の配置を宇喜多秀家に命ず

我軍糧食に困しむ

京城撤退令至る

京城撤兵

李如松を開城に破る

二月十八日 豊臣秀吉、平壤の敗報を聞き書を宇喜多秀家に興へ、諸將の配置を命ず

二月廿六日 豊臣秀吉、書を淺野長政に興へ釜山浦にありて兵糧の管理、及び船舶廻送を司らしむ

二月廿七日 豊臣秀吉、書を外征諸將に興へ、近日渡海すべき事を告ぐ○是頃、我軍兵糧に乏しく撤退を議し、又相議して一心協力を誓ふ

三月 三日 在韓の諸將、兵糧運搬の窮状を訴へ、豊臣秀吉の渡海延期を求む

三月十六日 京城在陣の我諸將、楊州方面に兵糧狩に出づ

三月十六日 沈惟敬、西江に至り再び和を乞ふ

四月 三日 豊臣秀吉、朝鮮兵士の逃還取締令を發す

四月 七日 豊臣秀吉の京城撤退命令、京城に達す

四月 十日 沈惟敬、京城に来る

四月十一日 豊臣秀吉、淺野長政に書を興へ渡海船廻送の敏活を圖らしむ

四月十二日 豊臣秀吉、在韓諸將に書を興へ、自らの渡海を見合せ食糧を輸送し、且つ晋州城を屠り要地に築城して持久の計をなさしむ○小西行長、沈惟敬と龍山に會して和を定む

四月十七日 小西行長、釜山に至る

四月十八日 我軍、京城より撤退す



和平條約條件

加藤清正晋州城を圍む

二王子を還す

明使名護屋に著す

四月二十日 明兵、京城に入る  
 四月廿八日 加藤清正、尙州より書を釜山の伊達政宗に發し、朝鮮二王子の保護を依託す  
 四月 中 豊臣秀次、六國史、類聚三代格、百練鈔を獻す  
 五月 一日 豊臣秀吉、淺野長政、黒田孝高、増田長盛等に書を與へ晋州城攻圍を命じ、亦明國との和平條件を發す  
 五月 七日 我諸將、釜山、熊川、晋川等の諸城に分屯す  
 五月 八日 石田三成、増田長盛、大谷吉隆、小西行長等、講和條約の締結に周旋すべく明人沈惟敬を釜山に留め、名護屋に歸る  
 五月十五日 明使謝用梓、徐一貫等肥前名護屋に著す、徳川家康、前田利家、之を接待す  
 五月十七日 鍋島直茂等、京城を撤退して蔚山に著す  
 五月廿三日 豊臣秀吉、明使を引見し、小西行長等に命じ和議裁條を議せしむ  
 五月 中 朝鮮王李昭、京城に還る  
 五月 中 加藤清正、蔚山西生浦に退く  
 六月 二日 豊臣秀吉、加藤清正に命じて捕虜の朝鮮王子を還さしむ  
 六月 三日 松平景忠歿す年五十三  
 六月 九日 豊臣秀吉、明使を招き舟遊を行ふ  
 六月 十日 豊臣秀吉、明使を招き茶會を開く  
 六月十一日 加藤清正等、諸將をして晋州城を屠り之を降さしむ

媾和條件七條を示す  
晋州城陥る

豊臣秀吉大坂に還る

加藤清正等明軍を敗る

六月二十日 明使沈惟敬、小西如安と共に釜山を發し、京城に赴く  
 六月廿二日 我軍、進んで晋州城に迫る  
 六月廿四日 我諸軍、晋州城を總攻撃す  
 六月廿六日 豊臣秀吉、明使に美酒佳肴を贈る  
 六月廿七日 宇喜多秀家、晋州城内に勸告使を發す  
 六月廿八日 豊臣秀吉、明使に講和條件七條を示し明王に報ぜしむ  
 六月廿九日 加藤清正、小西行長、黒田長政等、晋州城を陥れ主將徐禮元を殺す、李如松、兵を撤して明に還る  
 七月 二日 沈惟敬、小西如安、京城に著す  
 八月 三日 豊臣秀頼、大坂城に生る  
 八月廿五日 豊臣秀吉、肥前名護屋を發して大坂に還る  
 八月廿九日 加藤光泰歿す年五十七  
 九月廿三日 豊臣秀吉、和議を危み、書を立花宗茂に與へ媾和に油斷なく、城々堅固に構ふべきを命ず  
 十月 一日 豊臣秀吉、豊臣秀次の女を豊臣秀頼に娶らしめ、其併立を策す  
 十月十四日 徳川家康、京都を發す  
 十月廿六日 徳川家康、江戸城に歸る  
 十一月 三日 加藤清正、鍋島直茂、安骨城を攻め、明將劉綎の慶州より來援せるを撃破す



徳川家康藤原惺窩を聘す

十一月 五日 豊臣秀吉、原田孫七郎を高山國に遣して入貢を促す  
十一月十五日 小西行長、沈惟敬に書を與へ、背約を責む  
十二月 中 徳川家康、藤原惺窩を聘す  
是 歲 小笠原島發見さる○イソツブ物語譯成る○豊臣秀吉、大友義統の封を除き安藝に流す

文祿三年 甲午 皇紀二二五四年 西曆一五九四年

曲直瀬道三歿す

正月 四日 儒醫曲直瀬道三歿す年八十九 正心集、摘英集、指南鍼灸集、啓迪集、養生物語、雲陣屋夜話、要語集、出燈配劑、捷經辨治集、醫燈配劑、切紙、月用食性

正月 五日 前關白九條種通薨す年八十八 沙彌惠空百首一卷、百人一首抄、饅頭記、源氏物語孟津抄、稱名院右府七十賀記

非熹和運動

正月廿九日 豊臣秀次、大坂に至る  
正月 中 朝鮮、使者を明に遣し方物を進め、非熹和運動をなす

二月 一日 前内大臣勸條寺尹豊薨す年九十二  
二月 九日 大坂城にて本能樂あり

二月十四日 豊臣秀吉、伏見より大坂に移る

二月十五日 豊臣秀次、豊臣秀吉に謁す

二月十九日 豊臣秀吉、大津より伏見に歸る

二月廿五日 豊臣秀吉、大坂を發し吉野に赴く

秀吉等吉野に遊ぶ

二月廿七日 豊臣秀吉、豊臣秀次、徳川家康、前田利家と吉野山に遊ぶ  
三月 二日 豊臣秀吉、吉野より高野山に參詣す

伏見城起工

三月 七日 伏見城の工を起す

三月十四日 徳川家康、伏見築城を巡見す

三月 四日 豊臣秀吉、兵庫を経て大坂城に歸る○淺野長政、甲州領内に百姓保護の制令を出す

三月十七日 豊臣秀吉、大坂より伏見に來り、築城を巡見す

三月十八日 豊臣秀吉、伏見より大坂に歸る

三月二十日 豊臣秀吉、命じて淀城を毀たしむ  
三月 中 明將劉綎、星州より鎮南原に移り、加藤清正と使を交して意を通ず

高野山再興

三月 中 豊臣秀吉、高野山に詣で、金堂以下二十五宇を建立せしむ

四月 二日 豊臣秀次、豊臣秀吉に對面の爲め施藥院に至る

四月 八日 豊臣秀吉、前田利家邸に臨む

四月十一日 豊臣秀吉、鶴を豊臣秀次に贈る

木曾材木改帳を検す

四月廿四日 伏見築城の普請割を定む

四月廿六日 豊臣秀吉、木曾材木改帳を検閱す

四月廿八日 豊臣秀吉、大坂城に於て豊臣秀次、秀頼に面會す

四月廿九日 豊臣秀吉、大坂を發し有馬温泉に赴く  
四月 中 羽柴秀俊歿す年十七



加藤清正明使に面す

四月中 明使僧松雲、加藤清正と西生浦に會見す

五月三日 豊臣秀吉、松浦鎮信に書を與へ在鮮將卒の逃散取締を命ず

五月十二日 豊臣秀吉、有馬温泉より大坂城に還る

六月三日 豊臣秀吉、伏見築城を巡見す

六月五日 豊臣秀吉、徳川家康第に臨む

六月十八日 豊臣秀吉、伏見より大坂に還る

六月廿六日 正親町三條公仲薨す年三十八

七月十六日 本多重次歿す年六十八

七月二十日 和泉堺の人納屋助右衛門、呂宋より歸朝し珍器珍物を豊臣秀吉に獻す

納屋助右衛門呂宋より歸る

七月中 東寺塔成る

七月中 明使僧松雲、再び加藤清正を訪ふ

八月中 朝鮮備邊司、馳啓して國王に加藤清正、小西行長、反間の策を獻す

伏見城成る

八月中 伏見城成る

九月十二日 朝鮮使者、明に到り講和を請願す

九月十五日 大久保忠世歿す年六十三

九月廿九日 明の哨船、唐島を襲ふ、福島正則、之を邀撃して破る

福島正則明軍を破る

九月中 武藏千住大橋成る

小西行長和を議す

十一月中 小西行長、韓將金應瑞と會し和を議す

十一月中 明の遊撃將姚洪等、遼陽に赴き小西如安を迎ふ

十二月四日 小西如安、明に入る

十二月六日 小西如安、北京に入る

十二月十一日 小西如安、鴻臚寺に抵り習禮す

十二月十三日 小西如安、明帝に謁し和議を約す

十二月十七日 該司禮大監張誠等、會極門に於て和議に關する明帝の命を受く

十二月廿七日 豊臣秀吉、豊臣秀頼と共に伏見城に移る

是歲 木綿を明國に得て大和に植う

文祿四年 乙未 皇紀二二五五年 西曆一五九五年

正月五日 細川元定歿す年五十九

正月七日 小西如安、兵部尙書石星に書を致して我諸將の封敍を求む

正月十二日 明遊撃將陳雲鴻、榆川を發す

正月十三日 明將陳雲鴻、小西行長の熊川の營に達す

正月十四日 小西行長、陳雲鴻と會談し商議す

正月廿七日 小西如安、明冊封使李宗城、副使楊方亨と共に北京を發す

二月一日 明遊撃將陳雲鴻、小西行長の營を發す

二月七日 蒲生氏郷歿す年四十四

二月十日 明使婁國安、朝鮮使朴振宗と小西行長の營に到りて之と會見す

小西行長陳雲鴻と商議す

蒲生氏郷歿す

木綿を大和に植う



二月廿二日 陳雲鴻等、楡川に歸著す  
 三月 二日 豊臣秀頼、宮中より劍馬を賜ふ  
 四月十四日 豊臣秀吉、伏見に赴く  
 四月十五日 豊臣秀吉病む  
 四月廿七日 小西行長、沈惟敬と商議す  
 四月三十日 小西行長、歸朝す  
 四月 中 明正使李宗城、小西如安等、京城に至る  
 五月 三日 徳川家康、徳川秀忠を聚樂に留め、京都を發して江戸城に歸る  
 六月廿六日 豊臣秀吉、石田三成、長束正家、増田長盛等を聚樂第に遣して豊臣秀次に七枚の誓詞を捧げしむ

秀次に誓詞を捧げしむ

秀次白銀三千枚を獻す

秀次高野山に謫せらる

六月 中 朝鮮禮曹司李榮春等、書を豊臣秀吉に呈す  
 七月 三日 豊臣秀次、朝廷に白銀三千枚を獻す  
 七月 五日 豊臣秀次、誓詞を豊臣秀吉に納れて異志なきことを陳す  
 七月 六日 島津彰久歿す年二十九  
 七月 八日 豊臣秀次、伏見に來り豊臣秀吉に謁せんとして許されず、高野山に謫せられ姫妾三十人は捕へられ徳永壽昌邸に拘せらる  
 七月 九日 豊臣秀次、奈良に抵る  
 七月 十日 豊臣秀次、高野山青巖寺に入る

諸將忠誠を誓ふ

豊臣秀次切腹

今出川晴季貶せらる

秀次の妾三十八人を斬る

聚樂第を毀つ

七月十二日 増田長盛、石田三成、豊臣秀頼に對する忠誠の誓書を上る○徳川家康、毛利輝元、小早川隆景等、豊臣秀頼を奉載すべきことを誓ふ  
 七月十三日 石田三成、増田長盛、長束正家等、豊臣秀次の罪狀を具し切腹を命ずるの旨を高野山木食興山に通告す○四辻公遠薨す年五十六  
 七月十五日 豊臣秀次、切腹を命ぜらる年廿八  
 七月二十日 前田利家、宇喜多秀家等の諸將、誓書を豊臣秀吉に上る  
 七月廿四日 徳川家康、伏見に抵る  
 七月廿五日 右大臣今出川晴季を越後に貶す  
 七月廿六日 庭田重保薨す年七十一  
 七月 中 豊臣秀吉、前田利家を豊臣秀頼の傳とす  
 八月 二日 故豊臣秀次の夫人藤原氏、姫籠妾等三十八人を三條河原に斬る  
 八月 三日 豊臣秀吉、法令六條、追加九條を公卿、諸將に頒つ  
 八月 十日 明副使楊方亨、京城より釜山に赴く  
 八月十二日 小西行長、副使楊方亨と面會す  
 八月 中 豊臣秀吉、右大臣今出川晴季を越後に流す  
 八月 中 豊臣秀吉、聚樂第を毀つ  
 九月 一日 明正使李宗城、京城を發し釜山に赴く  
 九月十七日 豊臣秀吉、故淺井長政の次女を養ひ徳川秀忠に嫁せしむ



沈惟敬降狀を偽作す

小西行長日本に向ふ

十月 二日 僧宗洞寂す五十二  
 十月 九日 奥平貞勝歿す年八十四  
 十月廿一日 三宅島噴火す  
 十月三十日 明正使李宗城、沈惟敬と會す  
 十一月 一日 小西行長等、明正使李宗城等と會見す  
 十一月 七日 豊臣秀吉病む  
 十一月十七日 豊臣秀吉、不例の爲め不動法を執行さる  
 十一月廿六日 毛利輝元、三上元安を頼浦代官職とし、外征輸糧の事を司らしむ  
 十二月廿一日 明人沈惟敬、豊臣秀吉の降表を偽作す  
 是 歲 宣教師オルガンチーノ等、京都及び肥前大村、有馬に布教す  
**慶長 元年 丙申 皇紀二二五六年 西暦一五九六年 十二月二十七日改元**  
 正月廿三日 五奉行等、更に豊臣秀吉、及び豊臣秀頼に忠誠を誓ふ  
 正月 中 小西行長、沈惟敬等日本に向ふ  
 二月 三日 豊臣秀吉病重し  
 三月 七日 最上義光の兵、小野寺義道の兵と大島に戦ふ  
 三月 八日 豊臣秀吉快癒す  
 三月十三日 増田長盛、豊臣秀吉の命を受け書を吉川廣家に與へて隠岐鉛山を試掘せしむ  
 四月 三日 明正使李宗城逃走す

徳川家康内大臣となる

加藤清正を召還す

明使伏見に至る  
伏見地震

四月三十日 明廷、李宗城を逮捕し、北京にて之を訊問す  
 五月 六日 豊臣秀吉、京都に至る  
 五月 八日 徳川家康を内大臣に、前田利家を大納言と爲す  
 五月 九日 豊臣秀頼、京都に至る  
 五月十三日 豊臣秀頼、参内す  
 五月十五日 豊臣秀吉、参内して恩を謝す  
 五月十七日 豊臣秀吉、豊臣秀頼伏見に還る  
 六月 八日 豊臣秀吉、猿樂を伏見城に張りて庶衆の縦覽を許す  
 六月 九日 加藤清正、豊臣秀吉の召還により釜山を發す  
 六月十三日 今出川秀持薨す年二十二  
 六月十五日 明正使楊方亨等、釜山を發し日本に向ふ  
 六月二十日 水谷正村歿す年七十六  
 六月廿五日 明使沈惟敬等、伏見城に抵る  
 七月十五日 豊臣秀吉、城を山城木幡山に築く  
 閏七月十二日 伏見大地震あり、謹慎中の加藤清正登城し、豊臣秀吉之を引見して意初めて釋く○北野經堂、壬生地藏堂等倒る  
 閏七月十八日 京都に大地震あり  
 閏七月廿三日 京都再び大地震あり



閏七月 中 京洛地方地震連日にして、天變地異多し  
 八月 四日 朝鮮正使黃愼、副使朴弘長等、柳川調信と共に釜山を發す  
 八月 十日 京都地方大地震あり  
 八月 十八日 朝鮮使節黃愼等、和泉堺に着し次で明正使楊方亨等、亦至る  
 八月 廿九日 朝鮮使節黃愼等伏見に至る、豊臣秀吉、朝鮮王子の來らざるを怒り之に面せず  
 九月 一日 明正使楊方亨等、豊臣秀吉に謁して金印及び冕冠を呈す  
 九月 二日 豊臣秀吉、明帝の璽書を讀ましむ、文中に豊臣秀吉を日本國王に封ずるの語あるを以て大いに怒り、和議再び破る  
 九月 三日 明使楊方亨等、堺に至り歸國の途に就く  
 九月 四日 朝鮮使節黃愼等、沈惟敬の衙門に至りて我使者前田立以等と會見す  
 九月 五日 柳川調信、和破れしを告げ明使、朝鮮使節をして速に立去らしむ  
 九月 廿六日 秋月種實歿す年五十二  
 九月 廿八日 西班牙商船、土佐浦戸に漂著す  
 十月 十日 朝鮮使黃愼等、肥前名護屋に至る  
 十月 十五日 加藤清正、呂宋諸島大守に書を送る  
 十月 廿八日 酒井忠次歿す年七十二  
 十月 中 明使沈惟敬等、歸國す  
 十一月 十五日 豊臣秀吉、更に耶蘇教を禁じ教徒二十四人を刑す  
 更に耶蘇教を禁ず

狀報京城に達す

朝鮮再征

東海道傳馬制を定む

出征部署を定む

五人組制度を行ふ

十一月 廿二日 朝鮮使黃愼等、釜山に還る  
 十一月 廿四日 朝鮮使黃愼等、軍官孫儀をして狀報を齎らし、之を京城に告ぐ  
 十二月 七日 小西行長、釜山に抵る  
 十二月 廿七日 改元あり  
 慶長 二年 丁酉 皇紀二二五七年 西曆一五九七年  
 正月 一日 豊臣秀吉、宇喜多秀家、毛利秀元を大將として、再び朝鮮を征せしむ  
 正月 十三日 加藤清正、小西行長、先づ名護屋を發す  
 正月 十四日 加藤清正、朝鮮に入り竹島の舊壘を復し、釜山の戍兵と合し機張に陣し、尋で梁山を攻取し西生浦に入る  
 正月 十七日 僧宗陣寂す年六十六  
 正月 二十日 伏見城の改築を開始す  
 正月 中 東海道、傳馬の制を定む  
 二月 一日 小西行長、釜山の舊營を修し、永留の準備を爲す  
 二月 十三日 尊朝法親王薨す年四十六  
 二月 廿一日 豊臣秀吉、再び出征軍の部署を定む  
 二月 中 明使沈惟敬、楊方亨等北京に歸り、伴て曰く、秀吉封號を拜し冠冕を載き恩を謝すと稱し謝表を撰撰し、私に購ひし貨物を餽遣する什物と稱して之を獻す  
 三月 七日 豊臣秀吉、五人組制を勵行す



上杉景勝を  
會津に封ず

三月 八日 豊臣秀吉、醍醐山に花を觀る  
三月廿一日 加藤清正、朝鮮僧惟政と西生浦陣中に會見して和を議し、四月二十日を期し決  
答すべきを告ぐ、僧惟政之を肯かず  
三月廿四日 長曾我部元親、制令百條を出す  
三月 中 上杉景勝を會津に封ず  
三月 中 朝鮮王李昭、海州に奔る

小早川隆景  
歿す

四月廿六日 豊臣秀頼の京都邸宅を造營す  
五月 九日 明將麻貴、遼陽に抵る  
五月十八日 明將麻貴、遼陽を發し鴨綠江に向ふ  
六月十二日 小早川隆景歿す年六十五  
六月十三日 柳川調信、朝鮮に至りて令を加藤清正、小西行長に傳ふ  
六月十八日 柳川調信、宣寧に來り沈惟敬と會す  
六月 中 韓將金應瑞、小西行長の内報を馳啓す

中國の銀山  
銀子を納め  
しむ

七月 一日 豊臣秀吉、中國の銀山銀子を納めしむ  
七月 二日 明將麻貴、碧蹄館に至る  
七月 六日 韓將朱元均、水軍を率る釜山に向ひ、我軍を撃たんとす  
七月十五日 脇坂安治、藤堂高虎、加藤嘉明等、朝鮮水軍の將朱元均を唐島に迎撃して之を  
破る

小西行長水  
軍を破る

七月十六日 小西行長等、黍川島に朝鮮水軍を襲ひ、朱元均を仆し、朝鮮軍大に潰ゆ  
七月十八日 豊臣秀吉、命じて信濃の善光寺佛殿を京都の大佛殿に移座せしむ

豊臣秀吉親  
征せんとす

八月 一日 宇喜多秀家等の諸軍、南原に向ふ  
八月 四日 小西行長等、泗川南海を抜く○是頃加藤清正、草溪、咸安を通過し、島津義弘  
光陽に入る○大泥國、使を遣し來る  
八月 十日 豊臣秀吉、日本水軍の戦捷を聞き、自ら出征せんとし、毛利氏に書を與へて大  
坂、名護屋の船舶の準備をなさしむ

南原城を抜  
く

八月十一日 柳原淳光歿す年五十七  
八月十二日 先鋒小西行長等、南原城外に至り戦ふ  
八月十三日 我軍、南原城を包圍す  
八月十五日 我軍、南原城を抜く  
八月十六日 我軍、進んで黄石山城を陥る  
八月十八日 西郷家員歿す年四十二  
八月廿六日 足利義昭歿す年六十一

足利義昭  
歿す

八月廿七日 島津義弘、父子金州を發す  
九月 七日 毛利秀元、黒田長政等、明兵を稷山に破る  
九月十三日 豊臣秀吉、南原城陥落の捷報を得、島津義弘等に感状を與ふ  
九月十五日 韓將李舜臣、再び起用され舟師を右水營前洋に集め、進撃を議す